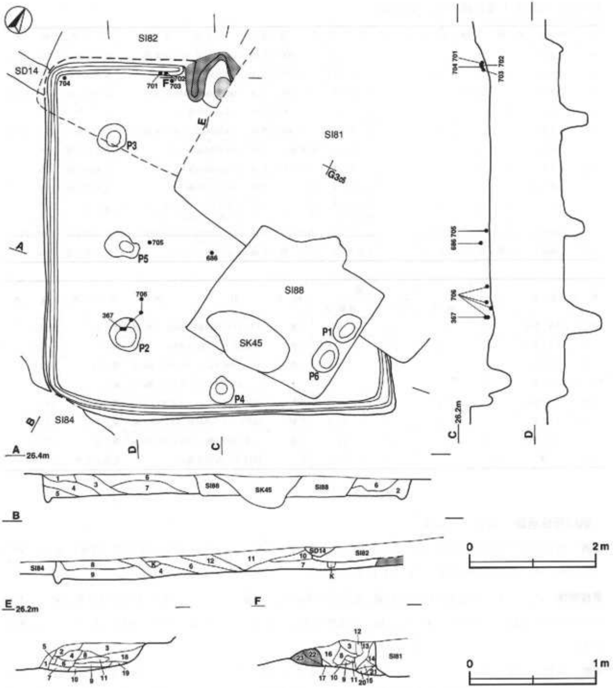
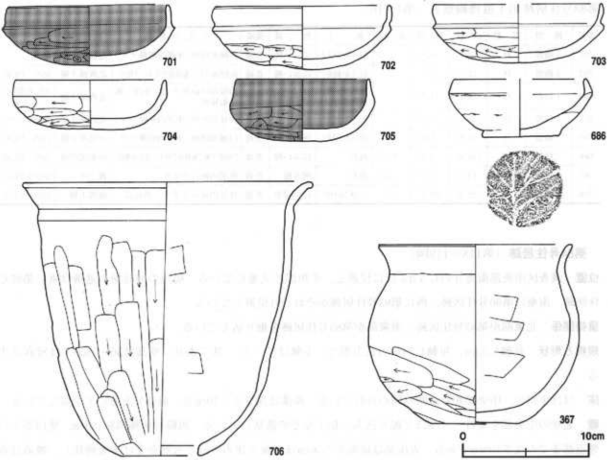


第116図　第83号住居跡実測図

8	灰　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量
9	暗 赤 褐 色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
10	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
11	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
12	黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
13	極暗赤褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・礫微量
14	暗　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15	暗　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
16	暗　褐　色	焼土ブロック少量，粘土粒子微量
17	黒　褐　色	炭化粒子少量，焼土粒子微量
18	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子微量
19	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
20	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
21	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
22	灰 黄 褐 色	粘土粒子多量
23	黒　褐　色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量



第117図　第83号住居跡・出土遺物実測図

ピット　6か所。主柱穴はP1～3で，深さは20～63cmで，各コーナー部寄りに位置し，北東部の柱穴は撹乱のため検出されていない。P4は深さ39cmで，南西壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ35cmであり，主柱穴の間に位置する補助柱穴と考えられる。P6の性格は不明である。

覆土　12層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，ローム粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，ローム粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・ローム粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　極暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
9　極暗褐色　ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片324点（坏122・甕197・甑5），須恵器片16点（坏9・甕7），土製品1点（不明），礫1点が出土している。これらの遺物は北コーナー部と中央部とP2付近の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片39点，弥生土器片4点や撹乱によって混入した瓦片2点が出土している。出土状況から701～703は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第83号住居跡出土遺物観察表（第117図）

番号	種 別	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
701	土師器	坏	12.7	4.3	–	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北西部下層	85%
702	土師器	坏	13.7	5.1	–	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面中位に輪積痕を残すヘラ削り。	北西部下層	65% PL90
703	土師器	坏	[13.2]	(4.7)	–	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部上端に輪積痕。	北西部下層	70% 底部内面タール付着。
704	土師器	坏	12.0	3.9	–	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	门縁部両面，体部内面横ナデ。	北西部下層	98% PL90
705	土師器	坏	10.6	5.0	–	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	中央部下層	75% PL90
686	土師器	坏	[10.6]	4.6	6.0	長石	にぶい橙	普通	口縁部下端に輪積痕を残す。底部木葉痕。	中央部中層	50% PL90
367	土師器	小形甕	15.4	14.2	7.0	長石	明赤褐	普通	胴部内面ヘラナデ。	覆土中	100% PL90
706	土師器	甑	22.8	21.7	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラナデ。単孔式。	南部下層	70% PL90

第84号住居跡（第118・119図）

位置　調査区中央部南寄りのＧ３d5 区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第87号住居跡，南東に第90号住居跡，西に第93号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北東部が第83号住居跡，南東部が第85号住居跡を掘り込んでいる。

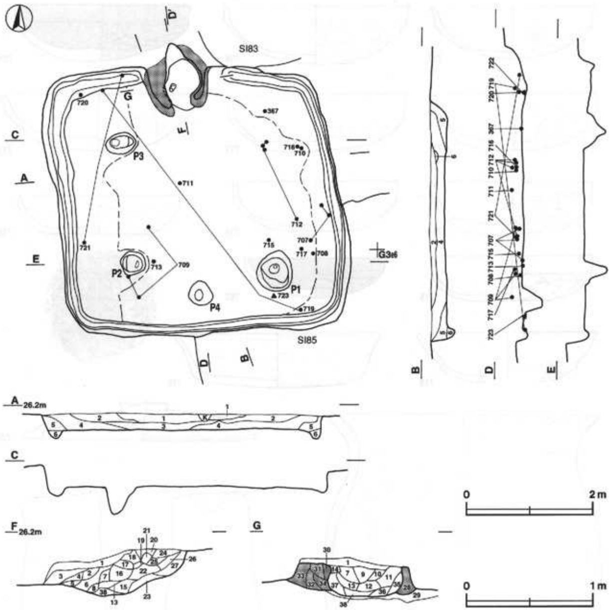
規模と形状　長軸4.53m，短軸4.24mの長方形で，主軸はＮ－５°－Ｗであり，壁高は36～38cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmで，竈部分を除いて全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ37cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅104cm，焚口部から煙道部までの長さ109cmである。火床部は床面から８cmほど掘り窪められ，火熱を受け赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。また，火床部の中央部から土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説

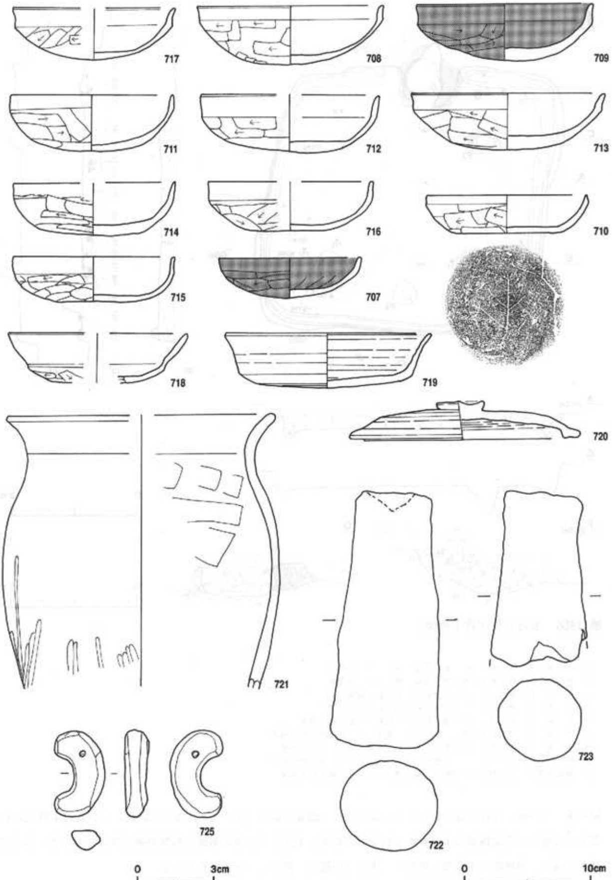
1　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少最
10　極暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
13　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　極暗赤褐色　焼土ブロック中量
15　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
16　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
17　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
18　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
19　黒　褐　色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
20　暗 赤 褐 色　焼土粒子少歌，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
21　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
22　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
23　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
24　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
25　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
26　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
27　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微最
28　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
29　黒　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量



第118図　第84号住居跡実測図

30 黒　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
31 黒　褐　色　粘土粒子・焼土粒子少量，焼土ブロック微量
32 灰　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
33 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
34 黒　褐　色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
35 黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
36 黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
37 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
38 極暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量

ピット　4か所。主柱穴はP1～3で，深さは34～43cmであり，各コーナー寄りに位置している。主柱穴が位置すると思われる北西部の床面精査を行なった結果，木根などがあり明確な形状が確認されなかった。P4は深さ35cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第119図　第84号住居跡出土遺物実測図

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況を示しているが，ロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化材微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化材微量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片986点（坏614・椀1・甕371），須恵器片16点（坏13・蓋1・甕1・甑1），土製品38点（支脚9・不明29），石製品1点（勾玉），鉄製品1点（不明），礫3点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に南東部と北西部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片50点，弥生土器片2点や撹乱によって混入した瓦片1点が出土している。出土状況から707・713・719・722は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第84号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
707	土師器	坏	11.2	3.2	−	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面放射状のヘラナデ。	北西部下層	100% PL90
708	土師器	坏	14.8	4.6	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南東部下層	98%　二次焼成　PL90
709	土師器	坏	14.0	4.5	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南西部中層	98%　二次焼成　PL90
710	土師器	坏	12.7	3.0	7.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部木葉痕を残し，周縁部ヘラ削り。	北西部中層	90%　PL90
711	土師器	坏	12.8	4.5	−	長石・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	75%
712	土師器	坏	[14.0]	4.6	−	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部中層	70%　PL90
713	土師器	坏	15.2	4.5	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南西部床面	70%
714	土師器	坏	[12.8]	4.2	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	覆土中	70%　内面炭化物付着。
715	土師器	坏	12.6	3.6	−	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面輪積痕を残すヘラ削り。	南東部下層	65%　PL90
716	土師器	坏	[13.0]	3.9	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部下層	50%
717	土師器	坏	12.7	4.2	−	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部中層	50%
718	土師器	坏	[14.2]	(3.9)	−	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面丁寧な横ナデ。底部外面ヘラ削り。	覆土中	40%
719	須恵器	坏	16.4	4.3	10.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面ヘラ削り。	中央部中層	80%　PL90
721	土師器	甕	[21.2]	(21.6)	−	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	西部下層	30%
720	須恵器	蓋	18.3	3.0	−	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部ヘラ削り。	北西部下層	100% PL90

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
722	支脚	20.4	8.6	6.0	1070.0	土製	外面ナデ。	竈床面	
723	支脚	(13.9)	7.6	5.7	(604.0)	土製	基部欠損。側面ナデ。	南東部床面	
725	勾玉	4.2	2.0	0.9	8.0	滑石	穿孔1か所。側縁部に研磨痕。	覆土中	PL117

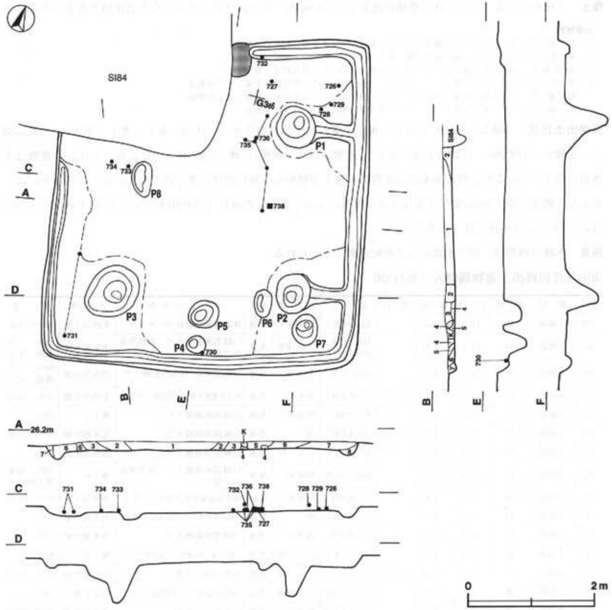
第85号住居跡（第120・121図）

位置　調査区中央部南寄りのＧ３e5区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第95号住居跡，北に第81号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北西部が第84号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.30m，短軸5.02mの方形で，主軸はＮ－９°－Ｗであり，壁高は20～24cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～８cmで，全周していたと考えられる。仕切溝は深さ８cmで，Ｐ1と東壁溝，Ｐ2と東壁溝のそれぞれの間を結んで付設されている。



第120図　第85号住居跡実測図

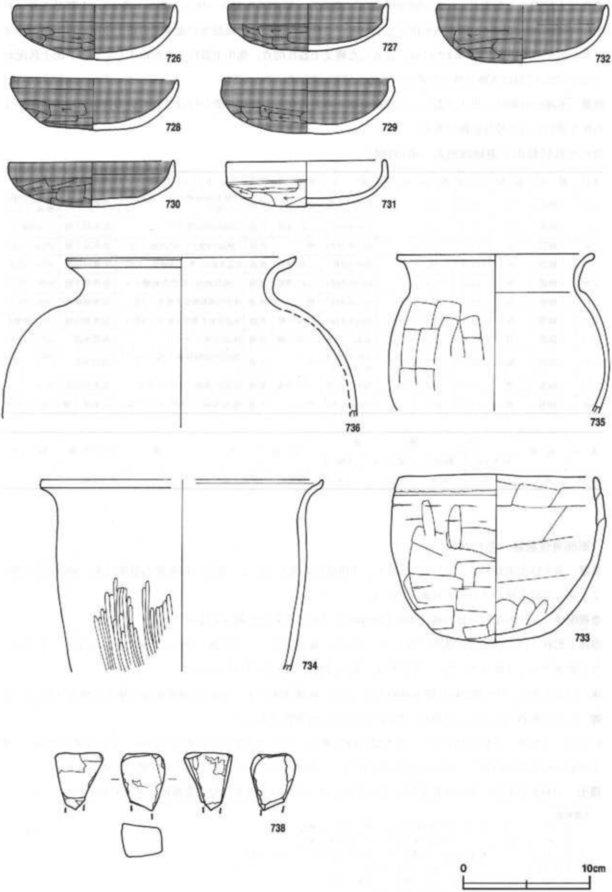
竈　北西部が第84号住居跡に掘り込まれているため，北壁の中央部の様相が確認できなかったが，壁面に白色の粘土塊が確認されたので，北壁の中央部に付設されていたと考えられるが，その規模については不明である。

ピット　8か所。主柱穴はP1～3で，深さは53～63cmであり，各コーナー寄りに位置している。P4・5は深さ33･40cmで，南壁際の中央部に位置し，南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～8の性格は不明である。

覆土　8層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
4　褐　　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・ローム粒子少量



第121図　第85号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片629点（坏236・鉢6・甕387），須恵器片22点（坏5・甕3・蓋4），土製品2点（不明），石器1点（砥石），礫3点が出土している。これらの遺物は中央部及び北東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片62点，弥生土器片1点が出土している。出土状況から731・733・734は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。仕切り溝が付設されている住居跡は当遺跡では本跡と第122・170号住居跡である。

第85号住居跡出土遺物観察表（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
726	土師器	坏	12.8	4.4	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部床面	98%　内面摩滅。PL91
727	土師器	坏	12.5	3.8	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部下層	95% 内面摩滅。PL91
728	土師器	坏	13.2	4.1	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部下層	90%　PL91
729	土師器	坏	13.3	4.4	−	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部木葉痕を残し，周縁部ヘラ削り。	北東部床面	85%　PL91
730	土師器	坏	13.2	3.6	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南西部下層	80%　PL91
731	土師器	坏	12.5	3.4	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面輪積痕を残すヘラ削り。	南西部床面	70%　PL91
732	土師器	坏	13.4	4.6	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	北西部中層	65% 内面摩滅。
733	土師器	鉢	15.6	13.2	−	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内面ヘラナデ。	西部床面	80%　PL91
734	土師器	甑	[29.6]	(20.2)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面輪積痕を残すヘラナデ。	西部床面	10%
735	土師器	甕	15.6	(12.6)	−	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り。	北東部床面	30%
736	土師器	甕	24.0	16.7	−	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。	北東部下層	30%　PL91

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
738	砥石	(4.5)	3.5	2.7	(56.3)	凝灰岩	砥面4面。	東部床面	

第86号住居跡（第122図）

位置　調査区中央部のG3a2区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第81号住居跡，北に第65号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北部が第71号住居跡，中央部が第94号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　西部が調査区域外に伸びているため，確認できたのは長軸3.51m，短軸3.40mである。形状は方形と推測され，主軸はN−22°−Wであり，壁高は28〜37cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ4〜6cmで，調査部分の壁下で検出されている。

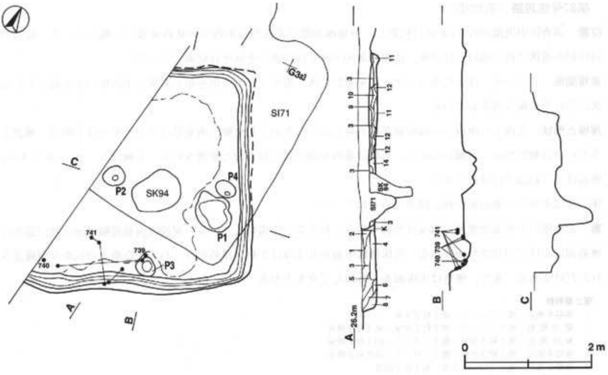
竈　柱穴の配置などから，北西壁に付設されていた可能性がある。

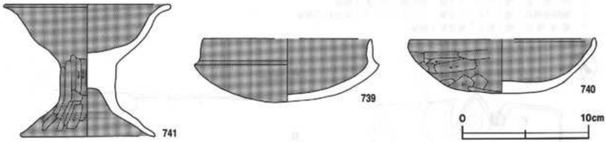
ピット　4か所。主柱穴はP1で，深さは11cmであり，コーナー寄りに位置している。P3は深さ12cmで，南東壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2・4の性格は不明である。

覆土　14層からなる。レンズ状を呈しているが，ロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
6　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子中量，ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量





第122図　第86号住居跡・出土遺物実測図

9　黒　褐　色　ロームブロック微量
10　黒　褐　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量，ローム粒子微量
12　極暗褐色　ローム粒子微量，ロームブロック少量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量
14　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片71点（坏48・甕23），須恵器片２点（坏１・甕１）が出土している。これらの遺物は中央部及び北東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片22点，弥生土器片５点が出土している。出土状況から739・740は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。

第86号住居跡出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
739	土師器	坏	[13.2]	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部から底部外面へラ削り後，ナデ。	南部下層	60%
740	土師器	坏	[14.6]	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部下層	40%
741	土師器	高坏	13.0	10.5	10.5	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	坏部両面ナデ。脚柱内面へラ削り。	南部中層	70%　PL91

第87号住居跡（第123図）

位置　調査区中央部のＧ３e8区に位置し，台地縁辺部で北西から南西への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第84号住居跡，南西に第90・91号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北コーナー部から南コーナー部を第23号溝，南東コーナー部を第６号溝，南西壁の中央部を第15号溝にそれぞれ掘り込まれている。

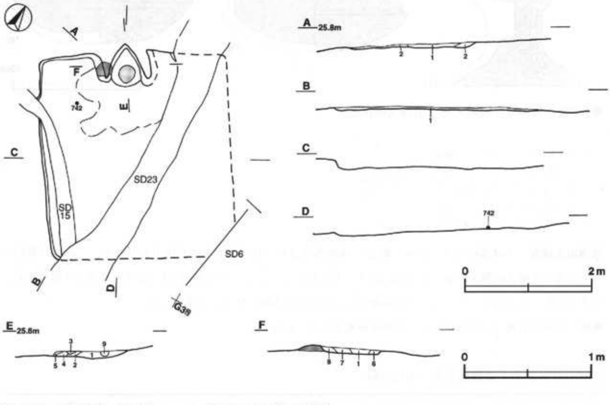
規模と形状　北西から南西への緩斜面部に立地しているため，北東壁と南東壁の立ち上がりは不明で，確認できたのは長軸3.26m，短軸2.97mで，形状は東西方向に長い長方形と推測される。主軸はN－28°－Wであり，壁高は５～13cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，竈前面が特に踏み固められている。

竈　北西壁の中央部を壁外へ24cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅95cm，焚口部から煙道部にかけての長さ70cmである。火床部は床面から４cmほど掘り窪められ，わずかな焼土の広がりが確認されただけである。また，煙道は火床面から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子少量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
3　極暗褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子微量



第123図　第87号住居跡・出土遺物実測図

覆土　2層からなる。覆土は浅いが，西部からの流れ込んだ状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片23点（坏7・甕16），礫1点が出土している。これらの遺物は中央部覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片1点が出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　7世紀後葉と考えられる742が覆土中層から出土していることから，本跡の時期はそれ以前と考えられる。

第87号住居跡出土遺物観察表（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
742	土師器	坏	[11.0]	3.5	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部荒いヘラ削り。	西部下層	55%　PL91
743	土師器	坏	[9.2]	(3.2)	−	長石・石英・小礫・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。下端に輪積痕。	覆土中	35%

第89号住居跡（第124・125図）

位置　調査区中央部のＧ３f８区に位置し，台地縁辺部で北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第85号住居跡，南西に第97号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　東壁を第23号溝，西部を第90号住居跡，南コーナー付近を第296号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　北西から南東への緩斜面部に立地しており，さらに東壁が第23号溝，西部が第90号住居跡にそれぞれ掘り込まれているため，東壁の立ち上がりは不明であり，確認できた長軸4.40m，短軸4.05mで，形状は方形または長方形と推測され，主軸はN－23°－Eであり，壁高は12cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，竈前面が特に踏み固められている。北西から南東への緩斜面部に立地しているため，東部の床面はわずかに東への傾斜を示している。

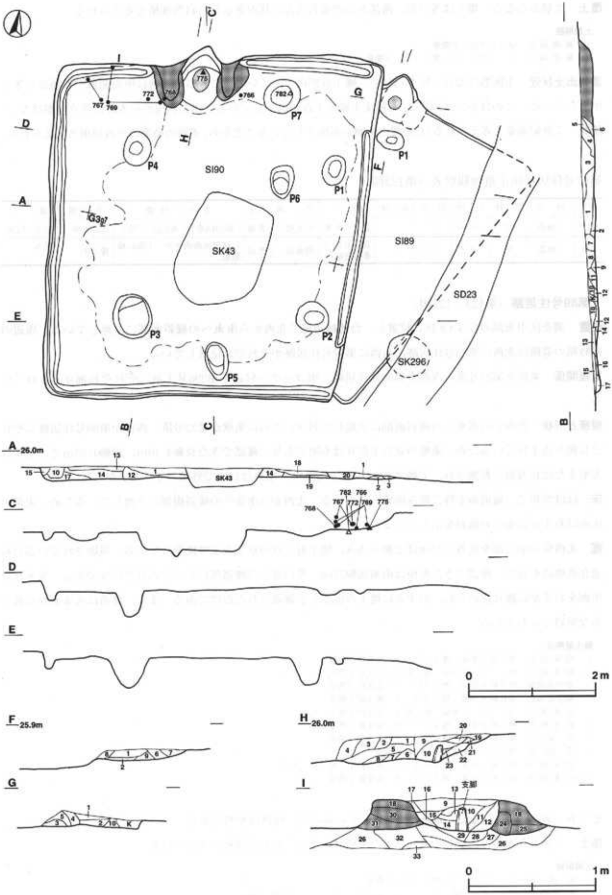
竈　北西壁の中央部を壁外へ34cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。破壊されているため遺存状態は不良で，確認できた規模は両袖部幅77cm，焚口部から煙道部にかけての長さ77cmである。火床部は床面をわずかに掘り窪められ，わずかに焼土の広がりが確認されただけである。また，煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

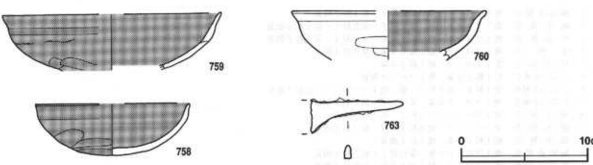
ピット　P1は深さ14cmで，竈前面に位置しているので，性格は不明である。

覆土　3層からなる。西からの流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量



第124図　第89・90号住居跡実測図



第125図　第89号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片537点（坏312・甕225），須恵器片34点（坏16・蓋6・甕12），土製品30点（支脚3・不明27），鉄製品2点（刀子・不明），鉄滓1点，礫1点が出土している。これらの遺物は竈周辺と北壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片29点が出土している。出土状況から760は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀中葉と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
758	土師器	坏	[12.2]	4.1	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	30%　PL91
759	土師器	坏	[17.4]	(4.4)	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部外面ヘラ削り。体部外面輪積痕。	覆土中	5％
760	土師器	坏	[15.4]	(3.9)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	P1覆土中	5％

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
763	刀子	(7.1)	(2.2)	0.5	(15.6)	鉄	両関。刀身部欠損。	覆土中	

第90号住居跡（第124～126図）

位置　調査区中央部南寄りのG3f7区に位置し，台地縁辺部で西から東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第87号住居跡，西に第93号住居跡，北西に第84号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　東部が第89号住居跡を掘り込み，中央部を第43号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.69m，短軸4.98mの長方形で，主軸はN−14°−Wであり，壁高は10～32cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ8～12cmで，東壁下の一部を除いて全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ33cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅148cm，焚口部から煙道部までの長さ104cmである。火床部は床面を4cmほど掘り窪められ，火熱を受け赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。袖部は大きく地山面を掘り窪められ，焼土ブロック・炭化粒子を含む黒褐色土及び暗褐色土で埋土をして，平坦部を作りその上に焼土の混じった粘土で袖部を構築しており，内壁も火熱を受けて赤変硬化している。また，火床部から土製支脚が立位で出土している。袖部は袖部下が掘り窪められ，焼土混じりの粘土で構築されているので，作り替えが行なわれたと考えられる。土層断面図中，第25～33層は掘方の埋土である。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量

3	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
8	にぶい赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量
9	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
11	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12	暗赤褐色	焼土ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
13	暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子微量
14	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
15	極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
16	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量
17	黒褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量
19	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
20	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
21	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
22	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
23	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
24	暗赤褐色	焼土粒子少量，焼土ブロック微量
25	黒褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
26	暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
27	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
28	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
28	黒褐色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
29	赤褐色	焼土粒子多量，焼土ブロック少量
30	黒褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
31	黒褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
32	極暗褐色	焼土ブロック微量
33	黒褐色	焼土ブロック微量

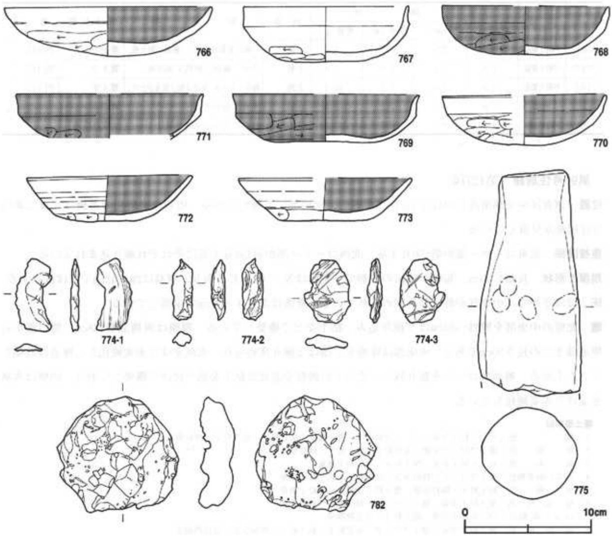
ピット　７か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは44～47cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ５は深さ14cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７の性格は不明である。Ｐ７は覆土中から土師器坏片と椀状滓が出土している。

覆土　20層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック微量
3	極暗褐色	ローム粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4	極暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
6	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
8	極暗褐色	ローム粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
11	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
12	黒褐色	ロームブロック微量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
14	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
16	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
17	極暗褐色	ローム粒子微量，ロームブロック微量
18	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
19	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
20	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片924点（坏616・椀３・鉢１・甕304），須恵器片15（坏４・鉢１・蓋２・甕８），土製品21点（支脚３・不明18），椀状滓５点，礫４点が出土している。これらの遺物は北部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。椀状滓の出土したＰ７から土師器坏が出土している。このほかには，混入した縄文土器片33点，弥生土器片４点や，撹乱によって混入した陶器片１点が出土している。出土状況から766・767・770は本跡に伴うと考えられ，722・773は混入したものと考えられる。



第126図　第90号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。また，椀状滓がP７の覆土中と北東コーナー部の覆土下層から５点出土しているが，P７から９世紀後半の土師器坏片が出土し，本跡を掘り込んでいる第43号土坑の覆土中からも同時期の口縁部内面に油煙の付着している土師器坏片が出土していることなどから，９世紀後半の鍛冶工房施設との重複も考えられる。

第90号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
766	土師器	坏	16.3	4.0	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	98%　PL91
767	土師器	坏	13.0	4.4	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北西部中層	98%　PL91
768	土師器	坏	[13.1]	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部中層	65%
769	土師器	坏	[14.7]	3.8	[7.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北西部中層	45%
770	土師器	坏	[12.8]	4.0	－	長石・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部外面輪積痕。	北部下層	30%
771	土師器	坏	[14.8]	(3.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	覆土中	20%
772	土師器	坏	13.0	3.6	5.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面ヘラ削り。	北部中層	85%　PL91
773	須恵器	坏	[13.6]	3.3	6.8	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部外面一定方向のヘラ削り。	覆土中	40%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
774①	不明土製品	5.7	2.8	0.7	5.7	土製	一面に木葉痕を残し，裏面に削り痕。	覆土中	PL115
774②	不明土製品	4.8	1.6	1.0	5.8	土製	ナデ。裏面に棒状工具圧痕。	覆土中	PL115
774③	不明土製品	5.0	3.6	1.1	10.4	土製	棒状工具圧痕。裏面は削り痕及びナデ。	覆土中	PL115
775	支脚	(17.8)	8.2	7.2	(842.0)	土製	ナデ，指頭痕。	竈床面	
782	椀状滓	9.2	9.7	2.7	343.0	鉄	外面に大小の気泡多数。	北東部床面	

第91号住居跡（第127図）

位置　調査区中央部南寄りのＧ３f5区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第75号住居跡が位置している。

重複関係　北東コーナー部が第156号土坑，北西コーナー部が第159号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

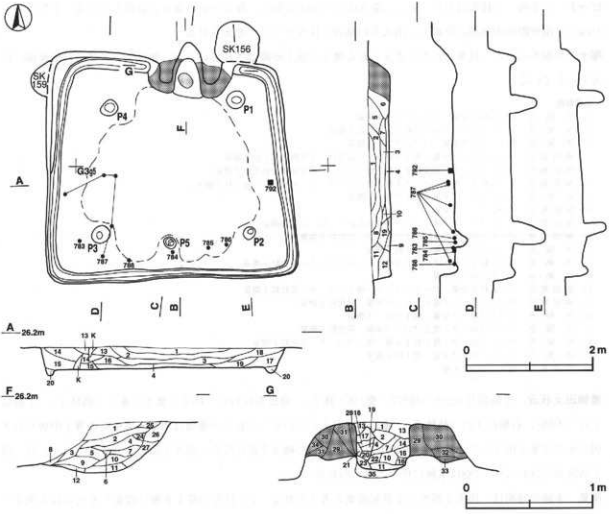
規模と形状　長軸4.00m，短軸3.88mの方形で，主軸はＮ－４°－Ｅであり，壁高は28～42cmでほぼ直立する。

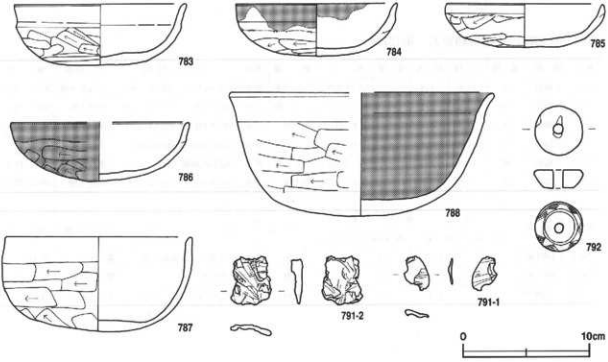
床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ４～６cmで全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ34cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅138cm，焚口部から煙道部までの長さ90cmである。火床部は床面を７cmほど掘り窪められ，火熱を受け赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。袖部はロームを掘り残し，その上に砂粒を混ぜた粘土を貼り付けて構築しており，内壁は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　褐色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2　灰褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒少量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　灰褐色　粘土粒子・砂粒中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量
7　にぶい暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
8　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
9　にぶい暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土ブロック微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
12　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　灰褐色　粘土粒子・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
14　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
16　極暗赤褐色　炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
18　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
19　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
20　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
21　暗褐色　粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
22　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
23　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
24　暗赤褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
25　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，炭化物微量
26　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
27　暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
28　暗赤褐色　焼土ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
29　灰黄褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
30　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
31　黒褐色　粘土粒子・砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
32　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・礫・砂粒微量
33　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
34　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
35　褐色　炭化粒子・ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量





第127図　第91号住居跡・出土遺物実測図

ピット　5か所。主柱穴はP1～4で，深さは33～50cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ21cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　20層からなる。投棄されたと考えられる焼土や粘土が確認されているが，他はレンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化材・炭化物・粘土粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
8　極暗褐色　ロームブロック少量
9　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
10　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
12　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量
14　極暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
16　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
17　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
18　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
19　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
20　暗赤褐色　焼土ブロック中量

遺物出土状況　土師器片422点（坏277・甕138・鉢7），須恵器片11点（坏6・甕2・蓋2・高坏1），土製品7点（不明），石製品1点（紡錘車），礫12点が出土している。これらの遺物は南部と東壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片67点，弥生土器片3点が出土している。出土状況から784・785・788は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。P5付近の覆土下層に投棄と考えられる焼土や粘土が確認されている。

第91号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
783	土師器	坏	13.6	4.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南西部下層	95%　PL91
784	土師器	坏	12.8	4.1	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部下層	98%　PL91
785	土師器	坏	12.4	3.4	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部下層	85%　PL92
786	土師器	坏	[14.0]	(4.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部下層	60%
787	土師器	椀	14.6	7.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南西部下層	85%　PL92
788	土師器	鉢	[20.6]	9.8	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部下層	60%　PL92

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
791①	不明土製品	2.7	2.0	0.4	1.2	土製	両面ヘラ削り，端部折り返し。	覆土中	PL115
791②	不明土製品	3.9	3.3	1.0	7.7	土製	棒状工具圧痕。	覆土中	PL115
792	紡錘車	3.9	1.4	0.7	34.4	粘板岩	側面鋸歯文状の線刻。上面，下面は無文。	東部下層	PL117

第92号住居跡（第128図）

位置　調査区中央部南寄りのＧ３e2 区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第85号住居跡，北に第86号住居跡がそれぞれ位置している。北部と西部が調査区域外に伸びている。

規模と形状　北部と西部が調査区域外へ伸びるため，確認できたのは長軸3.44m，短軸1.39mで，形状は長方形又は方形と推測され，主軸はＮ－83°－Ｅであり，壁高は22～25cmでほぼ直立する。

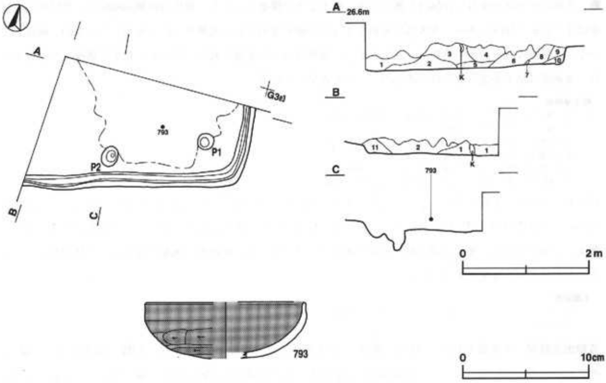
床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ４～６cmで，確認された部分の壁下で検出されている。

ピット　２か所。主柱穴はＰ1で，深さは26cmであり，コーナー寄りに位置している。Ｐ2は深さ35cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　11層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
5	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，ロームブロック・炭化材微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化材微量
7	褐色	ロームブロック多量
8	暗褐色	ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化材微量



第128図　第92号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片86点（坏36・甕50），須恵器片５点（坏１・甕４）が出土している。これらの遺物は南東部覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片13点や，撹乱によって混入した陶器片２点，瓦片２点が出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。
所見　７世紀中葉と考えられる793が覆土中層から出土していることから，本跡の時期はそれ以前と考えられる。確認された部分がわずかであり全容は不明である。

第92号住居跡出土遺物観察表（第128図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
793	土師器	坏	[12.6]	(4.4)	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	中央部中層	25%

第95号住居跡（第129図）

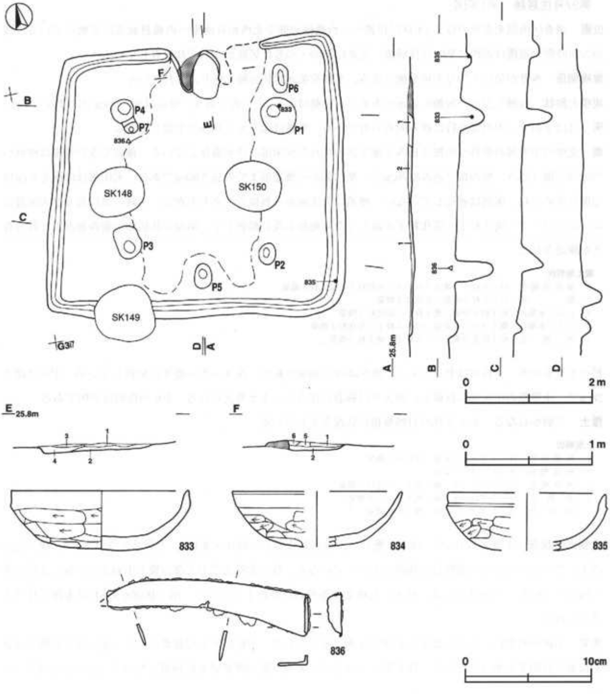
位置　調査区南部東寄りのＧ３h7区に位置し，台地縁辺部で北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第97号住居跡，西に第99号住居跡，北に第89号住居跡がそれぞれ位置している。
重複関係　中央部を第148・150号土坑，南壁を第149号土坑にそれぞれ掘り込まれている。
規模と形状　北西から南東への緩斜面部に位置しているため，東壁の立ち上がりは不明で，確認できたのは長軸4.71ｍ，短軸4.16ｍで，形状は長方形と推測されている。主軸はＮ－11°－Ｗであり，壁高は12～18cmで外傾して立ち上がる。
床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～12cmで全周している。
竈　北壁の中央部を壁外へ10cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅80cm，焚口部から煙道部までの長さ76cmである。火床部は床面を４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変しているが，硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部はロームを掘り残し，その上に粘土で構築したと考えられ，東袖部は粘土が削り取られて基部のロームが露呈している。

竈土層解説
1　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　７か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは34～58cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ５は深さ31cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６・７の性格は不明である。
覆土　２層からなる。覆土は部分的に床面が露呈するほど薄いが，北西から南東へ流れ込んだ状況を示していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片122点（坏54・甕68），須恵器片１点（坏），土製品２点（不明），鉄製品１点（鎌），礫２点が出土している。これらの遺物はＰ１や竈周辺の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片14点が出土している。出土状況から833は本跡に伴うと考えられる。
所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。



第129図　第95号住居跡・出土遺物実測図

第95号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
833	土師器	坏	14.2	4.6	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	P１中層	98%　PL92
834	土師器	坏	[13.4]	(4.4)	−	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面, 体部内面横ナデ。	覆土中	30%
835	土師器	坏	[12.4]	(4.5)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	25%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
836	鎌	(16.1)	2.4	0.25	(48.4)	鉄	柄付部全面折り曲げ。	西部中層	PL118

第97号住居跡（第130図）

位置　調査区南部東寄りのＧ３ｉ4 区に位置し，台地縁辺部で北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第99号住居跡，北東に第89・95号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　西壁が第77・79号土坑を掘り込み，東部を第98号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.23m，短軸5.15mの方形で，主軸はＮ－５°－Ｗであり，壁高は30～40cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmで全周している。

竈　北壁の中央部の壁外への掘り込みと掘り窪められた火床部だけが遺存している。確認できた規模は壁外へ20cmほど掘り込み，壁の掘り込み幅70cmで，焚口部から煙道部までの長さ80cmである。火床部は床面を６cmほど掘り窪められ，床面は硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。本跡の焚口部及び火床部はロームブロック・焼土粒子・炭化粒子が混じった暗褐色土及び褐色土で，第98号住居跡の竈西袖部下で作り替えが確認された。

竈土層解説
1　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　褐　　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　６か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは19～38cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ5 は深さ28cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ6 の性格は不明である。

覆土　５層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

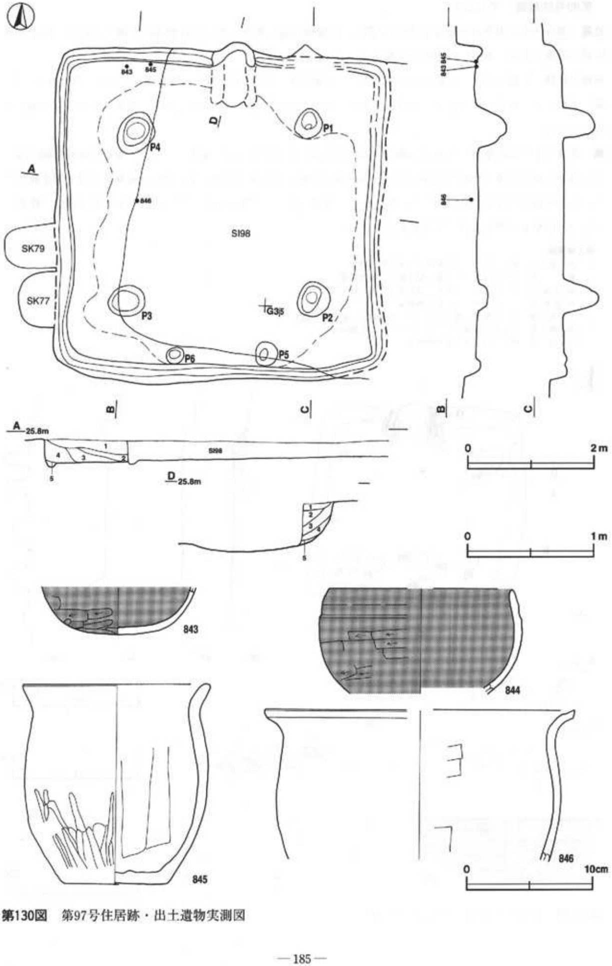
土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片168点（坏53・甕115），須恵器片27点（坏16・甕11），土製品５点（支脚），礫３点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に北壁及び中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片49点が出土している。出土状況から845は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。本跡が６世紀後葉に対して第98号住居跡が８世紀前葉と時期差があることから，作り替えではなく，床面や竈の構築材を再利用したのではないかと考えられる。

第97号住居跡出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
843	土師器	坏	－	3.7	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	体部内面横ナデ。	北部床面	40%
844	土師器	椀	[14.5]	(8.3)	－	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	覆土中	20%
845	土師器	小形甕	14.8	15.8	[8.2]	長石・雲母	橙	普通	体部内面縦方向のヘラナデ。	北部床面	80% 外面煤付着。PL92
846	土師器	甕	[24.6]	(11.8)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラナデ。	中央部下層	10%



第130図　第97号住居跡・出土遺物実測図

第99号住居跡（第131図）

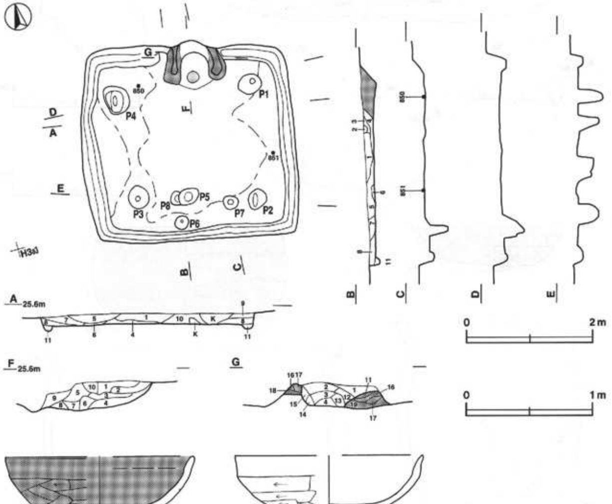
位置　調査区南部東寄りのＧ３ｊ3区に位置し，台地縁辺部で北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第97号住居跡が位置している。

規模と形状　長軸3.23ｍ，短軸3.02ｍの方形で，主軸はＮ－18°－Ｅであり，壁高は８～34cmでほぼ直立する。

床　木根による撹乱を受けているがほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ４～６cmで全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ10cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅86cm，焚口部から煙道部までの長さ77cmである。火床部は床面から３cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部はロームを掘り残し，その上に粘土を貼り付けて構築しており，内壁も火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説
1　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　褐色　ロームブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
3　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
7　暗褐色　焼土ブロック・炭化物微量



第131図　第99号住居跡・出土遺物実測図

8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
9　暗　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
10　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
11　極暗赤褐色　粘土粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
14　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量
15　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・粘土粒子微量
16　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
17　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
18　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
19　黒　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・礫微量

ピット　8か所。主柱穴はＰ1～4で，深さは26～42cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ5・6は深さ37・26cmで，中央部から南壁寄りに位置し，南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられ，Ｐ5がＰ8を掘り込んでいるため出入り口施設のピットの作り替えが考えられる。Ｐ7の性格は不明である。

覆土　11層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量
7　極暗褐色　ローム粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片201点（坏105・甕95・不明1），須恵器片8点（坏6・蓋1・甕1），土製品1点（不明），礫2点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に南西コーナー付近の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片39点が出土している。出土状況から850・851は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットは同様のものが第51～53号住居跡などに見られる。

第99号住居跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
850	土師器	坏	[14.8]	5.2	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	60%　PL92
851	土師器	坏	[15.0]	4.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	東部下層	40%

第108号住居跡（第132図）

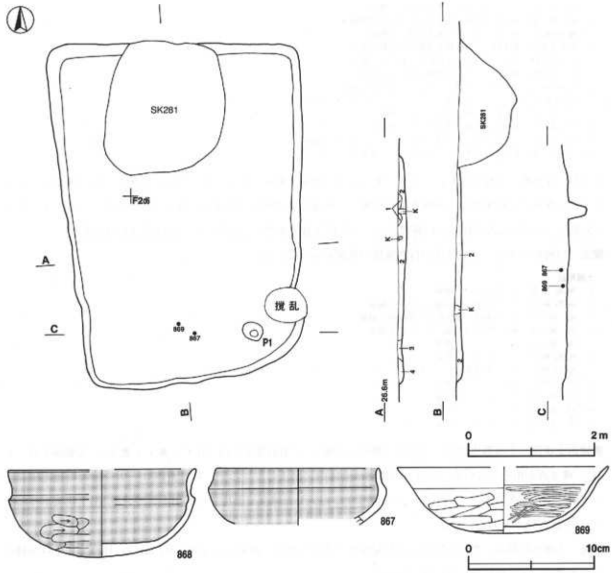
位置　調査区中央部のＦ２c6区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第143号住居跡が位置している。

重複関係　北壁の中央部が第281号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.50ｍ，短軸3.55ｍの長方形で，主軸はＮ－３°－Ｗであり，壁高は６～10cmで外傾して立ち上がる。竈は第281号土坑によって削平されたと考えられる。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。

ピット　1か所。主柱穴はＰ1で，深さは28cmであり，南東コーナー寄りに位置している。



第132図　第108号住居跡・出土遺物実測図

覆土　4層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　極 暗 褐 色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片34点（坏11・椀4・甕19）が出土している。これらの遺物は中央部南寄りの覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片28点，弥生土器片4点が出土している。出土状況から867は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から6世紀前半と考えられる。

第108号住居跡出土遺物観察表（第132図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
867	土師器	坏	12.8	(4.5)	−	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。	南部中層	60% PL92
868	土師器	坏	[14.8]	7.0	−	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	覆土中	30%
869	土師器	坏	[16.8]	5.2	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面丁寧な横ナデ。	南部中層	50% 底部内面剝離。

第110号住居跡（第133図）

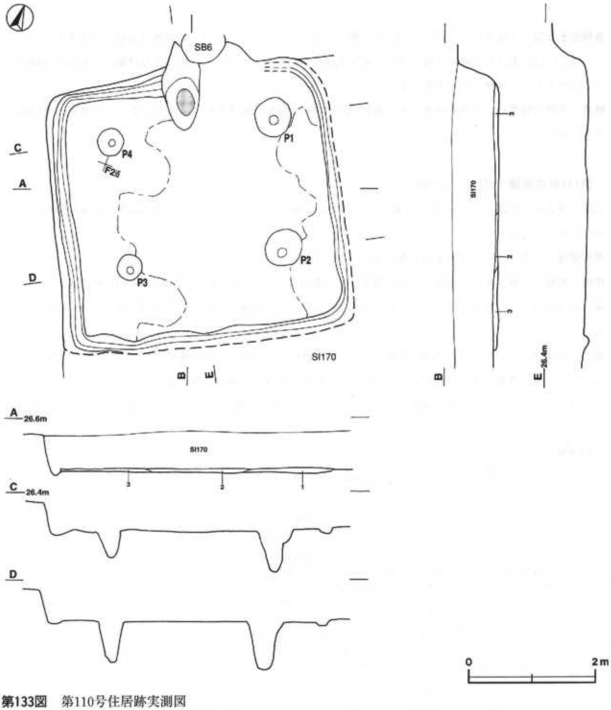
位置　調査区中央部のＦ２h5 区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第177号住居跡，南西に第172号住居跡がそれぞれ位置している。

確認状況　第170号住居跡の北西部の床面下８cmから壁溝の痕跡を確認し調査を進めたところ，硬化した床面と壁溝が全周したので住居跡とした。

重複関係　第170号住居跡・第６号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.67m，短軸4.27mの方形，主軸はＮ－25°－Ｗであり，壁高は53cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ８～12cmで全周している。竈西脇から南コー



第133図　第110号住居跡実測図

ナー部にかけては第170号住居跡の壁溝を共有する。

竈 北西壁の中央部に壁外へ38cmほど掘り込み，火床部は床面から4cmほど掘り窪められ，わずかに焼土が確認されただけである。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。この部分に竈が付設されていたと考えられるが，竈材が確認されていないので，竈は破壊されたと考えられる。その時期については住居の廃絶時または第170号住居跡が作られた際などが考えられるが，不明である。

ピット 4か所。主柱穴はP1～4で，深さは42～81cmであり，各コーナー寄りに位置している。

覆土 3層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片8点(坏5・甕3)，礫2点が出土している。これらの遺物は各層から出土している。このほかには，混入した縄文土器片2点，弥生土器片1点が出土している。出土土器は細片であるため図示できるものもなく，本跡に伴う土器はない。

所見 本跡の時期は，6世紀後葉である第170号住居跡の床下で確認されていることから，6世紀後葉以前と考えられる。

第111号住居跡（第134～139図）

位置 調査区中央部のF2c0区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第49号住居跡が位置している。

重複関係 北西コーナー部を第12号溝に掘り込まれている。

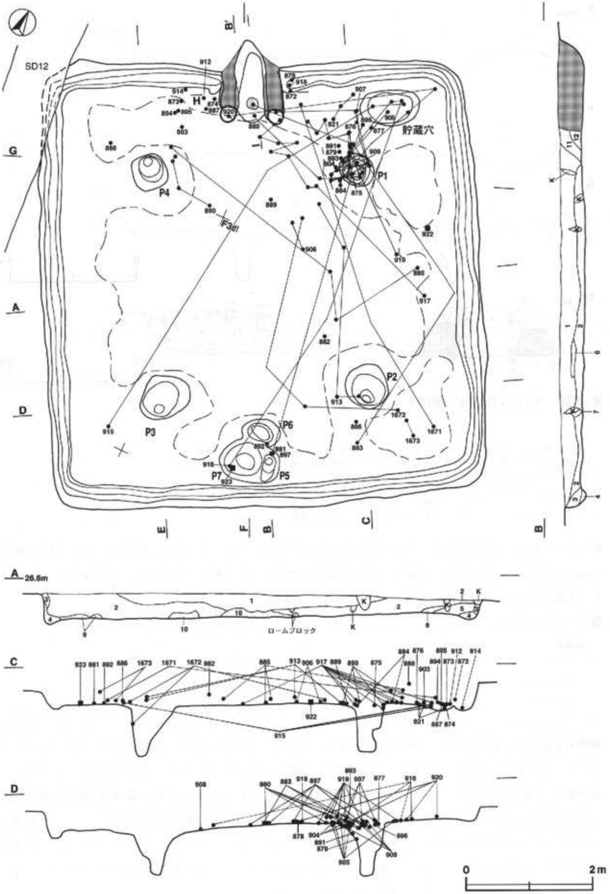
規模と形状 長軸7.06m，短軸6.92mの方形で，主軸はN－24°－Wであり，壁高は30～46cmでほぼ直立する。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められ，北東コーナー付近に貯蔵穴が付設し，壁溝は深さ6cmで全周している。

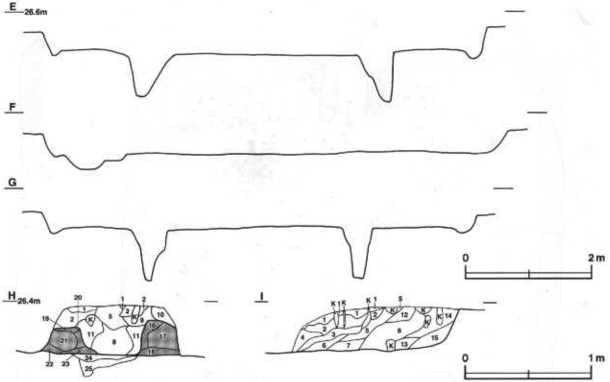
竈 北西壁の中央部を壁外へ49cmほど掘り込み，ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅101cm，焚口部から煙道部までの長さ135cmである。火床部は床面を4cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。両袖部には補強材として土師器甕が逆位で使用されている。

竈土層解説

1 暗褐色 炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
2 暗赤褐色 粘土ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
3 暗褐色 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
4 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
5 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
6 赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
7 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・ロームブロック・粘土ブロック・砂粒微量
8 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
9 にぶい黄褐色 粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
11 赤褐色 焼土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
12 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
13 暗赤褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
14 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
15 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・砂粒微量
16 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量
17 灰褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
18 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量，炭化粒子微量
19 暗褐色 粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量



第134図　第111号住居跡実測図(1)



第135図　第111号住居跡実測図(2)

20	灰褐色	粘土ブロック中量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
21	灰褐色	粘土ブロック多量，ロームブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
22	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
23	黒褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量
24	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
25	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

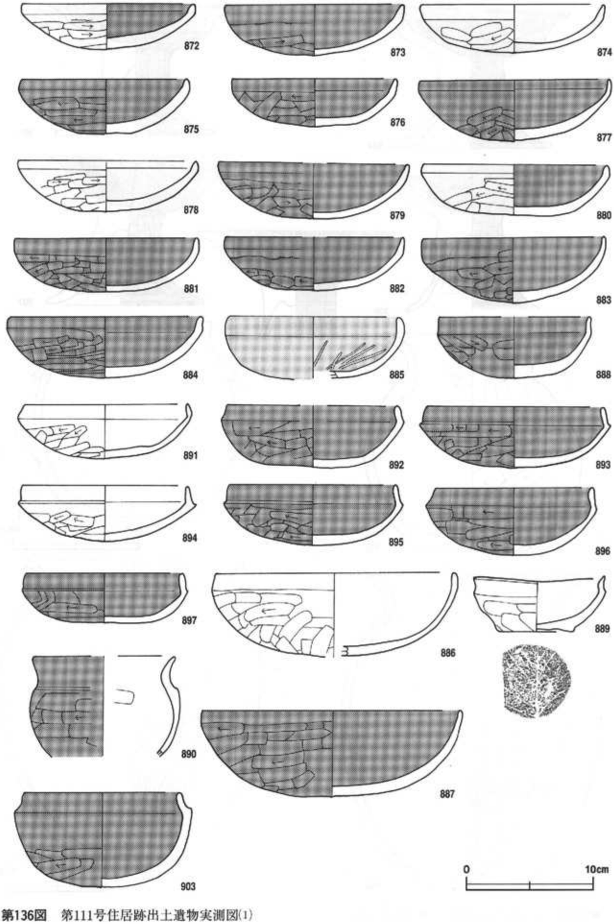
ピット　7か所。主柱穴はP1～4で，深さは79～87cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ18cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・7は深さ19・31cmで，P5に隣接し，出入り口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土　12層からなる。ロームブロックを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

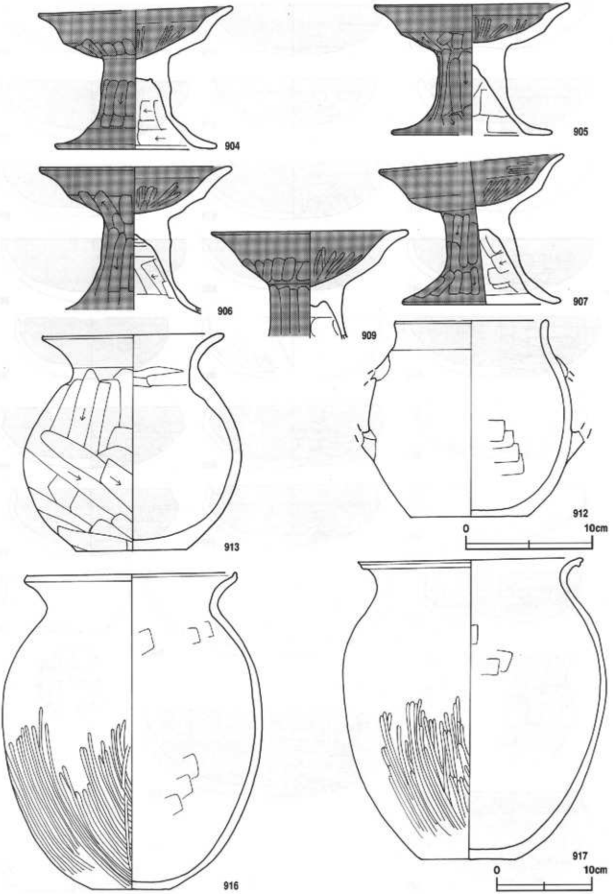
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量
6	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7	暗赤褐色	ロームブロック中量
8	褐色	ロームブロック少量
9	褐色	ロームブロック少量
10	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
11	暗赤褐色	砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12	暗赤褐色	砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

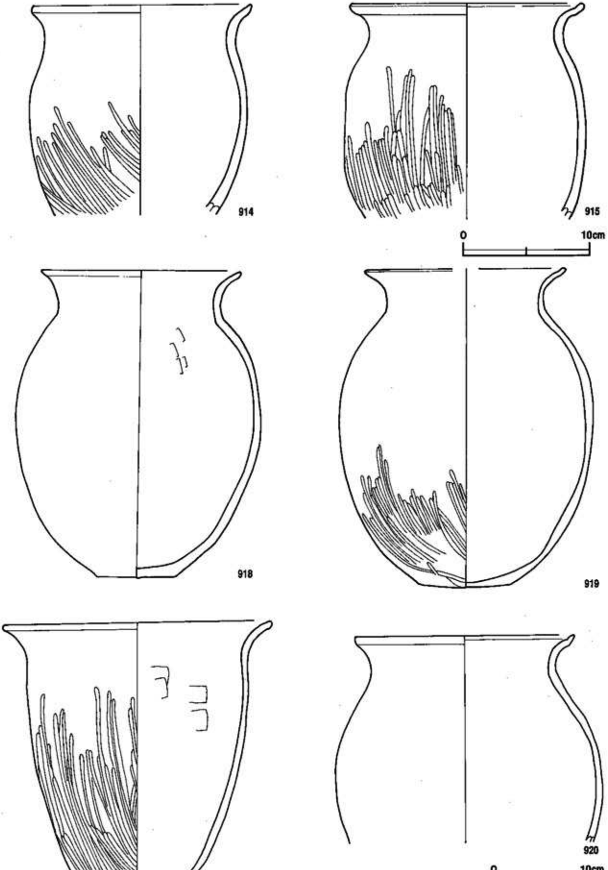
遺物出土状況　土師器片1899点(坏679・椀4・鉢1・高坏84・甕1024・甑23)，須恵器片14点(坏2・高坏1・甕11)，土製品6点(支脚4・不明2)，鉄製品2点(不明)，銅製品1点(不明)，石器・石製品5点(砥石3・紡錘車2)，礫2点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に竈周辺と南部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。これらの中には補修孔のある土師器甕片が2点も出土している。竈袖部に使用された土師器甕や住居中央部から土師器甕が逆位で並んで出土している。このほかには，混入した縄文土器片22点，石器12点(鏃2・凹石1・磨石1・剥片8)が出土している。出土状況から880・884・890・905・916・917・921は本跡に伴うと考えられる土器である。



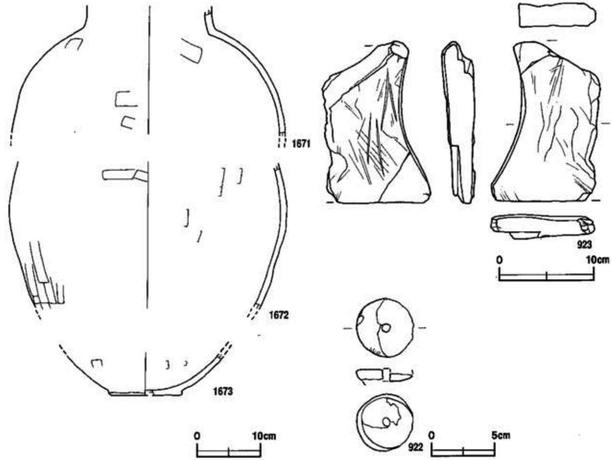
第136図　第111号住居跡出土遺物実測図(1)



第137図　第111号住居跡出土遺物実測図(2)



第138図　第111号住居跡出土遺物実測図(3)



第139図 第111号住居跡出土遺物実測図(4)

所見 本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。本跡のほかに土師器甕を竈袖部に使用している住居跡は第96号住居跡がある。中央部の床面に逆位の状態で出土した土師器甕片は，使用された状況のまま放置された可能性が窺える。

第111号住居跡出土遺物観察表（第136・137・138・139図）

番号	種 別	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
872	土師器	坏	13.4	3.7	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	95% PL92
873	土師器	坏	14.2	4.1	−	長石・石英	黒褐	普通	体部外面上半部ナデ。	北西部下層	98% PL92
874	土師器	坏	14.4	3.8	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	90% PL92
875	土師器	坏	13.2	4.5	−	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部両面横ナデ。螺旋状に輪積痕を残す。	北部下層	98% PL92
876	土師器	坏	13.0	3.8	−	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	90% PL92
877	土師器	坏	15.0	4.8	−	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部外面上半部ナデ。	北部下層	80% PL92
878	土師器	坏	14.0	3.9	−	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部床面	70% PL92
879	土師器	坏	[15.0]	4.4	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部床面	60% PL92
880	土師器	坏	14.6	4.1	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	75% PL92
881	土師器	坏	14.4	4.3	−	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南東部床面	75% PL92
882	土師器	坏	[14.0]	4.2	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	60% PL92
883	土師器	坏	14.4	5.0	−	長石・石英	黒褐	普通	体部外面螺旋状に輪積痕を残し，ヘラ削り。	竈下層	95% PL92
884	土師器	坏	15.2	4.8	−	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部外面一方向のヘラ削り。	北部下層	80% PL93
885	土師器	坏	13.4	4.9	−	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面ヘラ削り後，丁寧なナデ。内面放射状のヘラ磨き。	中央部中層	75% PL93

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
886	土師器	坏	18.8	6.6	−	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	東部下層	65%
887	土師器	坏	20.2	6.7	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面一方向のヘラ削り。	北部下層	80% PL93
888	土師器	坏	[11.9]	4.8	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	西部上層	70% PL93
889	土師器	坏	10.4	4.4	6.0	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部外面ナデ。	中央部床面	95% PL93
891	土師器	坏	13.1	4.4	−	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面，体部上半部内面横ナデ。	北部床面	95% PL93
892	土師器	坏	13.3	5.0	−	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南東部下層	90% PL93
893	土師器	坏	13.8	4.9	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部床面	85% PL93
894	土師器	坏	13.1	4.5	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北西部下層	95% 底部内面剥離。PL93
895	土師器	坏	13.1	4.8	−	長石・石英	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	95% PL93
896	土師器	坏	12.4	5.3	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南東部下層	80% PL93
897	土師器	坏	12.4	4.0	−	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	80% PL93
903	土師器	椀	12.5	7.5	−	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	90% PL92
904	土師器	高坏	[15.3]	11.3	[12.5]	長石・雲母	にぶい褐	普通	裾部内面ナデ。脚柱上部に工具圧痕。	北部下層	80%
905	土師器	高坏	16.3	10.4	12.6	長石・雲母	にぶい褐	普通	裾部内面ナデ。坏部内面放射状のヘラ磨き。	北部下層	70% PL93
906	土師器	高坏	15.0	(11.7)	−	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	裾部内面ナデ。坏部内面放射状のヘラ磨き。	中央部床面	70%
907	土師器	高坏	[14.5]	11.9	12.5	長石・雲母	にぶい橙	普通	裾部内面ナデ。坏部内面放射状のヘラ磨き。	北部下層	70% PL93
909	土師器	高坏	15.8	(8.5)	−	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	脚部内面ヘラ削り。坏部内面放射状のヘラ磨き。	北部下層	40%
890	土師器	小形甕	11.2	(7.9)	−	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	西部下層	50%
912	土師器	小形甕	11.9	15.5	9.4	長石・石英	にぶい赤褐	普通	胴部内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	北西部下層	95% PL93
913	土師器	小形甕	14.4	17.0	8.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。胴部内面ヘラ削り。	東部下層	75% PL93
914	土師器	甕	17.2	(16.5)	−	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。胴部内面ナデ。	北西部下層	65%二次焼成。
915	土師器	甕	17.8	(16.0)	−	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。胴部内面ヘラナデ。	北部下層	60% PL93
916	土師器	甕	22.0	33.3	8.2	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部内面ヘラナデ。底部ヘラナデ。	北部下層	80% 外面煤付着。PL94
917	土師器	甕	23.6	31.8	[10.1]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。胴部内面ヘラナデ。	北部床面	80% 外面煤付着。PL94
918	土師器	甕	21.0	32.5	8.2	長石・石英・雲母	黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北部下層	80% PL94
919	土師器	甕	[20.8]	33.5	[9.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	北部下層	50% PL94
920	土師器	甕	23.0	(21.8)	−	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部床面	35%
1671	土師器	甕	−	(20.5)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り。	東部下層	5% 1672,1673と同一個体。
1672	土師器	甕	−	(23.4)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。外面下部縦位のヘラ削り。	中央部下層	5%
1673	土師器	甕	−	(6.9)	[10.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り。底部木葉痕。	東部下層	5%
921	土師器	甑	28.0	28.2	9.6	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部内面ヘラナデ。	北部床面	80% PL94

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
922	紡錘車	4.6	1.1	0.6	21.3	粘板岩	無文。上面研磨工具痕。	北東部床面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
923	砥石	(17.0)	(11.4)	(3.4)	(676.0)	ホルンフェルス	砥面3面。	南部下層	PL117

第120号住居跡（第140～143図）

位置　調査区中央部のＦ２e5 区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第123号住居跡が位置している。

重複関係　南西コーナー部が第113号住居跡を掘り込み，南壁を第118号住居跡，北西コーナー部を第112号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.02m，短軸6.93mの方形で，主軸はＮ－15°－Ｗであり，壁高は48～57㎝でほぼ直立する。

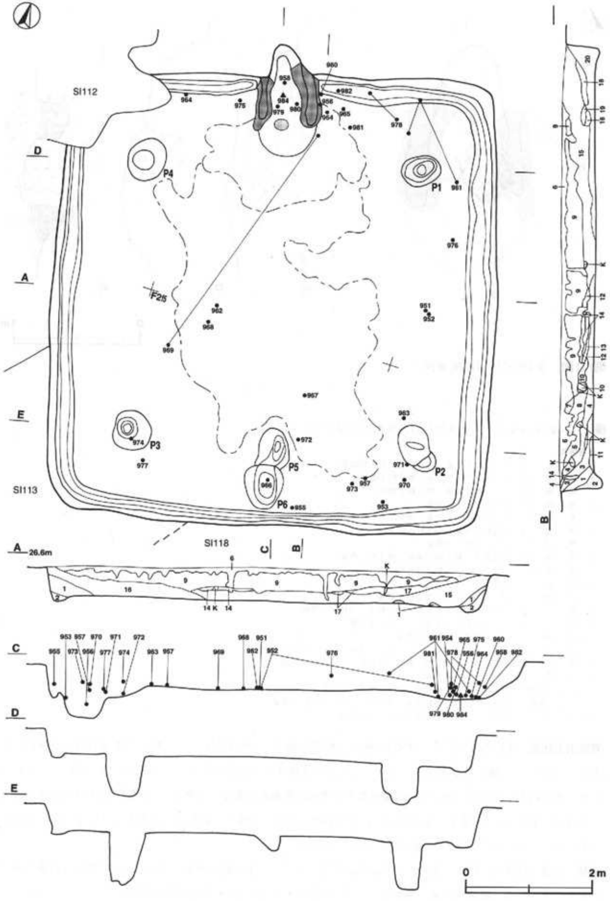
床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～10㎝で全周している。投棄されたと考えられる焼土が東壁際の床面で確認されている。また，竈前の床面の一部に焼土混じりの粘土を埋め込んで固めて床面を補修した痕跡が確認された。

竈　北壁の中央部を壁外へ52㎝ほど掘り込み，ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅180㎝，焚口部から煙道部までの長さ104㎝である。火床部は床面を12㎝ほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。火床部下に深さ20㎝ほどの窪んだ旧火床部が確認され，その部分に埋土して，現火床部を構築している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。火床部の中央から土製支脚が立位で出土し，その周辺から土師器甕２点が斜位で出土している。

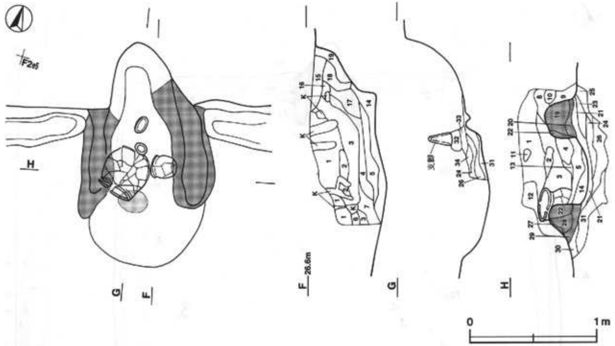
竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
3	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
4	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量
5	暗赤褐色	炭化粒子少量，焼土粒子・粘土ブロック・砂粒微量
6	暗褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
7	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
8	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
9	暗褐色	粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
10	にぶい黄褐色	砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
11	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
12	にぶい黄褐色	粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・礫微量
13	褐色	粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
14	明赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量
15	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
16	暗赤褐色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
17	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
18	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
19	灰褐色	粘土ブロック・砂粒中量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・礫少量
20	灰褐色	粘土ブロック・砂粒中量，焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
21	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック・砂粒少量
22	暗赤褐色	粘土ブロック多量，焼土ブロック・砂粒中量，ロームブロック・炭化粒子微量
23	黒褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量
24	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
25	黒褐色	ロームブロック多量，粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
26	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量
27	黒褐色	砂粒中量，焼土ブロック少量，炭化物・粘土ブロック微量
28	灰褐色	粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・礫微量
29	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量
30	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量
31	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック・砂粒少量
32	暗赤褐色	焼土ブロック多量，炭化物微量
33	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・砂粒少量
34	暗赤褐色	焼土ブロック・砂粒中量，ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量

ピット　６か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは69～86㎝であり，各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ30・45㎝で，中央部から南壁寄りに位置し，南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第140図　第120号住居跡実測図(1)



第141図 第120号住居跡実測図(2)

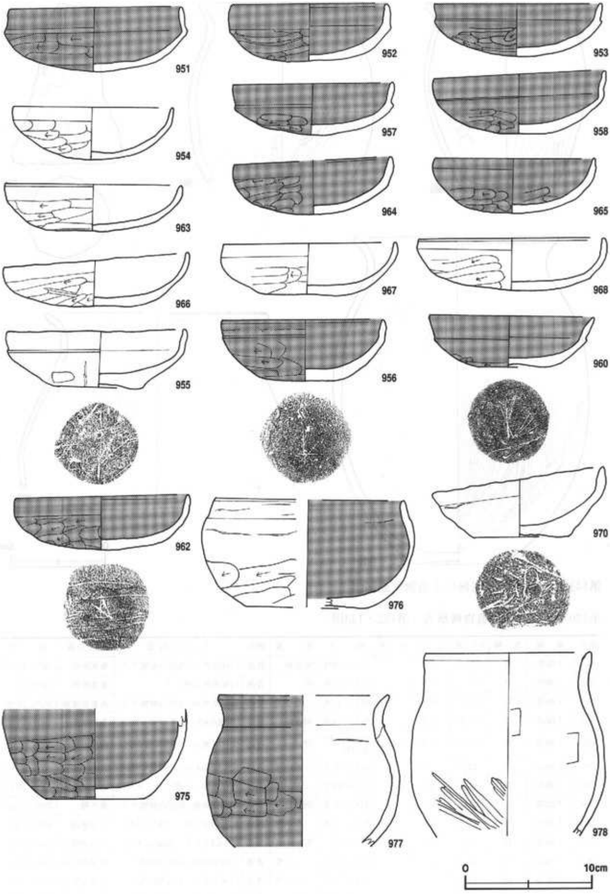
覆土 20層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

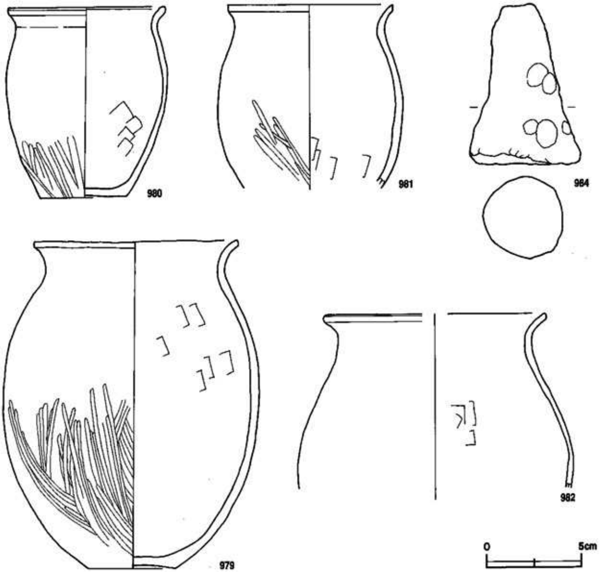
1	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック微量
5	褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6	黒褐色	炭化粒子少量，粘土粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック微量
8	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子多量，焼土粒子微量
9	暗褐色	粘土ブロック少量，炭化粒子微量
10	黒褐色	粘土ブロック微量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
12	褐色	ロームブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
13	褐色	ロームブロック中量，ローム粒子少量
14	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土ブロック・砂粒微量
16	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
17	暗褐色	ロームブロック微量
18	にぶい黄橙色	粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
19	にぶい黄橙色	粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
20	暗褐色	粘土ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片1812点（坏924・椀４・甕877・甑７），須恵器片２点（甕），土製品19点（支脚12・不明７），鉄滓２点，礫８点が出土している。これらの遺物は中央部及び南西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。961・962は東壁際の中央部の床面から重なって出土している。このほかには，混入した縄文土器片485点，弥生土器片20点，石器・石製品４点（石棒１・剥片３）が出土している。出土状況から961・962・958・979～982は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。東壁際中央部の床面に広がる焼土は投棄されたものと考えられる。竈前の床面の補修痕は，同時期の第69・144号住居跡でも確認されているが，その理由については不明である。



第142図　第120号住居跡出土遺物実測図(1)



第143図　第120号住居跡出土遺物実測図(2)

第120号住居跡出土遺物観察表（第142・143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
951	土師器	坏	13.6	5.3	−	長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	東部床面	98% PL94
952	土師器	坏	12.3	4.6	−	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	東部床面	100% PL94
953	土師器	坏	13.1	4.2	−	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南東部床面	95% PL94
954	土師器	坏	12.6	4.1	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北部床面	100% PL94
955	土師器	坏	14.0	4.8	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部木葉痕。体部外面ナデ。	南部下層	90% 外面布目痕。PL94
956	土師器	坏	12.8	4.8	−	長石・石英	にぶい橙	普通	底部木葉痕を残し，周縁部ヘラ削り。	北部下層	90% PL94
957	土師器	坏	12.6	4.3	−	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。	南東部下層	70% PL94
958	土師器	坏	13.4	5.0	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	竈下層	70% PL95
960	土師器	坏	12.9	4.0	4.8	長石・石英	にぶい橙	普通	底部木葉痕を残し，周縁部ヘラ削り。	北部床面	80% PL95
962	土師器	坏	13.7	4.4	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部木葉痕を残し，周縁部ヘラ削り。	中央部床面	100% PL95
963	土師器	坏	13.9	3.8	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南東部床面	90% PL95
964	土師器	坏	[12.4]	4.3	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北西部床面	90% PL95
965	土師器	坏	12.6	4.4	−	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面ヘラナデ。外面上半部ナデ。	北部下層	80% PL95
966	土師器	坏	14.6	4.5	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部下層	90% 底部棒状工具圧痕。PL95

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
967	土師器	坏	13.6	4.4	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部床面	80% PL95
968	土師器	坏	14.6	4.4	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	中央部床面	80% PL95
970	土師器	坏	13.7	5.4	7.6	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ナデ。底部木葉痕。	南東部下層	60% PL96
975	土師器	椀	−	(7.1)	7.8	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部床面	70% PL96
976	土師器	椀	[14.8]	8.6	[9.6]	長石・石英	黒褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。底部木葉痕。	東部中層	30% PL96
977	土師器	小形甕	[12.4]	(11.9)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	40%
978	土師器	小形甕	13.0	(14.4)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北部中層	30%
979	土師器	甕	21.3	34.5	9.2	長石・石英	灰黄褐	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ナデ。	竈下層	90% 胴部煤付着。PL95
980	土師器	甕	16.5	19.8	9.0	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面ヘラナデ。外面ヘラ磨き。	竈下層	90% PL95
981	土師器	甕	17.2	(19.2)	−	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北部下層	60% PL95
982	土師器	甕	[23.2]	(18.3)	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。胴部内面ヘラナデ。	北部床面	20% PL95

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
984	支脚	16.9	11.6	3.1	1320.0	土製	外面指頭痕。	竈床面	

第123号住居跡（第144図）

位置　調査区中央部のＦ２j０区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第120号住居跡，南に第127号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北部が第124号住居跡，南東部が第133号住居跡，北東部が第312号土坑を掘り込み，南部を第122号住居跡，北西コーナー部を第121号住居跡，北部を第399号土坑，東部を第12号溝に掘り込まれている。

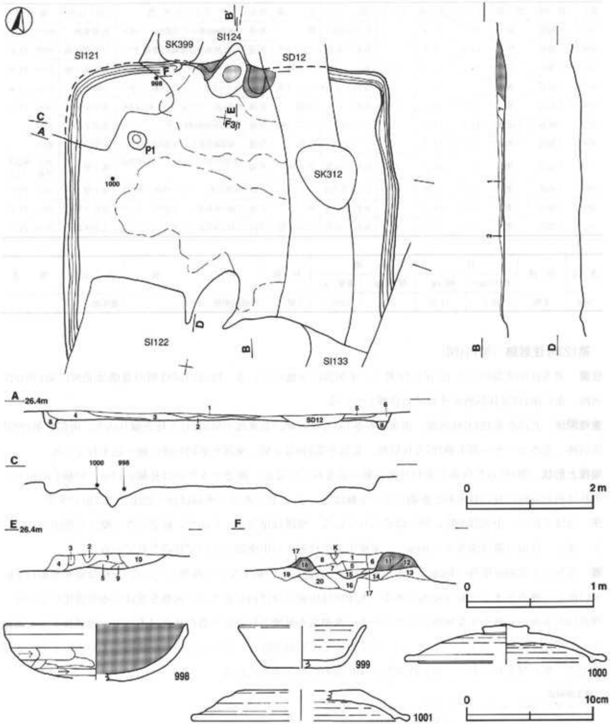
規模と形状　第122号住居跡と第12号溝に掘り込まれているが，確認できたのは長軸5.13m，短軸3.82mで，形状は南北方向に長い長方形と推測でき，主軸はＮ－４°－Ｗであり，壁高は18～22cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ４～６cmで，確認できた壁下で検出されている。また，仕切り溝は深さ６～10cmで，東壁中央部付近から中央部にかけて付設されている。

竈　北壁の中央部を壁外へ46cmほど掘り込み，ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅115cm，焚口部から煙道部までの長さ92cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。西袖部が破壊されており遺存状況は不良で，両袖部下とも地山を大きく掘り窪め，焼土やロームブロックを埋めて平坦部を作り，その上に袖部を構築している。また，火床部も深く掘り窪まれており，竈の作り替えが行なわれたと考えられる。

竈土層解説

1　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
3　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック微量
8　黒　褐　色　焼土ブロック微量
9　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
11　赤　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂粒中量，粘土ブロック・白色粒子少量，炭化物微量
12　灰　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック・白色粒子少量，焼土ブロック微量
13　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・白色粒子少量，焼土ブロック微量
14　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック・砂粒少量，白色粒子微量
15　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ロームブロック少量，炭化物微量
16　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・白色粒子少量
17　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・砂粒少量



第144図　第123号住居跡・出土遺物実測図

18 灰　褐　色　粘土ブロック多量，砂粒・白色粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
19 黒　褐　色　ロームブロック中量，白色粒子少量，焼土ブロック微量
20 黒　褐　色　ロームブロック中量，白色粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

ピット　主柱穴はP1で，深さは32cmであり，北西コーナー部寄りに位置している。

覆土　8層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2 黒　褐　色　ロームブロック微量

3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
8　極 暗 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片459点（坏277・高坏1・甕177・甑3・不明1），須恵器片17点（坏8・蓋1・甕8），土製品24点（不明）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片57点，弥生土器片1点，剥片2点や撹乱によって混入した陶器片3点がそれぞれ出土している。出土状況から998は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。

第123号住居跡出土遺物観察表（第144図）

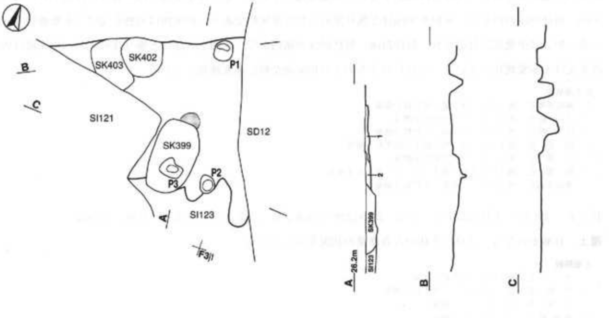
番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備　考
998	土師器	坏	[14.4]	4.5	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部下層	40%
999	須恵器	坏	[10.0]	3.4	[6.0]	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り。	覆土中	30%
1000	須恵器	蓋	[15.8]	3.0	－	長石・石英・雲母	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り。	東部下層	40%
1001	須恵器	蓋	[17.0]	(2.5)	－	長石・石英	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り。	覆土中	30%

第124号住居跡（第145図）

位置　調査区中央部のＦ２ｉ０区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係　西部が第121号住居跡，北壁が第402・403号土坑，中央部が第399号土坑，南部が第123号住居跡，東部が第12号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　北部を除いて，第121・123号住居跡，第399・402・403号土坑，第12号溝に掘り込まれているため，確認できたのは長軸2.97m，短軸2.08mほどで，形状は方形又は長方形と推測され，主軸はＮ－21°－Ｗ



第145図　第124号住居跡実測図

であり，壁高は５cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。

炉　中央部に付設された長径30cm，短径18cmの楕円形で，床面をわずかに掘り窪めた地床炉であり，炉底は赤変しているが，それほど硬化していない。

ピット　３か所。Ｐ１～３は性格は不明である。

覆土　２層からなる。覆土が薄いため不明な点が多いが，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片21点（坏11・甕10）が出土している。これらの遺物のほとんどが中央部の床面から多く出土している。すべて細片であり，図示できるような出土遺物はない。このほかには，混入した縄文土器片19点や撹乱によって混入した須恵器片３点（坏１・甕２），陶器片１点が出土している。

所見　出土土器が細片のため，時期判断が困難であるが，出土した土師器は古墳時代後期のものであり，７世紀後葉の第123号住居跡に掘り込まれているため，本跡の時期は７世紀後葉以前と考えられる。

第125号住居跡（第146・147図）

位置　調査区中央部南寄りのＦ２i7区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第136・138号住居跡，北西に第152号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　南東コーナー部が第416・417号土坑，北部が第12号掘立建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.32m，短軸6.04mの方形で，主軸はＮ－18°－Ｗであり，壁高は13～24cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦であり，全体的に踏み固められている。壁溝は深さ６～８cmでほぼ全周している。

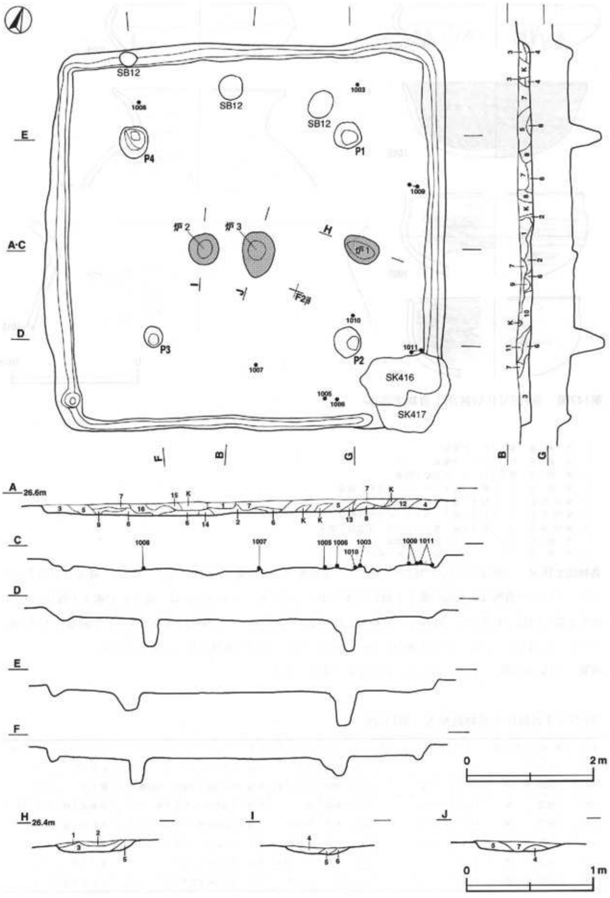
炉　３か所。炉１は中央部から東壁寄りに付設され，長径60cm，短径40cmの楕円形で，床面を８cmほど掘り窪められた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉２は中央部の西壁寄りに付設され，長径50cm，短径48cmの円形で，床面を10cmほど掘り窪められた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。炉３は中央部に付設され，長径71cm，短径80cmの楕円形で，床面を８cmほど掘り窪められ，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。これらのうち炉１の炉床面が特に赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

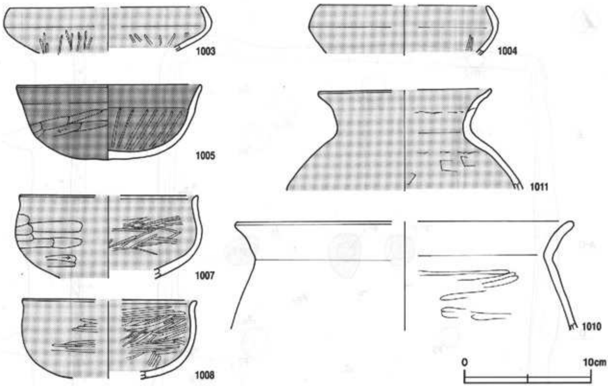
ピット　４か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは26～53cmであり，各コーナー寄りに位置している。

覆土　16層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　極暗褐色　ロームブロック微量
5　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量



第146図　第125号住居跡実測図



第147図　第125号住居跡出土遺物実測図

8　黒　褐　色　焼土ブロック微量
9　黒　褐　色　ロームブロック微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
12　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック微量
13　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
14　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
15　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
16　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片364点（坏110・甕254），須恵器片３点（甕），石製品１点（砥石），礫10点が出土している。これらの遺物は南東部の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片339点，弥生土器片63点，石器９点（磨石１・凹石１・旧石器１・剥片６）や，撹乱によって混入した磁器片１点（碗）がそれぞれ出土している。出土状況から1003・1005～1007・1011は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。

第125号住居跡出土遺物観察表（第147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1003	土師器	坏	[15.0]	(3.6)	－	長石・雲母	赤褐	普通	体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。	北部下層	5%
1004	土師器	坏	[13.4]	(3.9)	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き。外面横ナデ。	覆土中	10%
1005	土師器	椀	14.6	5.9	－	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。	南東部下層	70%　PL96
1007	土師器	椀	[14.0]	(6.5)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南東部下層	30%
1008	土師器	椀	[13.8]	(6.2)	－	長石・石英	明赤褐	普通	底部外面ヘラ削り。	北西部下層	25%
1010	土師器	甕	[26.4]	(8.6)	－	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面ヘラナデ。	東部下層	5%
1011	土師器	甕	[13.6]	(7.9)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内面輪積痕を残すヘラナデ。	南東部下層	10%

第127号住居跡（第148～150図）

位置　調査区中央部やや南寄りのＧ２d9区に位置し，北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第124号住居跡，南東に第93号住居跡，南西に第130・131号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北部を第128号住居跡，西コーナー付近を第389号土坑，北東壁中央部を第458号土坑，東コーナー部を第470号土坑，東部を第８号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.84ｍ，短軸6.75ｍの方形で，主軸はＮ－28°－Ｗであり，壁高は27～57cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ４～８cmで，北コーナー付近を除いた壁下で検出されている。

竈　北西壁の中央部を壁外へ14cmほど掘り込み，ローム混じりの粘土などで構築している。第128号住居跡の床面下で確認され，南西袖の一部と火床部が遺存していただけである。確認できた規模は両袖部幅91cm，焚口部から煙道部への長さは105cmである。火床部は床面から５cmほど掘り窪められて，赤変しているが，それほど硬化していない。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は南西袖部がわずかに残るが，北東袖部は破壊されている。

竈土層解説

1	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
3	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
4	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量
5	黒褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化物微量
7	黒褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量
8	黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
9	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
10	黒褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
11	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12	黒褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
14	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量
15	灰褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量
16	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは72～83cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ５は深さ31cmで，中央部から南東壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

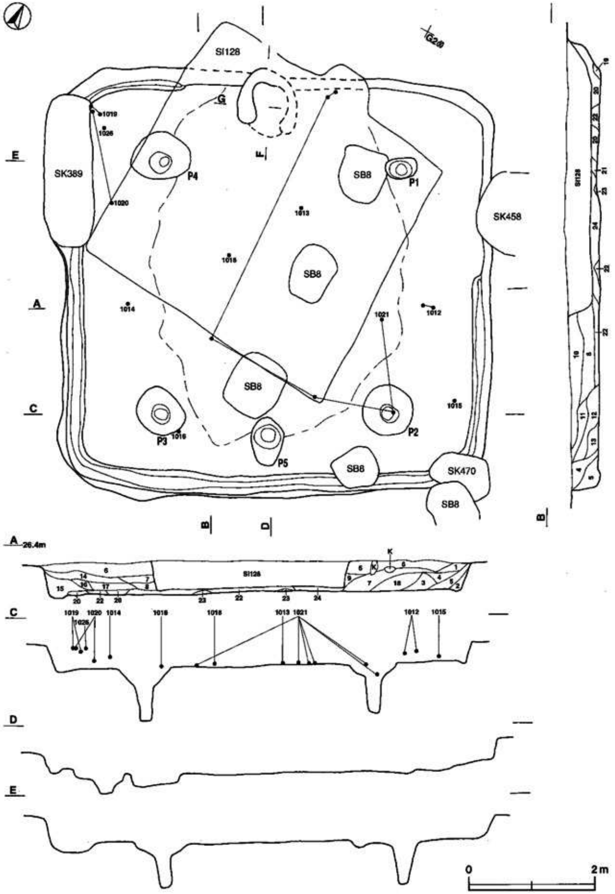
覆土　24層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

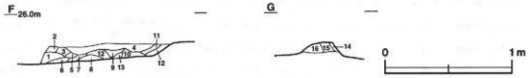
1	黒色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
5	黒褐色	ロームブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
9	黒色	ロームブロック微量
10	極暗褐色	ロームブロック微量
11	黒褐色	ロームブロック微量
12	黒色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
14	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15	黒褐色	ロームブロック微量
16	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
17	黒褐色	ロームブロック微量
18	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
19	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
20	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
21	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量
22	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
23	暗褐色	ロームブロック微量
24	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片2081点（坏891・椀２・高坏３・甕1185），須恵器片128点（坏75・蓋７・甕46），土製品43点（支脚13・不明30），石製品１点（砥石），鉄製品５点（鏃２・刀子１・不明２），鉄滓３点，礫32点が出土している。これらの遺物は南東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片588点，弥生土器片18点，石器８点（石斧１・剥片７）や撹乱によって混入した灰釉陶器片10点（碗），陶器片１点（碗）がそれぞれ出土している。出土状況から1013・1016・1021は本跡に伴うと考えられる。

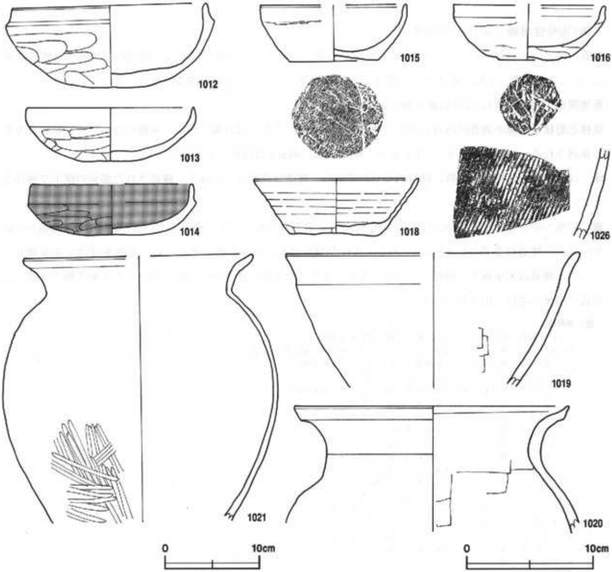
所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀末葉と考えられる。



第148図　第127号住居跡実測図(1)



第149図　第127号住居跡実測図(2)



第150図　第127号住居跡出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　　土	色　　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　　考
1012	土師器	坏	15.3	6.6	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	東部中層	90%　PL96
1013	土師器	坏	13.2	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部下層	55%
1014	土師器	坏	[12.6]	4.0	－	長石	にぶい褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	東部中層	30%
1015	土師器	坏	[11.4]	4.5	7.0	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ，体部外面ナデ。	東部中層	60%　PL96
1016	土師器	坏	[11.8]	4.3	[4.7]	長石	にぶい黄橙	普通	体部内面横ナデ，外面輪積痕を残すナデ。	西部中層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1018	須恵器	坏	12.8	4.5	7.0	長石・石英	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後，一定方向のヘラ削り。	中央部下層	60% 撹乱による混入。PL96
1019	土師器	鉢	[23.2]	(10.5)	−	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ヘラナデ。	北西部上層	10%
1020	土師器	甕	[21.8]	(10.0)	−	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り後，ナデ。	北西部中層	20%
1021	土師器	甕	[24.0]	(28.0)	−	長石・石英	灰黄褐	普通	体部内面ヘラナデ。	中央部下層	25%
1026	灰釉陶器	甕	−	(7.2)	−	長石	オリーブ灰	良好	体部内面ナデ。外面平行叩き。	北西部上層	5 %

第130号住居跡（第151～153図）

位置　調査区中央部のＧ２f8 区に位置し，北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第127号住居跡，南東に第146号住居跡がそれぞれ位置している。西部は調査区域外に伸びている。

重複関係　北壁が第131号住居跡を掘り込んでいる。

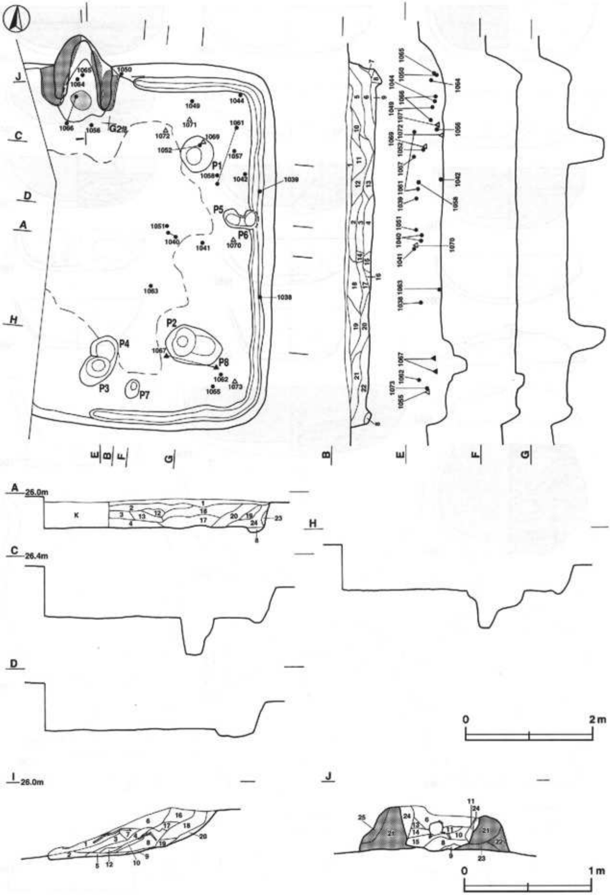
規模と形状　西部が調査区域外に伸びているため，確認できたのは長軸5.75m，短軸3.79mで，形状は長方形と推測される。主軸はＮ－８°－Ｗであり，壁高は33～56cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmで，確認された部分の壁下で検出されている。

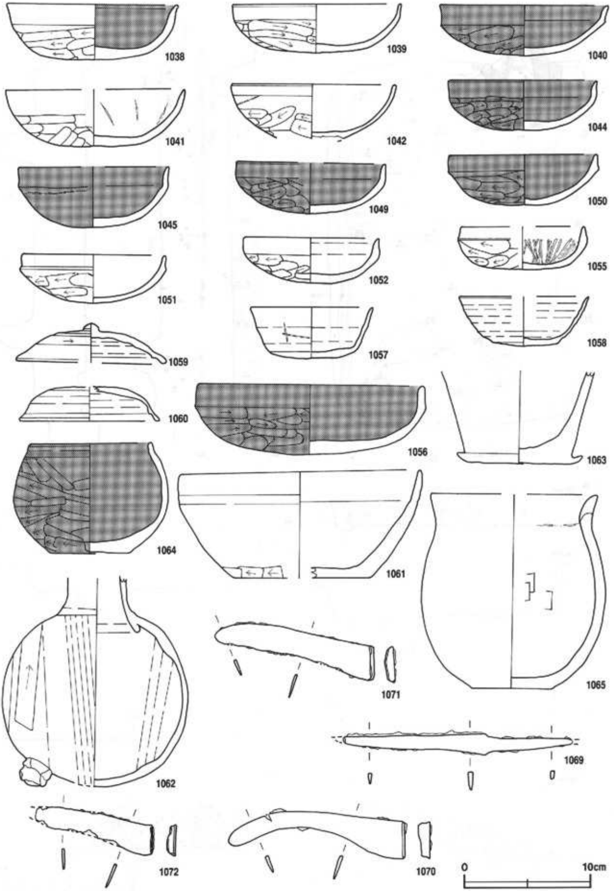
竈　北壁の中央部を壁外へ58cmほど掘り込み，ローム混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅127cm，焚口部から煙道部までの長さ136cmである。火床部は床面を４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。また，火床部の中央から立位で出土した土製支脚の上部に土師器小形甕が逆位で出土している。

竈土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
3　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量
5　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土粒子・粘土ブロック・砂粒微量
6　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
7　にぶい黄褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
8　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・礫少量
9　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
10　赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
11　赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
12　褐灰色　炭化粒子・灰少量，焼土粒子微量
13　灰褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
14　暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
15　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
16　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
17　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
18　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
19　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・灰微量
20　灰褐色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
21　灰褐色　粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
22　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
23　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
24　暗赤褐色　ロームブロック中量
25　黒色　焼土粒子微量

ピット　８か所。主柱穴はＰ１・２で，深さは60・62cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ３・４は深さ27・18cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ８はＰ２を，Ｐ４はＰ１をそれぞれ掘り込んだ抜き取りの痕跡と考えられ，Ｐ５～７の性格は不明である。



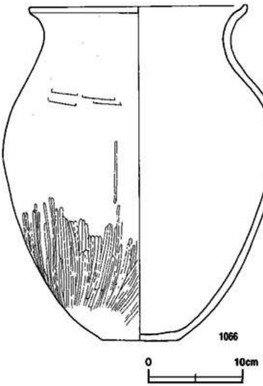
第151図　第130号住居跡実測図



第152図　第130号住居跡出土遺物実測図(1)

覆土　24層からなる。東部の第11～14・19層はロームブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示し，他はレンズ状の自然堆積を示している。堆積状況から，ある程度埋め戻った後に，東部の窪みに土師器坏など共に投棄されたと考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック微量
8　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
13　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
14　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
15　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
17　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
18　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
19　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
20　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
21　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
22　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
23　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
24　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量



第153図　第130号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物出土状況　土師器片1210点（坏553・椀4・高坏4・甕649），須恵器片69点（坏10・蓋9・壺33・鉢3・甕7・甑6・捏鉢1），土製品11点（支脚3・不明8），鉄製品5点（刀子1・鎌3・門金具1），銅製品1点（不明），礫6点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に竈前及び東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。また，東部の覆土上層から中層にかけて出土している完形品の土師器坏は，投棄されたものと考えられる。P2の覆土中からは不明銅製品の破片が出土している。このほかには，混入した縄文土器片128点が，弥生土器片3点，剥片5点や撹乱により混入した土師器片1点（高台付坏）が出土している。出土状況から1049・1050・1064～1066は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀後葉と考えられる。東部の覆土上層から中層にかけて出土している完形品の土師器坏などは，東部壁外から投棄されたものと考えられる。

第130号住居跡出土遺物観察表（第152・153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1038	土師器	坏	13.5	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ後，横ナデ。	東部上層	98% PL96
1039	土師器	坏	13.5	3.9	－	長石・石英	黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	東部上層	95% PL96
1040	土師器	坏	13.4	4.0	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	中央部上層	95% PL96
1041	土師器	坏	[14.0]	4.5	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面放射状のヘラナデ後，横ナデ。	中央部上層	60% PL96
1042	土師器	坏	12.8	(4.3)	－	長石・石英	橙	普通	体部内面丁寧な横ナデ。	東部下層	95% PL96
1044	土師器	坏	11.7	4.0	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北西部中層	60%
1045	土師器	坏	11.7	4.8	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。	覆土中	50%
1049	土師器	坏	[11.8]	4.0	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部中層	60%
1050	土師器	坏	11.7	3.9	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	100% PL96

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1051	土師器	坏	11.3	3.8	−	長石·石英·赤色粒子	橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部上層	100% PL96
1052	土師器	坏	10.6	3.6	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面一方向のヘラ削り。	北部上層	95% PL96
1055	土師器	坏	[9.8]	3.3	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南東部中層	60%
1056	土師器	坏	[17.8]	5.5	−	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部下層	70% PL96
1057	須恵器	坏	9.6	4.0	6.8	長石・針状鉱物	灰	良好	底部回転ヘラ切り。	北部上層	100% 外面線刻「+」。PL96
1058	須恵器	坏	[10.2]	4.0	5.2	長石・雲母	浅黄	良好	底部回転ヘラ切り。	東部上層	60% PL96
1059	須恵器	蓋	[11.7]	3.2	−	長石	灰	良好	天井部回転ヘラ削り。つまみ貼り付け後ナデ。	覆土中	25%，内面自然釉。
1060	須恵器	蓋	[10.8]	(2.7)	−	長石·針状鉱物	灰	良好	天井部回転ヘラ削り。	覆土中	30%
1061	須恵器	鉢	19.0	8.5	[10.6]	長石·石英·雲母	灰	普通	口縁部両面横ナデ。底部ヘラ削り。	北部上層	80% PL96
1062	須恵器	フラスコ瓶	−	(16.8)	−	長石	オリーブ黒	良好	体部内外面ロクロナデ。頸部貼り付け後，ナデ。	南東部上層	60%，外面自然釉。 PL97
1063	須恵器	捏鉢	−	(7.4)	8.4	長石	灰	普通	底部外面ヘラ削り。	中央部下層	20%，底部内面摩滅。PL96
1064	土師器	小形甕	9.5	8.7	6.3	長石·雲母·赤色粒子	明赤褐	普通	体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	竈中層	100% PL97
1065	土師器	小形甕	[13.2]	15.4	6.4	長石·石英·雲母	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。口縁部両面横ナデ。	竈中層	50% 外面煤付着。
1066	土師器	甕	22.8	35.7	8.2	長石·石英·雲母	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北部中層	90% 外面煤付着。 PL97

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1069	刀子	(18.3)	1.7	0.4	(32.8)	鉄	両関。切先部欠損。	北部上層	PL118
1070	鎌	14.0	2.0	0.2	30.2	鉄	柄付部全面折り曲げ。	東部上層	PL118
1071	鎌	12.2	2.0	0.2	32.7	鉄	柄付部全面折り曲げ。	北部下層	PL118
1072	鎌	(9.5)	2.5	0.2	(17.3)	鉄	柄付部全面折り曲げ。刃部先端欠損。	北部下層	PL118

第131号住居跡（第154図）

位置　調査区南部西寄りのＧ２e7 区に位置し，北から南への斜面部に立地している。南西部は調査区域外へ伸びている。周辺の同時期の遺構は西に第93号住居跡，北東に第127号住居跡が位置している。

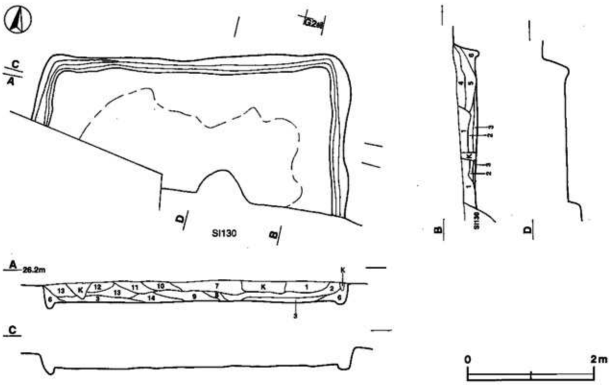
重複関係　南部を第130号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　南西部は調査区域外へ伸び，南部が第130号住居跡に掘り込まれており，確認できたのは長軸4.90m，短軸2.50mで，形状は方形または長方形と推測される。主軸はＮ−77°−Ｅであり，壁高は30～41cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

覆土　14層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック微量
3　極暗褐色　ロームブロック微量
4　極暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
5　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量
7　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
8　極暗褐色　ロームブロック微量
9　極暗褐色　ロームブロック・ローム粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック微量
11　極暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
12　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
13　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量



第154図　第131号住居跡実測図

14　極暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片113点（坏45・高坏4・甕64），土製品1点（不明）が出土している。これらの遺物は各層から出土している。土器の器種は土師器甕片が多いが細片であるため，図示できるようなものはない。このほかには，混入した縄文土器片87点，剝片1点や撹乱によって混入した須恵器片5点（蓋1・鉢2・甕2）が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器が古墳時代後期の特徴をもつ土師器であることと，7世紀後葉の第130号住居跡に掘り込まれていることなどから，7世紀後葉以前の古墳時代後期と考えられる。

第133号住居跡（第155図）

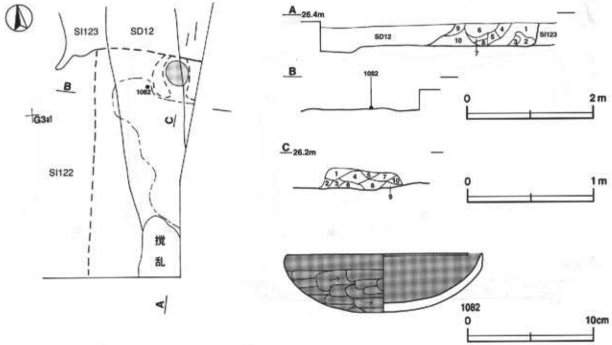
位置　調査区中央部のG3a1区に位置し，平坦部に立地している。東部は調査区域外へ伸びている。周辺の同時期の遺構は南西に127号住居跡，東に第86号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北部が第123号住居跡，西部が第122号住居跡，竈周辺を第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状　西部を第122号住居跡と第12号溝に掘り込まれ，東部が調査区域外で，さらに南部は現代の撹乱を受けて，長軸3.52m，短軸1.52mだけが確認できただけである。形状は長方形と推測され，主軸はN－11°－Eであり，壁高は20cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈　第12号溝に掘り込まれているため，全体は確認されなかったが，北壁の中央部の前面にわずかな窪みと焼土混じりの粘土が確認され，竈と想定された。



第155図　第133号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

覆土　10層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　灰　褐　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　暗赤褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
9　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片109点（坏79・甕29・甑1），須恵器片10点（坏4・蓋1・甕5）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。このほかに混入した縄文土器片6点が出土している。出土状況から1082は本跡に伴うと考えられる。

所見　残存部分が少ないため範囲や時期の判断は困難であるが，本跡の時期は出土土器から6世紀後葉と考えられる。

第133号住居跡出土遺物観察表（第155図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1082	土師器	坏	15.4	4.6	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面横ナデ。外面ヘラ削り後，ナデ。	北部床面	70%

第136号住居跡（第156図）

位置　調査区南部中央のＧ２h9 区に位置し，台地縁辺部で北から南への緩斜面部に立地している。

規模と形状　北から南への緩斜面部に立地しているため，南東壁の立ち上がりは不明である。確認できたのは長軸4.44m，短軸3.65mで，形状は東西に長い長方形と推測され，主軸はＮ－68°－Ｅであり，壁高は４～18cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。

炉　２か所。炉１は中央部やや北壁寄りに付設されており，長径80cm，短径60cmの楕円形で，床面を10cmほど掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変しているが，硬化していない。炉２は中央部に付設されており，径80cmの円形で，床面を深さ２cmほど掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変しているが，硬化していない。

炉１土層解説

1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　炭化粒子・ローム粒子・焼土粒子微量

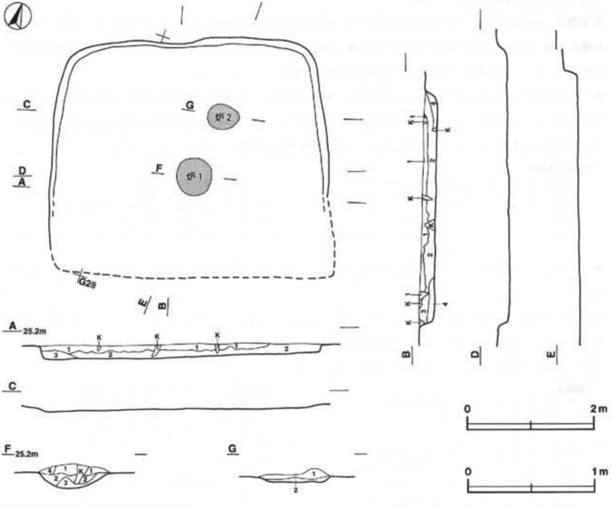
炉２土層解説

1　暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2　赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量

覆土　４層からなる。レンズ状を呈しているが，各層ともロームブロックを含んだ人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　褐色　ロームブロック・炭化物微量



第156図　第136号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片193点（坏71・甕120・甑２），土製品１点（支脚），鉄滓１点，礫４点が出土している。これらの遺物は南部から多く出土している。出土遺物はすべてが細片であるため，図示できるものはない。このほかには，混入した縄文土器片199点，石器６点（鏃１・磨石１・剥片４）や撹乱によって混入した平安時代の土師器片17点，須恵器片24点が出土している。

所見　出土土器が細片のため時期決定は困難であるが，形状や規模から古墳時代前期の可能性がある。南床面下から多くの縄文土器片が出土したため，縄文時代の住居跡の存在を考慮して調査を進めたが，住居跡は確認されなかった。

第136号住居跡出土遺物観察表（第156図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1094	土師器	坏	[16.8]	(1.9)	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	覆土中	5％
1095	土師器	甕	[22.0]	(4.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	5％
1096	須恵器	壺	－	(3.4)	[7.4]	長石	灰白	良好	底部外面回転ヘラ削り。	覆土中	10%

第138号住居跡（第157・158図）

位置　調査区南部やや西寄りのＧ２d6区に位置し，北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は第136号住居跡が位置している。

重複関係　南部が第113・118・123・124号土坑，北壁が第137号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　重複のため，確認できたのは長軸5.20m，短軸4.90mで，形状は南北に長い長方形と推測され，主軸はＮ－３°－Ｗであり，壁高は32～44cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。壁溝は深さ６～10cmで，確認された壁下で検出している。本来は全周していたと考えられる。中央部北東寄りや北西コーナー部さらに西壁際中央部の床面から，炭化物や焼土が壁際の黒色土上にブロック状に堆積し，住居跡廃絶後に焼失したものと考えられる。

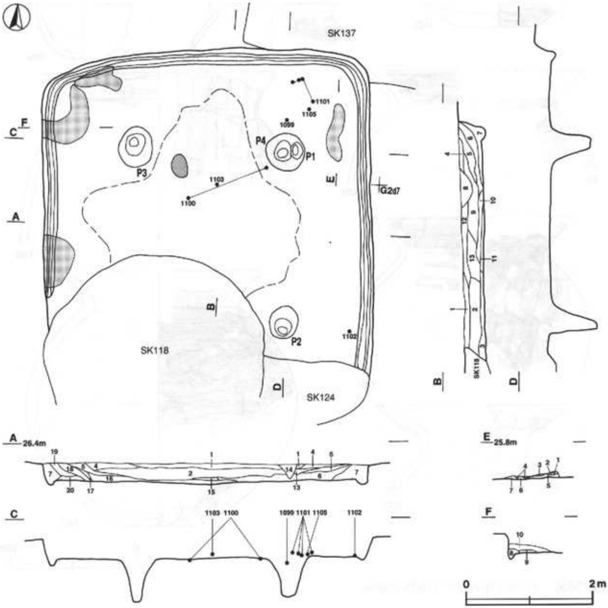
焼土焼土層解説
1　黒褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　焼土ブロック微量
4　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒褐色　焼土ブロック微量
7　黒褐色　焼土ブロック微量
8　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

炉　中央部やや北寄りに付設されており，長径48cm，短径32cmの楕円形で，少ないながら焼土の範囲が確認された。

ピット　４か所。主柱穴はＰ２～４で，深さは60～73cmで，各コーナー寄りに位置している。Ｐ1はＰ4と重複しているが，補助柱穴と考えられ，南西部は重複のため確認できなかった。

覆土　20層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒褐色　焼土ブロック微量
3　黒褐色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　黒褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック微量
8　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
9　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
10　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック微量
12　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
13　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
14　黒褐色　ローム粒子・粘土粒子微量
15　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
16　極暗褐色　ロームブロック微量
17　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
18　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
19　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック微量
20　黒褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量



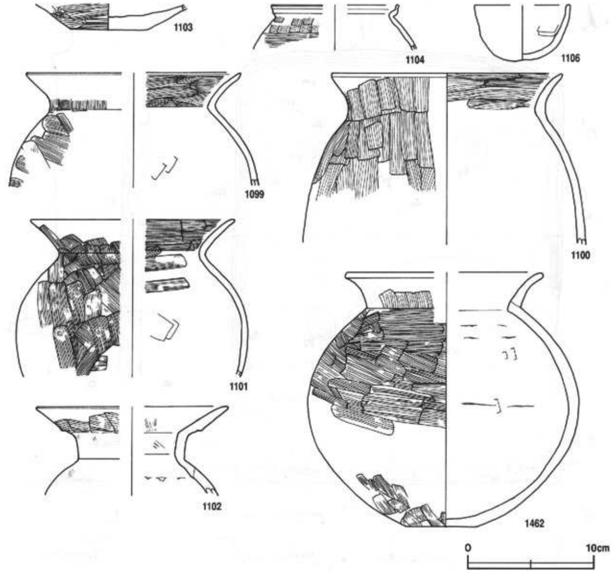
第157図　第138号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片1645点（坏868・高坏6・甕760・甑2・手捏土器9），須恵器片12点（坏6・甕6），土製品7点（不明），鉄滓1点，礫5点が出土している。これらの遺物は北東コーナー部及び中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片313点，石器4点（鏃1・剥片3）や撹乱によって混入した土師器片10点，瓦片1点が出土している。出土状況から1099・1103は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から4世紀中頃と考えられる。

第138号住居跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1099	土師器	甕	[17.0]	(9.0)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北東部下層	10%
1100	土師器	甕	18.4	(13.5)	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部内面ナデ。	中央部下層	20%
1101	土師器	甕	[15.8]	(12.5)	−	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。	北東部下層	10%
1102	土師器	壺	[15.2]	(7.0)	−	長石・石英	明赤褐	普通	体部内面ナデ。口縁部内面丁寧なナデ。	南東部床面	20%



第158図　第138号住居跡出土遺物実測図

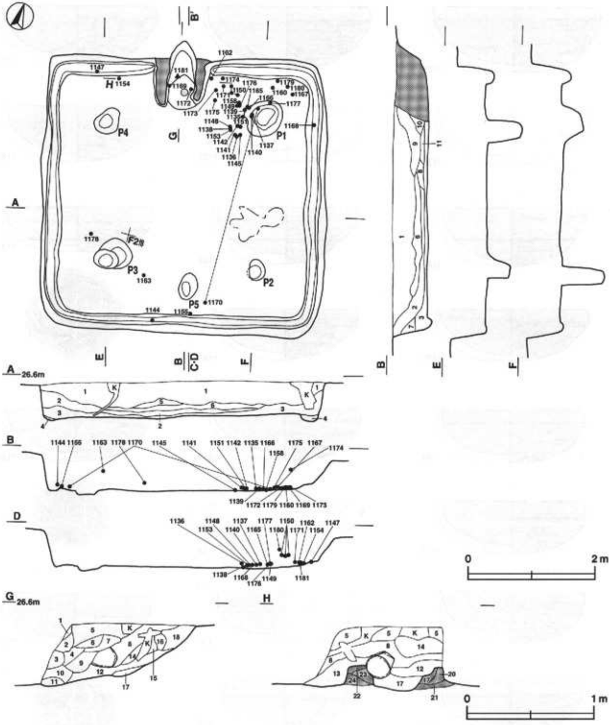
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1103	土師器	甕	−	(2.1)	6.0	長石・石英	にぶい黄褐	普通	底部外面ヘラ削り。	中央部下層	5%
1104	土師器	小形甕	[10.0]	(3.6)	−	長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	10%
1106	土師器	ミニチュア土器	7.6	4.5	−	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ。	覆土中	50%　PL96
1462	土師器	甕	[15.2]	20.1	5.6	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	覆土中	50%

第143号住居跡（第159～163図）

位置　調査区中央部のＦ２e8区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第111号住居跡が位置している。

規模と形状　長軸4.50m，短軸4.35mの方形で，主軸はN－15°－Wであり，壁高は56～64cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部西寄りの一部が踏み固められている。壁溝は深さ4～12cmで全周している。竈前面の床面の窪んだ部分に粘土を埋め固められ，床面を補修したと考えられる。北壁に沿って土師器甕が並び，その南側から土師器坏が重なって床面から出土している。

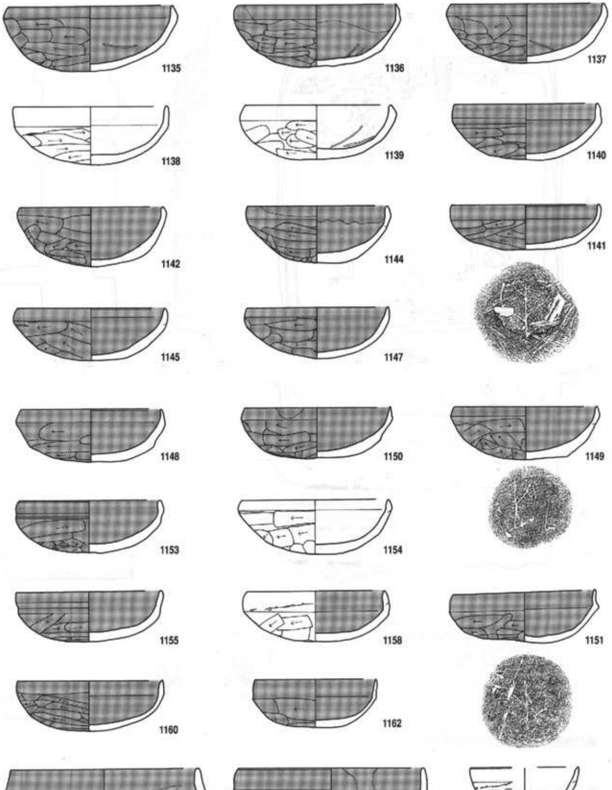


第159図　第143号住居跡実測図

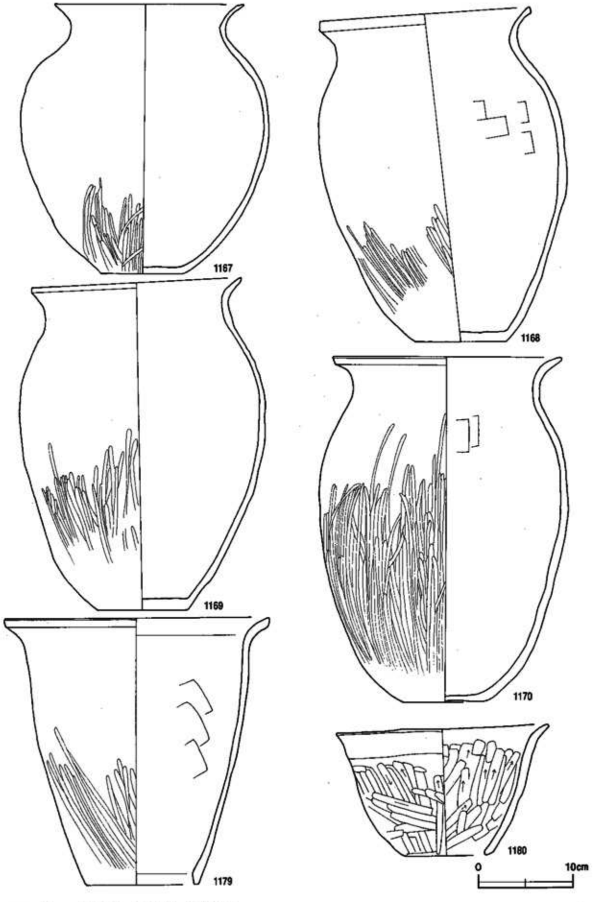
竈　北壁の中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅89cm，焚口部から煙道部までの長さ106cmである。火床部は床面から４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は一部が破壊され，内壁は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

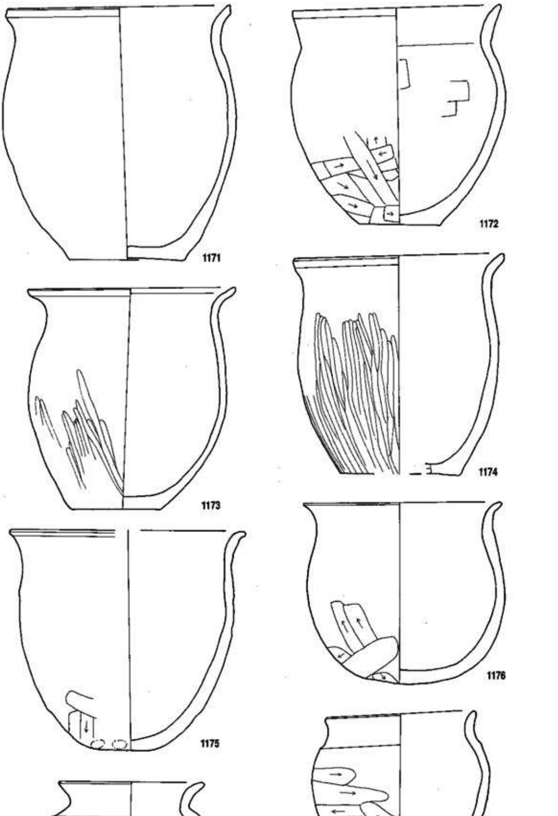
1　にぶい黄褐色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
2　暗　褐　色　砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量



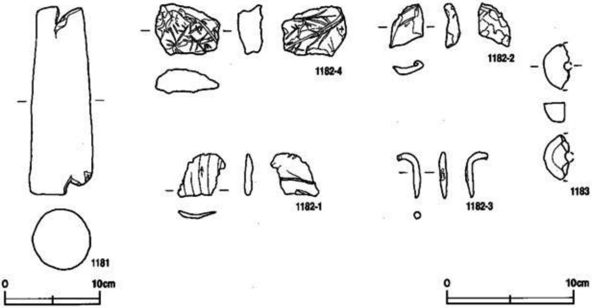
第160図　第143号住居跡出土遺物実測図(1)



第161図　第143号住居跡出土遺物実測図(2)



第162図　第143号住居跡出土遺物実測図(3)



第163図　第143号住居跡出土遺物実測図(4)

3　暗褐色　砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
4　褐色　粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
9　にぶい黄褐色　砂粒少量，焼土粒子・粘土ブロック微量
10　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
11　にぶい赤褐色　粘土ブロック微量
12　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
13　にぶい黄褐色　砂粒少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
14　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
15　褐色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
16　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
17　暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒微量
18　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
19　暗褐色　ロームブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
20　黒褐色　焼土ブロック・砂粒中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
21　灰褐色　粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子・焼土粒子少量
22　黒褐色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック微量
23　黒褐色　粘土ブロック・砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
24　灰褐色　粘土ブロック多量，砂粒中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化物微量

ピット　5か所。主柱穴はP1～4で，深さは32～68cmで，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ7cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3を掘り込むような深さ13cmの掘り込みがあり，抜き取りの痕跡と考えられる。

覆土　11層からなる。レンズ状を呈しているが，ロームブロックを含む人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック微量
8　にぶい黄褐色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　炭化粒子・砂粒微量
10　暗褐色　砂粒少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
11　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量

遺物出土状況　土師器片2119点（坏1145・高坏20・鉢3・甕912・甑39），須恵器片5点（坏2・甕3），土製品4点（支脚1・紡錘車1・不明2），鉄製品2点（不明），石製品2点（砥石・紡錘車），礫2点が出土している。これらの遺物は竈周辺と西部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片224点，弥生土器片4点，石器2点（敲石・剥片）や撹乱によって混入した磁器片1点，瓦片1点

が出土している。出土状況から1135～1143・1145・1148・1149・1151～1153・1156・1158・1160・1165～1173・1176・1177・1179が本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から7世紀後半と考えられる。竈前面を粘土で埋め固めて，床面の補修している可能性が考えられ，同様の方法は同時期の第120号住居跡でも行なわれている。

第143号住居跡出土遺物観察表（第160～163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1135	土師器	坏	13.0	5.2	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，横ナデ。	北部下層	98% PL97
1136	土師器	坏	12.4	4.9	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	北部下層	100% PL97
1137	土師器	坏	12.1	4.7	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，横ナデ。	北部下層	100% PL97
1138	土師器	坏	12.2	4.6	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ナデ。	北部床面	98% PL97
1139	土師器	坏	11.6	4.3	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，横ナデ。	北部下層	98% PL97
1140	土師器	坏	11.4	4.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部下層	98% PL97
1141	土師器	坏	11.7	3.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	北部下層	100% PL97
1142	土師器	坏	11.2	4.6	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。体部上端に輪積痕。	北部下層	98% PL97
1144	土師器	坏	11.0	4.5	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	南部下層	95% PL97
1145	土師器	坏	11.8	4.1	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部上半部内面横ナデ。	北部下層	100% PL97
1147	土師器	坏	11.2	4.0	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。口縁部下端に輪積痕。	北西部床面	100% PL97
1148	土師器	坏	11.0	4.1	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	100% PL97
1149	土師器	坏	11.4	4.1	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	北部下層	98% PL98
1150	土師器	坏	11.4	3.4	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部中層	100% PL98
1151	土師器	坏	11.3	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	北部下層	98% PL97
1153	土師器	坏	11.1	4.1	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	80% PL98
1154	土師器	坏	11.6	4.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北西部床面	90% PL98
1155	土師器	坏	11.6	3.9	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部下層	95% PL98
1158	土師器	坏	10.7	4.0	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面下端に輪積痕を残す横ナデ。	北部下層	80% PL98
1160	土師器	坏	11.4	3.9	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	100% PL98
1162	土師器	坏	9.6	3.8	－	長石・石英	黒	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北部下層	98% PL98
1163	土師器	坏	[8.6]	3.9	3.6	長石・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部中層	35%
1165	土師器	坏	14.6	6.7	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ後，横ナデ。	北部下層	95% PL99
1166	土師器	坏	14.8	8.2	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部床面	95% PL98
1167	土師器	甕	20.3	28.6	8.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北東部下層	95% PL98
1168	土師器	甕	22.2	35.1	9.5	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ヘラ磨き。	北東部下層	95% 外面煤付着。PL98
1169	土師器	甕	22.3	34.0	9.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ナデ。	竈下層	95% 外面煤付着。PL99
1170	土師器	甕	24.0	36.4	8.5	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	東部下層	85% PL99
1171	土師器	甕	17.5	20.2	9.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ。底部ヘラ削り後ナデ。	北部下層	90% 二次焼成 PL99
1172	土師器	小形甕	16.5	17.5	6.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	竈下層	100% 外面下部煤付着。PL97
1173	土師器	小形甕	16.4	17.5	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	98% PL98
1174	土師器	小形甕	16.5	17.6	[9.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	北部中層	80%
1175	土師器	小形甕	[18.3]	17.4	6.3	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外面下半部ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。体部下端に指頭痕。	北部下層	50% PL98
1176	土師器	小形甕	15.2	14.2	－	長石・石英・雲母	赤橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	95% PL98

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1177	土師器	小形甕	10.8	10.4	−	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部下層	100% PL98
1178	土師器	小形甕	11.5	8.0	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	南西部下層	35%
1179	土師器	甑	27.8	28.2	11.7	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北東部下層	95% PL99
1180	土師器	甑	22.2	14.4	8.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部中層	95% 単孔式 PL99

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1181	支脚	19.8	6.7	4.9	783.0	土製	外面ナデ。	竈下層	
1182①	不明土製品	3.5	3.7	0.6	3.7	土製	両面にヘラ削り痕。	覆土中	PL115
1182②	不明土製品	3.4	2.7	1.2	4.6	土製	ヘラ削り面を内側にロールしている。	覆土中	PL115
1182③	不明土製品	3.5	1.8	0.6	1.5	土製	外面ナデ。端部に指頭痕。	覆土中	PL115
1182④	不明土製品	3.9	5.0	1.9	30.2	土製	両面木葉痕上に繊維圧痕。	覆土中	PL115

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1183	紡錘車	(3.5)	1.5	(0.6)	(9.4)	凝灰岩	無文。	覆土中	50%

第144号住居跡（第164〜166図）

位置　調査区西部のＦ１h0区に位置し，平坦部に立地している。西部は調査区域外へ伸びている。周辺の同時期の遺構は南東に第172・174号住居跡に位置している。

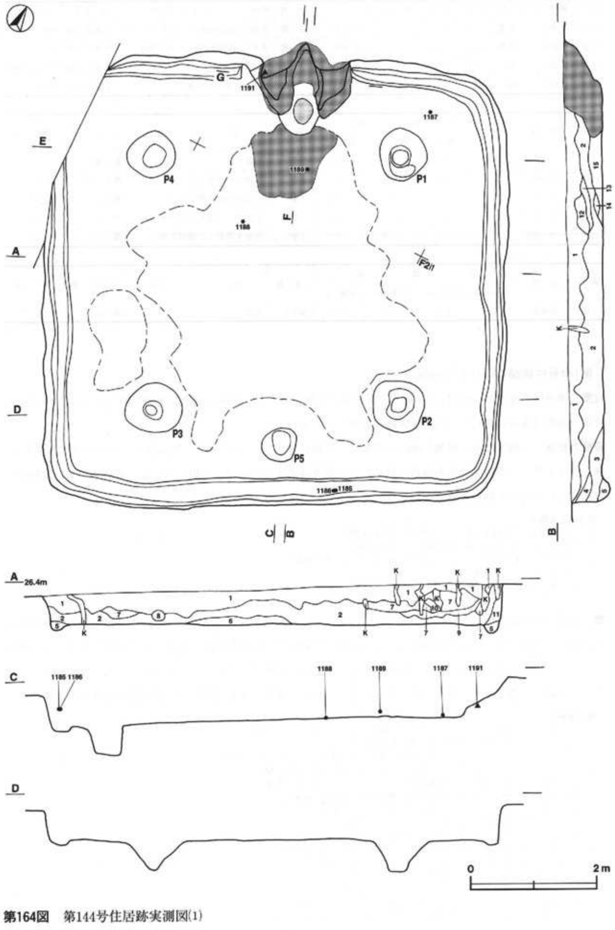
規模と形状　長軸7.23m，短軸6.88mの方形で，主軸はN－24°－Wであり，壁高は33〜65cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ６〜８cmで全周している。竈前面の床面は粘土を埋めて固められた床面の補修痕が確認された。また，南床面から炭化材が出土している

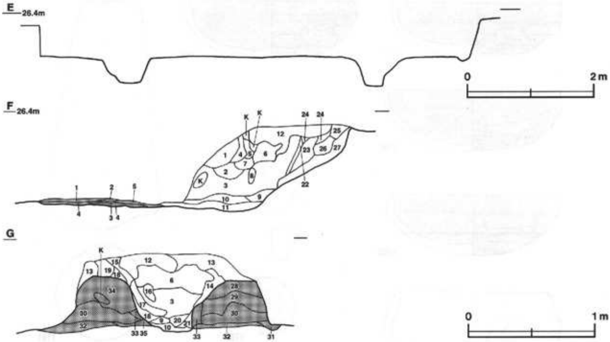
粘土焼土層解説
1　にぶい褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
2　灰白色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　灰黄褐色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量

竈　北壁の中央部を壁外へ38cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅147cm，焚口部から煙道部までの長さ148cmである。火床部は床面から10cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり，内壁が火熱を受けて赤変硬化している。袖部は焼土混じりの粘土で構築されており，作り替えが考えられる。また，土製支脚片が南西袖部から出土している。

竈土層解説
1　暗褐色　砂粒少量，ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
2　暗褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
3　褐色　ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック・砂粒少量，炭化物微量
5　暗褐色　粘土ブロック・砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子微量
6　暗褐色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック微量
8　暗褐色　砂粒少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
9　褐色　砂粒少量，粘土ブロック微量
10　赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
11　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量
13　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量
14　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
15　暗褐色　粘土ブロック・砂粒微量，焼土ブロック・炭化粒子微量



第164図　第144号住居跡実測図(1)



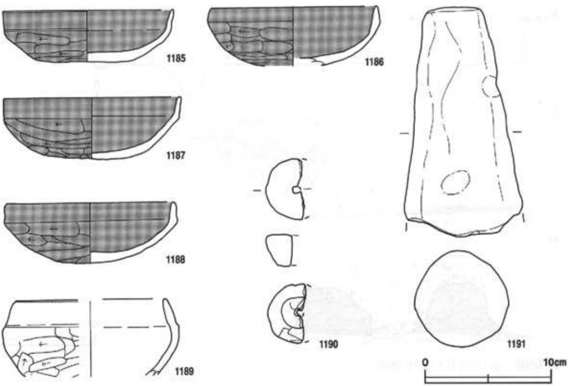
第165図　第144号住居跡実測図(2)

16 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
17 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
18 暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
19 暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
20 にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化物微量
21 暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
22 にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
23 にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
24 にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・ロームブロック微量
25 にぶい黄褐色　砂粒少量，焼土粒子・粘土ブロック微量
26 にぶい黄褐色　砂粒少量，ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック微量
27 にぶい黄褐色　粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子・焼土ブロック微量
28 灰　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・礫微量
29 赤　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
30 黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
31 黒　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック微量
32 暗　褐　色　ロームブロック・砂粒中量，焼土ブロック少量，炭化物微量
33 暗赤褐色　粘土ブロック・砂粒・焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物微量
34 暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
35 暗赤褐色　焼土ブロック中量，砂粒少量，ロームブロック微量

ピット　5か所。主柱穴はP1～4で，深さは42～50cmで，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ50cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　15層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
4 暗　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・白色粒子・礫微量
5 暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
8 褐　　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
9 黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
10 暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
11 褐　　　色　ロームブロック少量，炭化物少量，焼土ブロック微量



第166図　第144号住居跡出土遺物実測図

12　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
13　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片2299点（坏1432・高坏14・椀２・甕851），須恵器片９点（坏３・壺３・甕３），土製品10点（支脚１・紡錘車１・不明８），鉄製品３点（不明），鉄滓１点，礫２点が出土している。これらの遺物は竈周辺の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片435点，弥生土器片９点，剥片４点や，攪乱によって混入した磁器片１点，瓦片１点が出土している。南床面から茅の炭化材などが出土し，屋根材の一部と考えられる。また，出土状況から1187・1189は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀末葉から７世紀前葉と考えられる。住居の廃絶時の焼失家屋と考えられる。竈前面の床面の補修は，同時期の第120号住居跡でも確認されている。

第144号住居跡出土遺物観察表（第166図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備　考
1185	土師器	坏	13.4	4.1	5.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部中層	98%　PL99
1186	土師器	坏	13.1	（4.6）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部中層	90%　PL99
1187	土師器	坏	14.0	4.8	－	長石・石英・赤色粒子	オリーブ黒	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部下層	95%　PL99
1188	土師器	坏	13.2	4.7	－	長石・石英	赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部下層	95%　PL99
1189	土師器	椀	[11.8]	（6.1）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	15%

番　号	器　種	計	測	値		材　質	特　　　徴	出土位置	備　考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1190	紡錘車	[4.7]	2.4	[0.6]	(27.8)	土製	外面ヘラナデ。	覆土中	

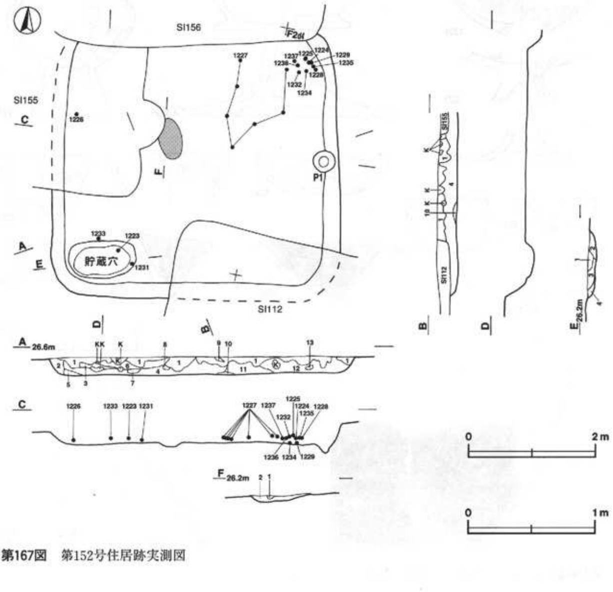
番　号	器　種	計	測	値		材　質	特　　　徴	出土位置	備　考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1191	支脚	(18.3)	9.4	7.6	(938)	土製	ナデ，指頭痕。	北部下層	

第152号住居跡（第167・168図）

位置　調査区中央部西寄りのＦ２d3区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第125号住居跡が位置している。

重複関係　北壁を第156号住居跡，西壁を第155号住居跡，南東部を第112号住居跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　南・北壁とも第112・156号住居跡に掘り込まれ，壁の立ち上がりは不明で，確認できたのは長軸



第167図　第152号住居跡実測図

4.64m，短軸3.86mで，形状は長方形と推測でき，主軸はN－10°－Wであり，壁高は20～30cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

貯蔵穴　南西コーナー部に付設されて，長径104cm，短径62cmの東西に長い楕円形を呈し，深さは14cmで，底面は平坦である。

貯蔵穴土層解説

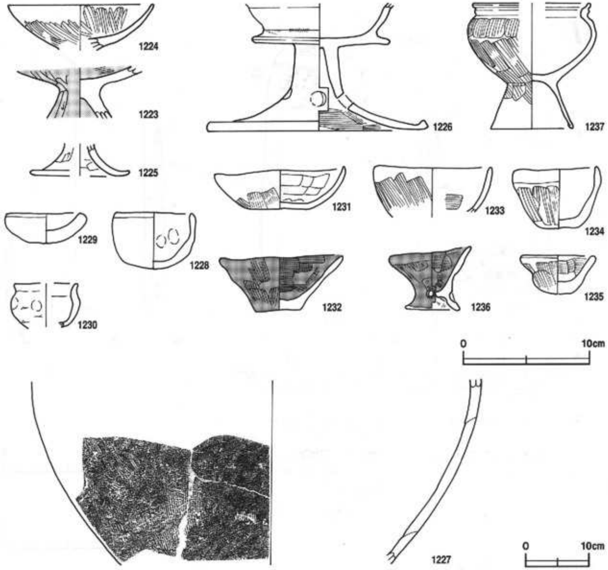
1　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　焼土粒子微量

炉　中央部の西寄りに付設されて，長径68cm，短径40cmの楕円形で，床面を6cmほど掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック微量

ピット　1か所。P1は深さ24cmで，中央部から東壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第168図　第152号住居跡出土遺物実測図

覆土　13層からなる。ロームブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子・白色粒子微量
5　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
6　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
7　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
10　暗褐色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
11　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
13　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片121点（坏6・椀7・高坏29・甕57・手捏土器6・ミニチュア16），礫2点が出土している。これらの遺物は北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片16点が出土している。出土状況から1223・1231～1234は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から4世紀中頃と考えられる。

第152号住居跡出土遺物観察表（第168図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1223	土師器	高坏	−	(4.1)	−	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	脚部内面ヘラナデ。	南西部下層	30%　PL99
1224	土師器	高坏	11.4	(3.6)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部内外面ヘラ磨き	北東部下層	40%　PL99
1225	土師器	高坏	−	(2.5)	[7.4]	長石・石英・雲母	褐	普通	脚部内面ナデ。	北東部下層	10%
1226	土師器	装飾高坏	−	(9.9)	17.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ削り後，ナデ。	東部下層	70% PL100
1227	土師器	大甕	−	(29.1)	−	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内面輪積痕を残すナデ。外面ハケ目調整後，磨り消し。	中央部下層	5%
1228	土師器	手捏土器	5.9	4.4	−	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面指頭痕。	北東部下層	100% PL100
1229	土師器	手捏土器	5.7	2.4	−	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内面ナデ。	北東部下層	95% PL100
1230	土師器	手捏土器	[5.0]	(3.5)	−	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面ナデ。	貯蔵穴内	40%
1231	土師器	ミニチュア土器	10.3	3.4	4.7	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。低部内面放射状のヘラ削り。	南西部下層	80% PL100
1232	土師器	ミニチュア土器	9.8	4.3	3.6	長石・石英	灰褐	普通	底部両面ヘラナデ。	北東部下層	90% PL100
1233	土師器	ミニチュア土器	9.3	(4.0)	−	長石・石英	橙	普通	体部内面上半部ナデ。	南西部下層	60%
1234	土師器	ミニチュア土器	6.5	4.8	2.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ナデ。	北東部下層	80% PL100
1235	土師器	ミニチュア土器	5.8	3.1	3.0	長石・雲母	にぶい褐	普通	底部両面ナデ。	北東部下層	100% PL100
1236	土師器	ミニチュア土器	6.3	5.1	4.3	長石・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部下層	100% PL100
1237	土師器	ミニチュア土器	[18.4]	10.0	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。脚部内面ナデ。	北東部下層	70% PL100

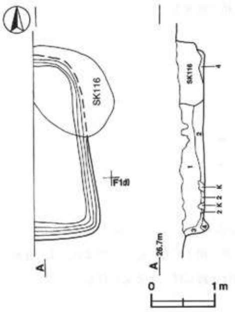
第154号住居跡（第169図）

位置　調査区中央部西寄りのＦ１c9区に位置し，平坦部に立地している。西部は調査区域外に伸びている。周辺の同時期の遺構は南に第144号住居跡が位置する。

重複関係　北部を第116号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西部が調査区域外へ伸びるため，確認できたのは長軸2.94m，短軸0.87mで，形状は長方形と推測され，主軸はＮ－５°－Ｗであり，壁高は50cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。壁溝は深さ８cmで，確認できた部分の壁下で検出されている。



第169図　第154号住居跡実測図

覆土　４層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
4　褐　　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片10点（坏８・甕２）が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土した土器はすべてが細片で，図示できるような土器はない。このほかには，混入した縄文土器片２点が出土している。

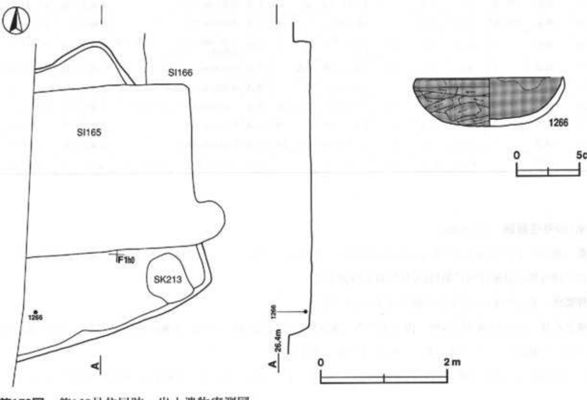
所見　本跡は出土土器が少なく，細片であるため時期の判断は困難であるが，土器の様相から古墳時代後期と考えられる。

第168号住居跡（第170図）

位置　調査区中央部西寄りのＦ１g0区に位置し，平坦部に立地している。西部が調査区域外へ伸びている。

確認状況　第165号住居跡の南北が撹乱を受けているため，取り除いたところ硬化した床面を確認し，第168号住居跡とした。そのため，堆積状況は不明である。

重複関係　北東部が第166号住居跡，東壁が第165号住居跡，南東コーナー部が第213号土坑に掘り込まれている。



第170図　第168号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　西部が調査区域外へ伸び，北東壁が第165号住居跡に掘り込まれているため，確認できたのは長軸4.38m，短軸3.12mで，形状は方形または長方形と推測でき，主軸はN－15°－Wであり，壁高は38cmで外傾して立ち上がる。

床　第165号住居に掘り込まれているため，残存部分はわずかであるが，ほぼ平坦であり，あまり踏み固められていない。

覆土　撹乱を受けており，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片114点（坏34・甕80），須恵器片７点（甕），鉄製品１点（不明），礫７点が出土している。これらの遺物は南壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片15点や撹乱によって混入した瓦片１点が出土している。出土状況から本跡に伴う遺物はない。

所見　本跡の時期は，本跡に伴う遺物はないが，出土土器の様相から７世紀代と考えられる。

第168号住居跡出土遺物観察表（第170図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1266	土師器	坏	11.7	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部下層	70% PL100

第170号住居跡（第171・172図）

位置　調査区中央部やや西寄りのＦ２h5区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第177号住居跡，西に第144号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　本跡全体が第110号住居跡を掘り込み，竈の煙道部及び北壁が第６号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.62m，短軸5.35mの方形で，主軸はN－26°－Wであり，壁高は50～60cmで直立する。

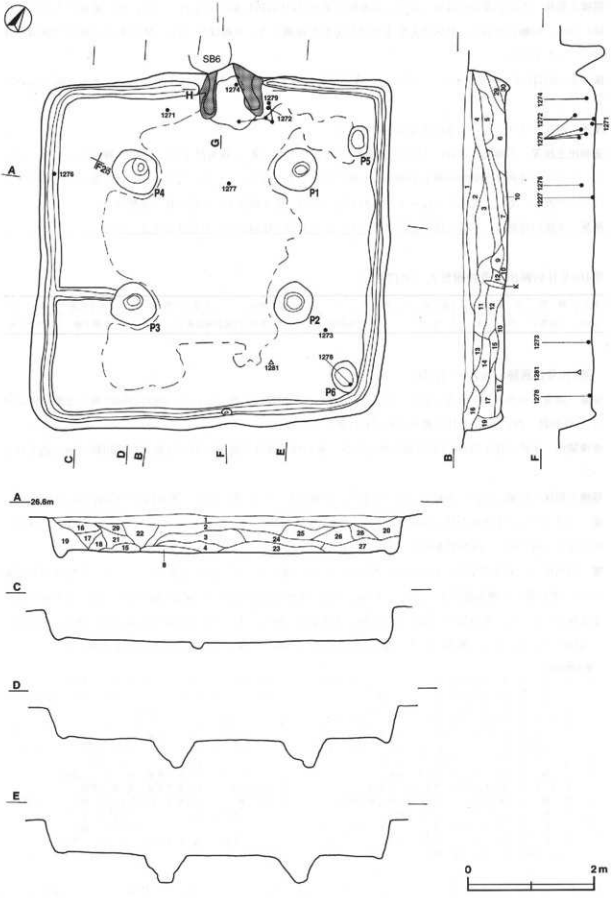
床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ４～８cmでほぼ全周している。また，仕切り溝が深さ８cmでＰ3と南西壁溝を結んで付設されている。

竈　北西壁の中央部を壁外へ45cmほどの掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅101cm，焚口部から煙道部のまでの長さ119cmである。火床部は床面から４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部の一部が第６号掘立柱建物跡に掘り込まれて不明な部分もあるが，煙道は火床部から外傾して立ち上がると推測される。袖部は焼土混じりの粘土で構築され，作り替えが推測される。

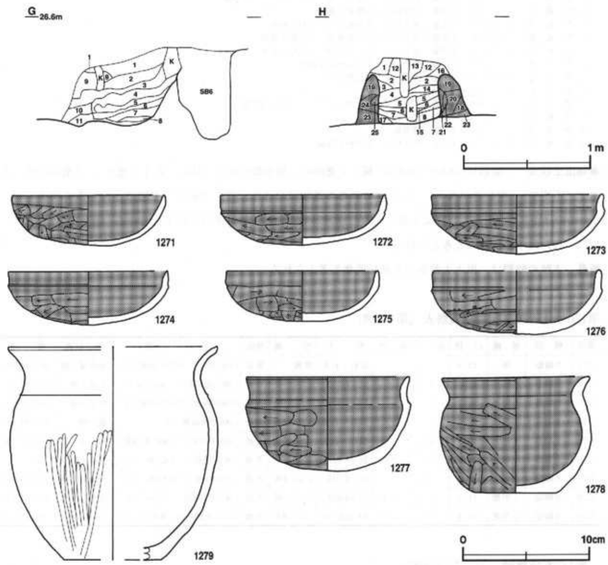
竈土層解説

1　黒褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　灰褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
3　灰褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
4　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗赤灰色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
8　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
9　灰黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
10　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
12　灰褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
13　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
14　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
15　黒褐色　炭化粒子少量、焼土ブロック微量
16　黒褐色　ロームブロック・白色粒子少量，焼土粒子・粘土ブロック微量
17　暗赤褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量
18　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・白色粒子微量
19　暗褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック微量
20　灰黄褐色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
21　黒褐色　炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
22　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土粒子中量
23　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
24　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
25　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量

ピット　６か所。主柱穴はＰ1～４で，深さは42～47cmであり，各コーナー寄りに位置している。東壁下にあるＰ5・６の性格は不明である。



第171図　第170号住居跡実測図



第172図　第170号住居跡・出土遺物実測図

覆土　30層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・白色粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・白色粒子少量，焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
12　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
14　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
15　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
16　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
17　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
18　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

19　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
20　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子・白色粒子微量
21　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
22　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
23　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物・白色粒子微量
24　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
25　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
26　黒　褐　色　ロームブロック多量
27　黒　褐　色　ロームブロック中量，白色粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
28　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子微量
29　暗　褐　色　ロームブロック中量，礫微量
30　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1693点（坏828・椀５・甕860），須恵器片８点（坏６・蓋１・甕１），土製品69点（土錘１・不明68），礫２点が出土している。これらの遺物は全体的に覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片402点，弥生土器片50点，剥片20点が出土している。出土状況から1271・1272・1274は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀前葉と考えられる。

第170号住居跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1271	土師器	坏	12.0	3.9	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ。	北東部下層	98% PL100
1272	土師器	坏	13.0	4.0	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	北部下層	98% PL100
1273	土師器	坏	13.3	4.7	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ。	東部下層	90% PL100
1274	土師器	坏	12.6	4.3	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	竈中層	80% PL100
1275	土師器	坏	12.0	4.0	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ。口縁部下端に輪積痕。	覆土中	85% PL100
1276	土師器	坏	[13.2]	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	東部中層	50%
1277	土師器	椀	12.8	7.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部内面ヘラナデ。	中央部下層	90% PL100
1278	土師器	小形甕	11.5	9.2	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部，頸部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南東部下層	90% PL101
1279	土師器	小形甕	[16.4]	16.8	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	北部中層	70% PL100

第172号住居跡（第173・174図）

位置　調査区中央部西寄りのＦ２ｊ３区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第144号住居跡，南西に第174号住居跡がそれぞれ位置している。

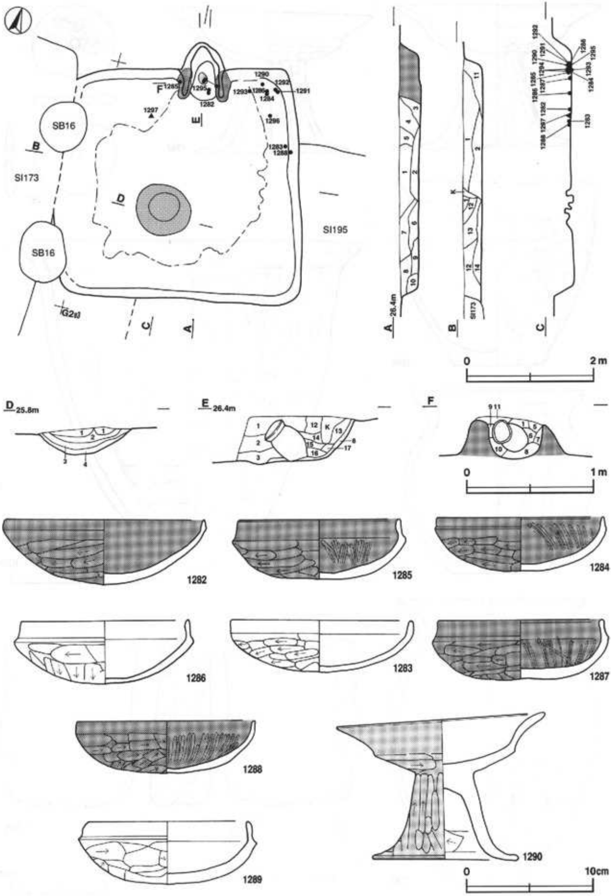
重複関係　南東部が第195号住居跡を掘り込み，西部が第173号住居跡・第16号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.78m，短軸3.90mの長方形で，主軸はＮ－12°－Ｗであり，壁高は30～36cmでほぼ直立する。

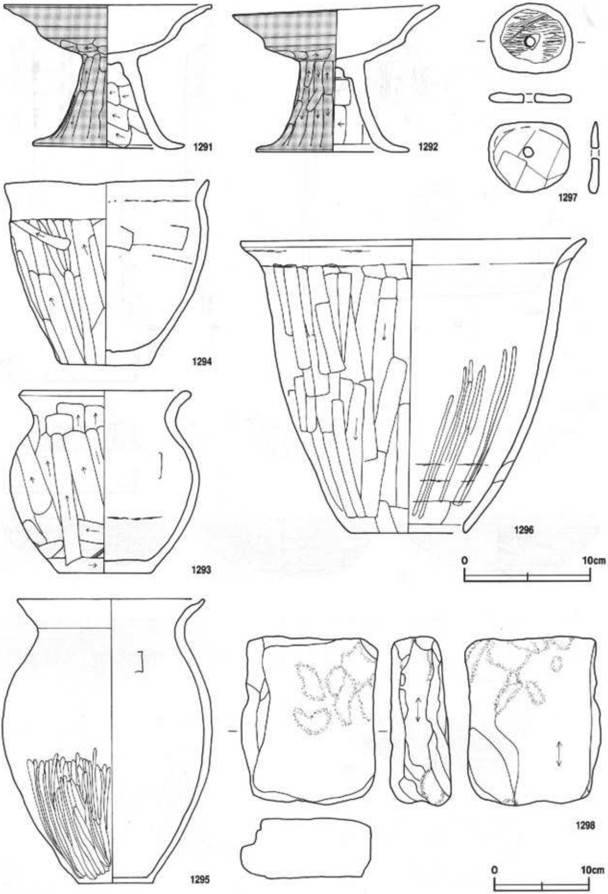
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ46cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅86cm，焚口部から煙道部までの長さ91cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。火床部から土師器甕が立位で出土し，その下部より土師器高坏片が出土しており，支脚として使用されたものと考えられる。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量



第173図　第172号住居跡・出土遺物実測図(1)



第174図　第172号住居跡出土遺物実測図(2)

9 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
10 極暗赤褐色 焼土ブロック中量，炭化粒子微量
11 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
12 灰褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
13 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量
14 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
16 暗赤褐色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量
17 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量

炉 中央部から南壁寄りに付設された，長径90cm，短径80cmの楕円形の地床炉で，あまり掘り込んではないが底面は火熱を受けて赤変硬化している。中央部には雲母片岩製の支脚が立位で出土し，その周辺から土師器片が出土している。

炉土層解説
1 暗赤褐色 炭化粒子・焼土ブロック微量
2 暗赤褐色 焼土ブロック少量
3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 14層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
3 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
4 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
7 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
8 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
9 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
10 黒褐色 焼土ブロック微量
11 黒褐色 ロームブロック微量
12 極暗褐色 ロームブロック・ローム粒子微量
13 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
14 極暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片567点（坏222・高坏20・鉢2・椀5・甕305・甑13），須恵器片55点（坏34・蓋3・甕18），土製品1点（紡錘車）が出土している。これらの遺物は竈内及び北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。また，1297は内面黒色処理がされた土師器坏を穿孔し，一部分を刃状に扁平に削っている転用の紡錘車である。1286・1290・1284は北東コーナー部の床面から重なって出土し，そのほか土師器坏・高坏・甕なども壁際から中央部にかけて斜位に重なって出土している。このほかには，混入した縄文土器片250点，剥片9点や撹乱で混入した陶器片1点が出土している。出土状況から1283〜1287・1290〜1295は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から6世紀後葉である。竈と雲母片岩を支脚とした炉の両方が付設されている例は，当遺跡では唯一の例である。土師器坏・高坏・甕などが北東コーナー部などからまとまって出土した土師器類は6世紀後葉の住居内の使用スペースを考える上で興味深い。

第172号住居跡出土遺物観察表（第173・174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1282	土師器	坏	15.7	5.1	−	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部両面横ナデ。	竈下層	95% PL100
1283	土師器	坏	14.4	4.1	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	東部床面	90% PL100
1284	土師器	坏	13.1	4.2	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部下層	95% PL101
1285	土師器	坏	12.7	4.7	−	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	90% PL101
1286	土師器	坏	[13.2]	5.0	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部下層	70% PL101
1287	土師器	坏	13.0	4.0	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ，口縁部下端に輪積痕。	竈下層	80% PL101
1288	土師器	坏	14.0	4.1	−	長石・石英	黒	普通	口縁部両面横ナデ。	東部床面	65% PL101
1289	土師器	坏	12.7	5.0	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ，底部外面ヘラ削り。	覆土中	60% PL101

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1290	土師器	高坏	16.5	11.7	11.6	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面，坏部内面横ナデ。	北東部下層	95% PL101
1291	土師器	高坏	16.2	11.5	12.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・裾部両面横ナデ。	北東部下層	95% PL101
1292	土師器	高坏	16.2	11.6	11.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部・裾部両面横ナデ。	北東部下層	85% PL101
1293	土師器	小形甕	13.8	14.5	7.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄	普通	体部内面ヘラナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部床面	100% PL101
1294	土師器	小形甕	16.1	14.7	7.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	竈下層	80% PL101
1295	土師器	甕	19.8	30.0	7.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。	竈下層	95% PL101
1296	土師器	甑	27.0	23.4	9.1	長石・赤色粒子	明褐灰	普通	体部内面上端横位のヘラナデ。口縁部両面横ナデ。	北東部下層	95% PL101

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
1297	転用紡錘車	6.5	0.8	0.8	31.0	土師器坏底部	一部を片刃状に削りだしている。	北部床面	PL115

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1298	砥石	17.8	14.2	6.4	2580.0	雲母片岩	砥面2面。	覆土中	

第174号住居跡（第175・176図）

位置　調査区中央部西寄りのＧ２a1区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第172号住居跡，北に第144号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北東コーナー部が第173号住居跡，北東壁が第16号掘立柱建物跡，西壁が第18号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.78m，短軸3.67mの方形で，主軸はN－17°－Wであり，壁高は66～68cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～12cmで，南西コーナー部を除いて全周している。また，中央部床面から炭化物混じりの焼土が確認され，下部にはロームブロックを含む暗褐色土が堆積しているため，竈材の流出と考えられる。

焼土堆土層解説
1　黒　　色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・炭化物微量
2　黒 褐 色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
3　黒 褐 色　ローム粒子・炭化物微量
4　暗 褐 色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
5　黒　　色　炭化物少量，焼土ブロック微量
6　黒赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量

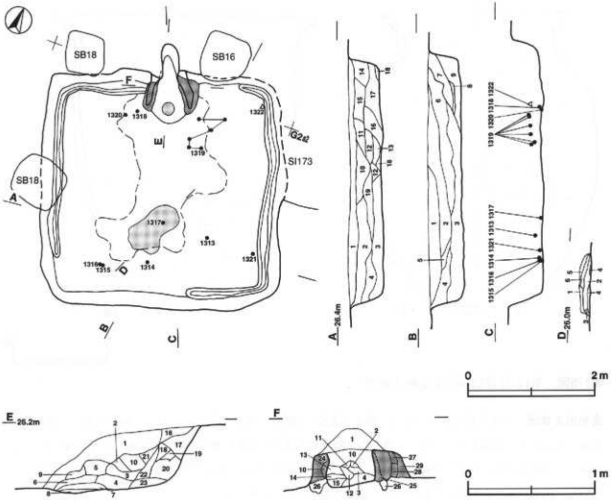
竈　北壁の中央部を壁外へ46cmほどの掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅131cm，焚口部から煙道部までの長さ100cmである。火床部は火床面から６cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説
1　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
3　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5　黒 褐 色　灰少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化物・灰微量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　灰黄褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
12　黒 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子微量
13　黒 褐 色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
16　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
17　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
18　黒 褐 色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
19　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
20　黒 褐 色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量
21　黒 褐 色　粘土粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
22　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
23　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量

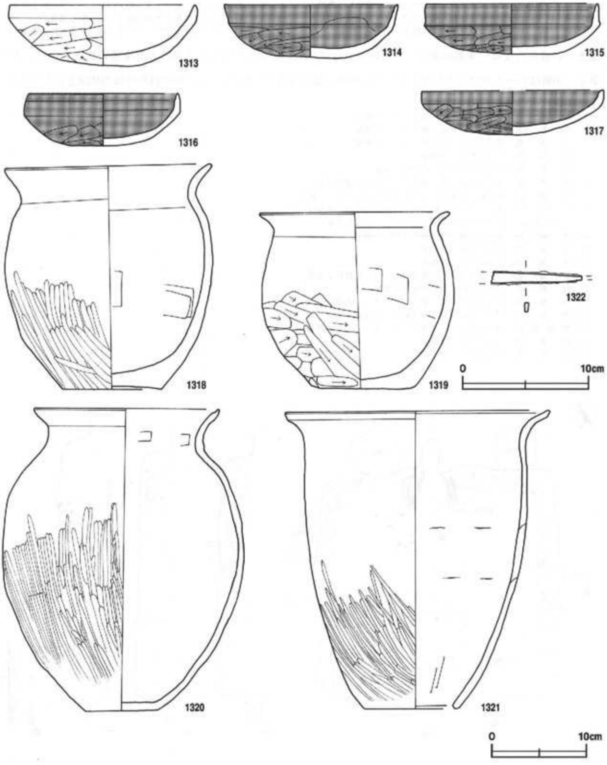
24　にぶい黄褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
25　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
26　黒　　褐　　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
27　黒　　褐　　色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
28　黒　　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
29　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　19層からなる。東部の第11～18層はロームブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示し，また第１～10層はロームブロックを含むものの全体的に散らばることから，レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　　褐　　色　ロームブロック微量
5　黒　　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
7　黒　　褐　　色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
8　灰　　褐　　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
9　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
10　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
11　黒　　褐　　色　ロームブロック少量
12　黒　　褐　　色　ロームブロック微量
13　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
14　暗　　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量
15　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
16　黒　　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
17　極 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
18　暗　　褐　　色　ロームブロック微量
19　暗　　褐　　色　ロームブロック少量



第175図　第174号住居跡実測図



第176図　第174号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片434点（坏151・椀４・甕275・甑４），須恵器片27点（坏６・椀２・鉢３・甕16），鉄製品１点（刀子）が出土している。これらの遺物は中央部から東壁の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片264点，弥生土器片16点，石器２点（敲石・剥片），礫７点が出土している。出土状況から1314～1316・1318～1320は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀前葉と考えられる。

第174号住居跡出土遺物観察表（第176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1313	土師器	坏	14.7	4.8	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	東部下層	100% PL102
1314	土師器	坏	13.7	4.1	−	長石·石英·赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	南部下層	100% PL102
1315	土師器	坏	13.6	4.0	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ。	南部下層	95% 二次焼成。 PL102
1316	土師器	坏	11.8	4.2	−	長石·石英·赤色粒子	黒褐	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ。	南部下層	100% PL102
1317	土師器	坏	[14.4]	3.5	−	長石·石英·雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部下層	60%
1318	土師器	甕	16.2	17.8	7.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ナデ。	北西部下層	99% 底部に焼土付着。PL102
1319	土師器	小形甕	14.8	14.0	7.8	長石·石英·赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部下層	80% 底部五角形。PL102
1320	土師器	甕	19.6	40.0	7.4	長石·赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北西部下層	100% PL103
1321	土師器	甑	28.0	31.3	10.4	長石·石英·雲母·赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	東部下層	100% PL102

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1322	刀子	7.2	0.9	0.3	(6.6)	鉄	茎部片。	北部下層	

第177号住居跡（第177・178図）

位置　調査区中央部西寄りのＧ２a5 区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第144・172・174号住居跡，北に第170号住居跡，北東に第111号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　西壁が第178号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.45m，短軸5.10mの方形で，主軸はＮ−９°−Ｗであり，壁高は62～74cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ８～10cmでほぼ全周している。壁際には炭化材や焼土塊がそれぞれ床面で確認され，廃絶後に焼失したと考えられる。

竈　北壁の中央部を壁外へ57cmほどの掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅136cm，焚口部から煙道部までの長さ159cmである。火床部は床面から14cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。袖部は床面がわずかに掘り窪められてその部分に埋土をし，その上に焼土混じりの粘土で構築され，作り替えられたと考えられる。また西袖部の覆土中からは土製支脚が出土している。さらに火床部からも土製支脚が立位で出土し，その周辺からは土師器坏・甕片が多数出土している。

竈土層解説

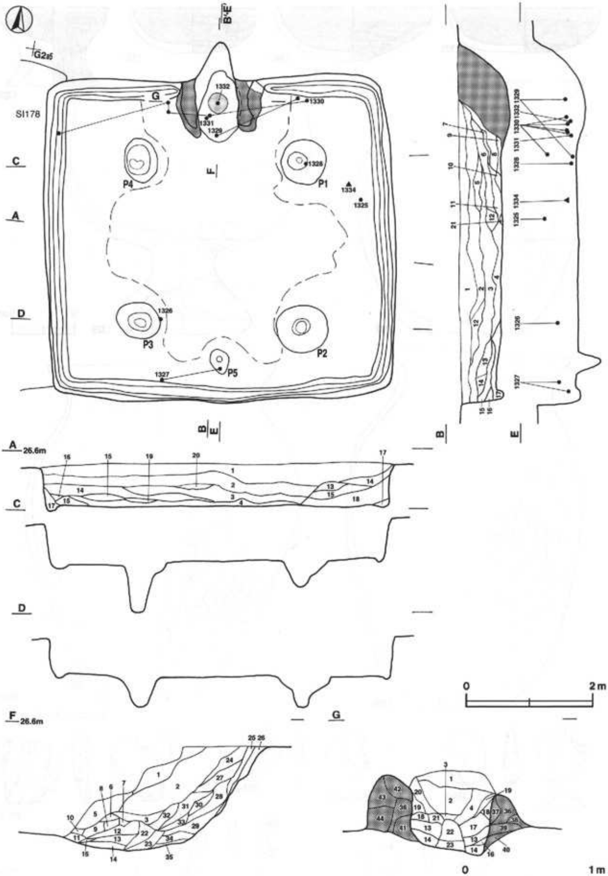
1　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子微量
5　暗褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
7　暗褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック中量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック微量
12　黒褐色　焼土ブロック・灰少量，粘土粒子微量
13　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・灰微量
14　黒褐色　焼土ブロック・粘土粒子・灰微量
15　赤黒色　炭化粒子・焼土ブロック微量

16 暗赤褐色 炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
17 黒　褐　色 焼土ブロック微量
18 暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
19 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
20 黒　褐　色 ロームブロック・粘土ブロック・白色粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
21 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物・粘土ブロック少量
22 暗赤褐色 焼土粒子多量，粘土ブロック中量，ローム粒子少量
23 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量
24 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
25 黒　褐　色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
26 黒　褐　色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
27 黒　褐　色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
28 暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
29 黒　褐　色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量
30 にぶい赤褐色 焼土ブロック微量
31 暗赤褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
32 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
33 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
34 黒　褐　色 炭化粒子少量，焼土ブロック微量
35 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
36 にぶい黄褐色 粘土粒子多量，焼土ブロック微量
37 暗赤褐色 焼土ブロック多量，炭化粒子微量
38 黒　褐　色 粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
39 にぶい黄褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
40 暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
41 灰黄褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
42 黒　褐　色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
43 黒　褐　色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
44 黒　褐　色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

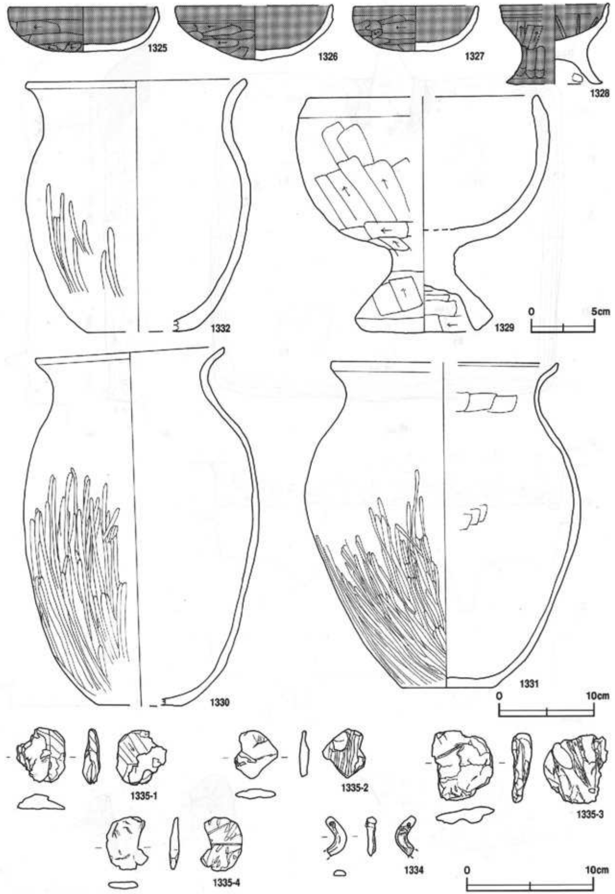
ピット　5か所。主柱穴はP1～4で，深さは44～75cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ35cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　21層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
6 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
7 黒褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8 灰黄褐色 粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11 黒褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
13 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
14 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
15 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
16 黒褐色 ロームブロック微量
17 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
18 極暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
19 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
20 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
21 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量



第177図　第177号住居跡実測図



第178図　第177号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片3050点（坏1571・椀２・高坏６・台付椀４・甕1466・甑１），須恵器片11点（坏４・蓋１・甕６），土製品51点（勾玉１・支脚１・不明49），礫８点が出土している。これらの遺物は竈内及び南東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片558点，弥生土器片６点，剝片３点や撹乱による混入した陶器片１点がそれぞれ出土した。出土状況から1328〜1331は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から７世紀中頃と考えられる。

第177号住居跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1325	土師器	坏	11.7	3.5	−	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	底部外面ヘラ削り。	東部中層	60% PL102
1326	土師器	坏	[12.2]	4.3	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部中層	40%
1327	土師器	坏	9.8	3.6	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南部中層	90% PL103
1328	土師器	高坏	[8.1]	6.3	[7.6]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部内面暗文状のヘラ磨き。	北東部下層	30%
1329	土師器	高台付椀	[17.8]	18.7	8.8	長石・石英・雲母・小礫	灰褐	普通	体部内面ナデ。	北部下層	60% PL102
1330	土師器	甕	19.8	38.0	8.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	北部下層	65% PL103
1331	土師器	甕	[24.0]	34.5	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。頸部・体部内面ヘラナデ。	竈下層	70% 外面煤付着。PL103
1332	土師器	小形甕	17.2	19.9	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	竈下層	70% PL102

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1334	不明土製品	(3.1)	(1.6)	0.9	(19.6)	土製	穿孔１か所。外面ナデ。	東部下層	PL105
1335①	不明土製品	4.3	3.8	1.2	11.3	土製	ヘラ削り痕。3枚が圧着されている。	覆土中	
1335②	不明土製品	3.8	3.3	0.7	5.6	土製	ヘラ削り痕。平行な繊維圧痕。	覆土中	
1335③	不明土製品	5.4	4.8	1.5	26.2	土製	糸状の圧痕，数条の棒状工具圧痕及び繊維圧痕。	覆土中	
1335④	不明土製品	4.2	3.3	0.7	7.2	土製	ナデ。繊維圧痕。	覆土中	

第178号住居跡（第179図）

位置　調査区中央部西寄りのＧ２a4区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第139号住居跡，北東に第125号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北西コーナー部が第195号住居跡を掘り込み，東壁を第177号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　東部が第177号住居跡に掘り込まれているため，確認できたのは長軸5.96m，短軸4.35mで，形状は長方形または方形と推測される。主軸はＮ－４°－Ｅであり，壁高は24〜33cmで外傾して立ち上がる。

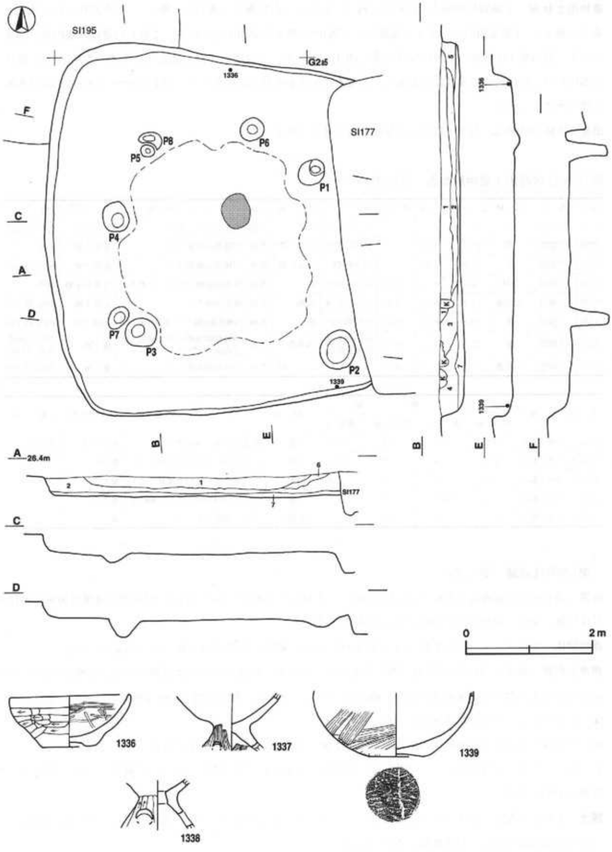
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部やや北寄りに不整楕円形状のわずかな焼土が確認でき，炉と考えられる。

ピット　８か所。主柱穴はＰ１〜５であり，深さは30〜66cmで，各コーナー寄りに位置している。Ｐ６〜８の性格は不明である。

覆土　７層からなる。第２・４・７層はロームブロックを含んだブロック状の状況を示しているが，他はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
１　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
２　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量



第179図　第178号住居跡・出土遺物実測図

3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片306点（坏51・高坏３・甕251・手捏土器１），土製品２点（不明）が出土している。これらの遺物は全体的に覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片399点，弥生土器片１点，剝片６点や撹乱によって須恵器片９点（坏３・甕６），灰釉陶器片１点（不明），鉄製品１点（刀子）がそれぞれ出土している。出土状況から1339は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から４世紀中葉と考えられる。

第178号住居跡出土遺物観察表（第179図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1336	土師器	坏	9.4	4.0	4.4	長石・石英	赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ナデ。	北西部下層	95% PL102
1337	土師器	器台	－	（4.6）	－	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ナデ。	覆土中	10%
1338	土師器	器台	－	（4.1）	－	長石・石英	にぶい褐	普通	脚部内面ヘラ削り。	覆土中	10%
1339	土師器	甕	－	（5.1）	4.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ナデ。底部木葉痕を残すナデ。	南東部下層	10% PL103

第186号住居跡（第180図）

位置　調査区の南西部のＧ１e0区に位置し，北西から南東への斜面部に立地している。

重複関係　東壁の中央部が第195号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　北西から南東への斜面部に立地しているため，南壁の立ち上がりは不明であり，確認できたのは長軸2.95m，短軸2.93mで，形状は方形と推測され，主軸はＮ－17°－Ｗであり，壁高は８～10㎝で外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。壁溝が深さ４～６㎝で，北壁下で検出されている。

炉　中央部南寄りに付設されている。長径68㎝，短径60㎝の楕円形で，床面を４㎝ほど掘り窪めた地床炉であり，炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量

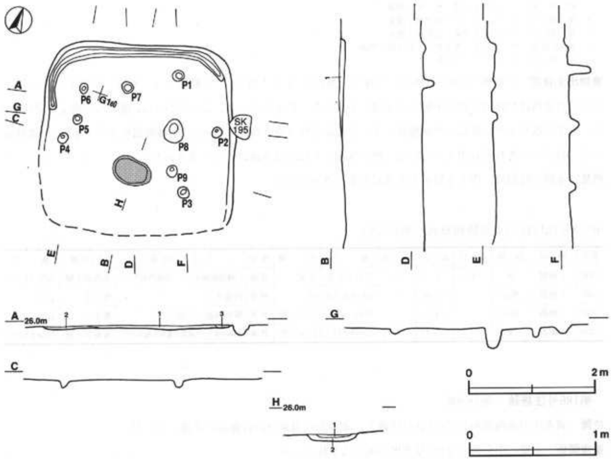
ピット　９か所。主柱穴はＰ４・５で，深さは15～19㎝であり，西壁中央部寄りに位置し，棟持ち柱と考えられる。その他のＰ１～３・６～９の性格は不明である。

覆土　３層からなる。覆土が薄いため，判断が困難であるが，ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（坏），須恵器片２点（甕），縄文土器片２点が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土し，いずれも細片のため，図示できない。

所見　本跡は，出土遺物が少なく，細片のため時期は不明であるが，形状や構造などから古墳時代前・中期頃と考えられる。



第180図　第186号住居跡実測図

第190号住居跡（第181図）

位置　調査区中央部西寄りのＧ２c4 区に位置し，北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第120号住居跡，東に第123号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　東壁が第189号住居跡に掘り込まれている。

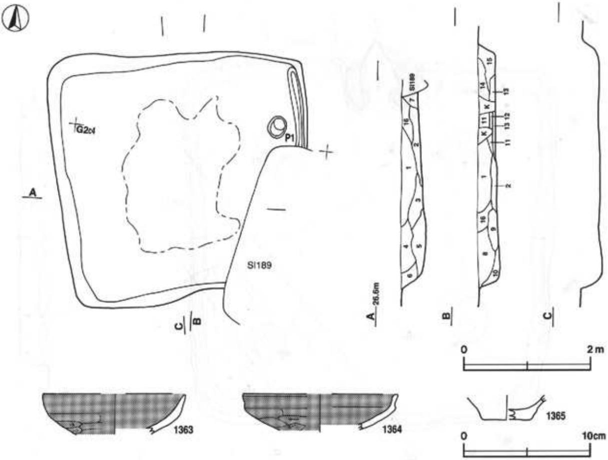
規模と形状　一辺4.06ｍの方形で，主軸はＮ－13°－Ｗであり，壁高は28～32cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ４～８cmで東壁の一部に付設されている。

ピット　Ｐ１は深さ10cmで，東壁際の中央部に位置しているが，性格は不明である。

覆土　16層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック微量
3　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
6　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗 褐 色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
13　暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
14　暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
16　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量



第181図　第190号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片516点（坏270・高坏1・椀1・甕243・ミニチュア1），須恵器片13点（坏4・蓋2・壺1・甕6），土製品6点（不明）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片196点，弥生土器片2点，剥片5点が出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀代と考えられる。竈の付設位置については不明であり，第189号住居跡によって削平されたと考えられる。

第190号住居跡出土遺物観察表（第181図）

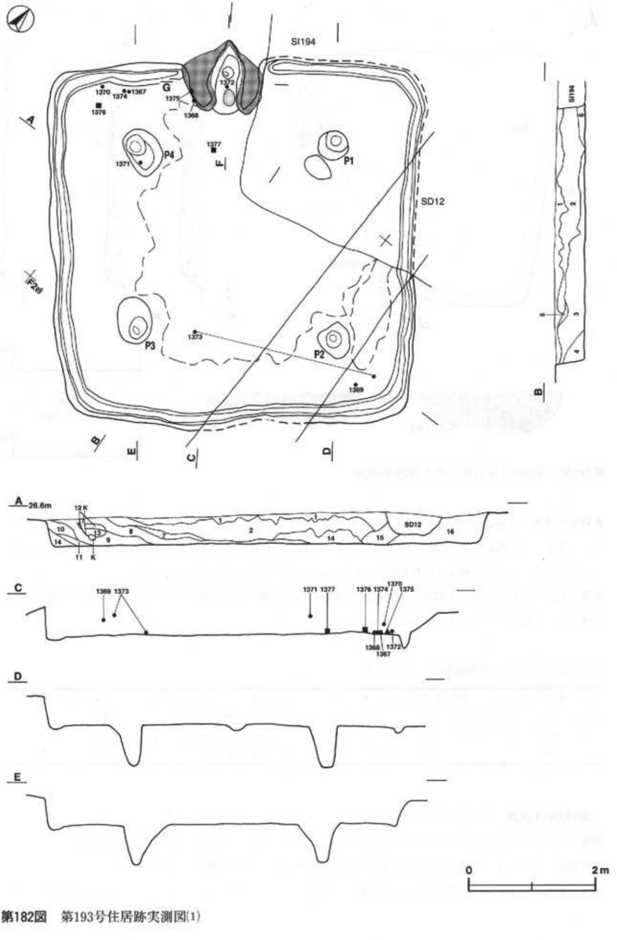
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1363	土師器	坏	［11.0］	（3.2）	－	長石・赤色粒子	暗赤灰	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	25%
1364	土師器	坏	［12.2］	（2.8）	－	長石・赤色粒子	黒	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	5％
1365	土師器	ミニチュア土器	－	（2.1）	［3.8］	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部両面ナデ。	覆土中	30%

第193号住居跡（第182～184図）

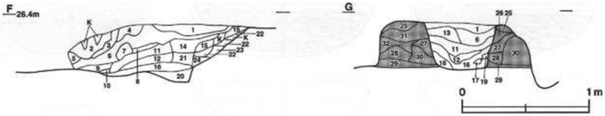
位置　調査区中央部のＦ２ｂ9区に位置し，平坦部に立地している。周辺には同時期の遺構はない。

重複関係　北コーナー部が第194号住居跡，東部を第12号溝にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.63m，短軸5.07mの方形で，主軸はＮ－41°－Ｗであり，壁高は36～52cmで外傾して立ち上がる。



第182図　第193号住居跡実測図(1)



第183図 第193号住居跡実測図(2)

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ４～８㎝でほぼ全周している。

竈 北西壁の中央部を壁外へ52㎝ほど掘り込み，粘土などで構築されている。規模は両袖部幅130㎝，焚口部から煙道部までの長さ120㎝である。火床部は床面を10㎝ほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。また，火床部の北側から土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説

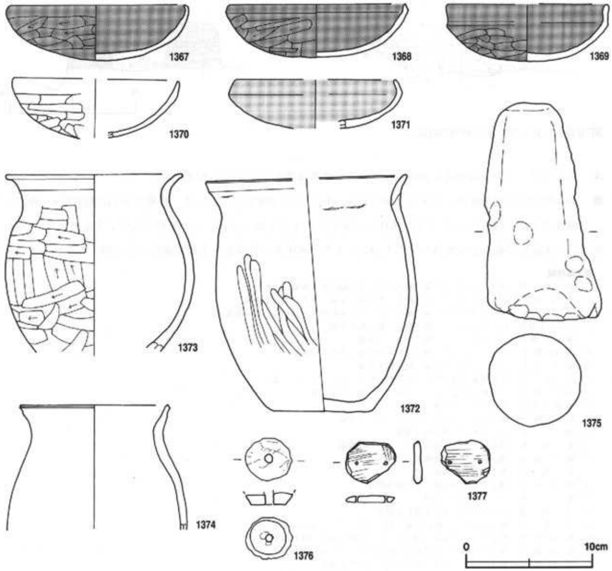
1 暗褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・粘土粒子少量
2 暗赤褐色 ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
3 黒褐色 ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
4 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
5 極暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7 暗赤褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量
8 褐灰色 砂粒多量，焼土粒子・粘土粒子少量，ロームブロック微量
9 極暗褐色 炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
10 極暗赤褐色 焼土ブロック中量
11 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量
12 褐色 ローム粒子・炭化粒子多量
13 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒微量
14 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物微量
15 赤褐色 焼土ブロック微量
16 暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子微量
17 褐色 ロームブロック中量
18 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
19 赤褐色 粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
20 暗赤褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
21 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
22 暗赤褐色 粘土ブロック少量，焼土ブロック・砂粒微量
23 暗赤褐色 砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
24 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック・砂粒微量
25 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
26 黒褐色 粘土ブロック・砂粒中量，ロームブロック・焼土ブロック少量
27 暗赤褐色 焼土ブロック多量，粘土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
28 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量，砂粒微量
29 黒褐色 ロームブロック・砂粒中量，焼土ブロック微量
30 灰褐色 粘土ブロック多量，ロームブロック・砂粒中量，焼土ブロック少量
31 灰褐色 粘土ブロック・砂粒多量，ロームブロック・礫少量，焼土ブロック・炭化物微量
32 灰褐色 粘土ブロック・砂粒多量，焼土ブロック少量，炭化物微量

ピット ４か所。主柱穴はＰ１～４であり，深さは65～68㎝で，各コーナー寄りに位置している。

覆土 16層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第184図　第193号住居跡出土遺物実測図

8	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
10	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
11	暗褐色	ローム粒子微量
12	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
13	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
14	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
15	暗褐色	ロームブロック微量
16	褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片511点（坏279・鉢４・甕268），須恵器片６点（坏２・甕３・甁１），土製品１点（支脚），石製品２点（紡錘車・双孔円板），礫11点が出土している。これらの遺物は西コーナー付近と東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片112点が出土している。出土状況から1368・1373は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。

第193号住居跡出土遺物観察表（第184図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1367	土師器	坏	13.8	4.3	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	西部下層	98% PL102
1368	土師器	坏	13.9	4.2	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	西部下層	80% PL102
1369	土師器	坏	[12.7]	4.6	−	長石・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部両面横ナデ。	東部中層	50%
1370	土師器	坏	[13.2]	(4.7)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	西部中層	20%
1371	土師器	坏	[12.6]	(3.7)	−	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部外面ナデ。	西部中層	20%
1372	土師器	小形甕	15.8	18.7	7.9	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ナデ。	竈下層	95% PL103
1373	土師器	小形甕	[14.0]	(14.0)	−	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部中層	70%
1374	土師器	小形甕	[11.7]	(9.8)	−	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部外面ナデ。	西部下層	30% PL102

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1375	支脚	17.0	9.0	4.3	880.0	土製	外面指頭痕	北西部下層	
1376	紡錘車	(3.3)	(1.0)	0.7	(14.8)	滑石	無文。上面欠損。	西部下層	PL117
1377	双孔円盤	3.3	3.9	0.6	11.8	滑石	縁辺部調整。	西部下層	PL117

第197号住居跡（第185・186図）

位置　調査区南部のＨ２b8区に位置し，台地縁辺部で北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第91号住居跡が位置している。

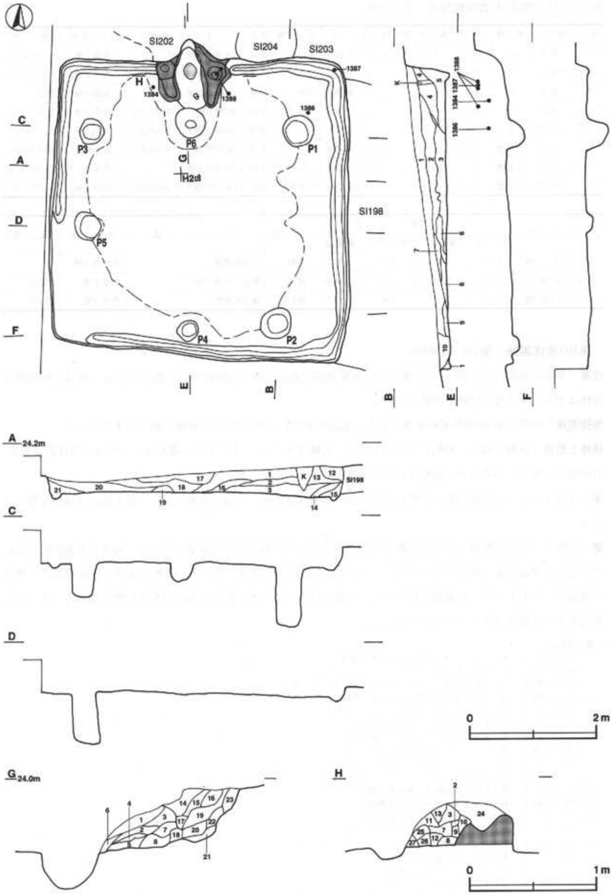
重複関係　東壁が第198号住居跡を掘り込み，北部が第202・203・204号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.84m，短軸4.58mの方形で，主軸はＮ－２°－Ｅであり，壁高は８～60cmでほぼ直立する。斜面部に立地しているため，南壁はわずかに残存しているだけである。

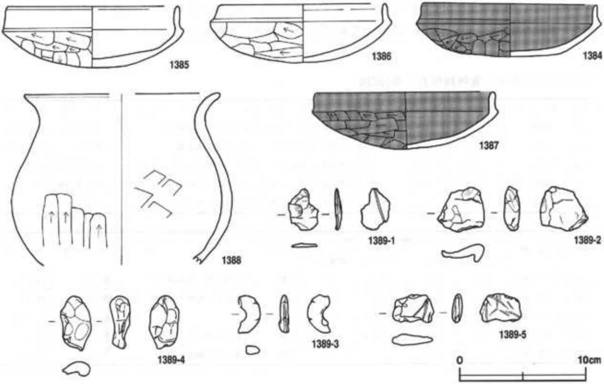
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmで南東コーナー部を除いてほぼ全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅114cm，焚口部から煙道部までの長さ120cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。両袖部に柱穴のような掘り込みが見られ，棚状の施設の存在が想定される。また，土製支脚が火床部南部から立位で出土している。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2　極暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
12　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
13　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
14　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15　灰褐色　粘土粒子・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
16　黒褐色　焼土ブロック・粘土粒子微量
17　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
18　黒褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量
19　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
20　極暗褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量



第185図　第197号住居跡実測図



第186図　第197号住居跡出土遺物実測図

21 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
22 暗 赤 褐 色　ロームブロック・炭化物微量
23 極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
24 極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
25 暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
26 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
27 黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　6か所。主柱穴はP1～3で，深さは35～95cmであり，各コーナー寄りに位置している。P4は深さ11cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ78cmで，主柱穴を結ぶ線上にあることから補助柱穴と考えられるが，様相が異なり性格は不明である。P6は深さ29cmで，竈の焚口部と隣接し，覆土は焼土や炭化物などを含む土層であり，竈からの廃土を埋めたものと考えられる。

覆土　21層からなる。北から流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
2 黒　褐　色　焼土ブロック微量
3 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4 黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
5 黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
7 黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
8 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
9 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
10 黒　褐　色　ローム粒子微量
11 黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
12 黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
13 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
14 黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
15 黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
16 黒　褐　色　炭化粒子微量，ロームブロック・焼土ブロック微量
17 黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック微量
18 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
19 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
20 黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
21 黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片682点（坏416・高坏2・甕264），須恵器片65点（坏25・蓋2・甕38），土製品22点（支脚1・不明21），鉄滓1点が出土している。これらの遺物は中央部と北東コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片656点，礫22点や撹乱によって混入した灰釉陶器

片５点（壺），陶器片１点がそれぞれ出土している。出土状況から1386は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から６世紀後葉から７世紀前葉と考えられる。

第197号住居跡出土遺物観察表（第186図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1384	土師器	坏	13.8	4.2	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部中層	85% PL103
1385	土師器	坏	13.6	4.9	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	90% PL91
1386	土師器	坏	13.1	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部両面・体部内面横ナデ。	北東部中層	95% PL103
1387	土師器	坏	14.1	4.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部上層	80%
1388	土師器	甕	[15.6]	(13.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラナデ。	北部上層	30%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1389①	不明土製品	3.5	3.8	1.3	9.9	土製	ヘラ削り痕。反面はナデ。	覆土中	PL115
1389②	不明土製品	3.0	1.8	0.7	2.6	土製	指頭痕及び棒状工具圧痕。	覆土中	PL115
1389③	不明土製品	3.0	1.8	0.7	2.6	土製	ナデ。	覆土中	PL115
1389④	不明土製品	4.2	2.4	1.6	9.9	土製	全面に指頭痕。	覆土中	PL115
1389⑤	不明土製品	2.2	3.2	0.7	4.0	土製	木葉痕及び繊維圧痕。	覆土中	PL115

第207号住居跡（第187図）

位置　調査区中央部のＦ３g1 区に位置し，平坦部に立地している。東部は調査区域外へ伸びている。周辺の同時期の遺構は東に第57号住居跡，北西に第108号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北西コーナー付近が第208号住居跡を掘り込んでいる。

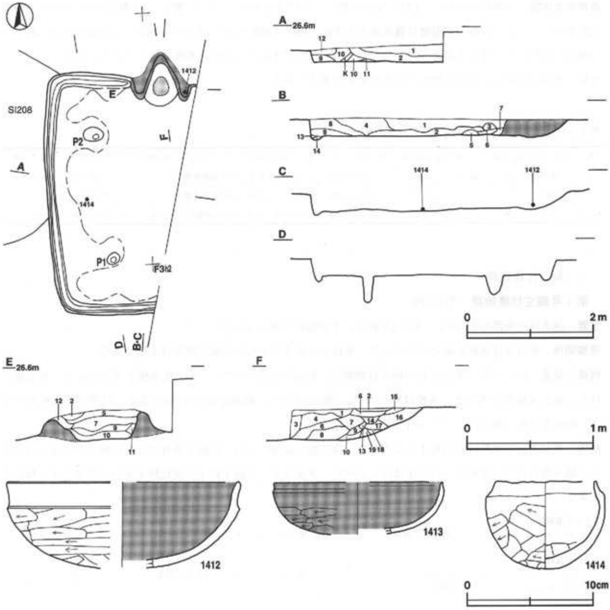
規模と形状　東部は調査区域外へ伸びているため，確認できたのは長軸3.83m，短軸1.43mで，形状は方形と推測され，主軸はＮ－３°－Ｅであり，壁高は24cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ４cmで，確認した部分の壁下を全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ52cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅100cm，焚口部から煙道部までの長さ88cmである。火床部は床面を４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

1　灰黄褐色　ロームブロック・粘土粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
8　灰黄褐色　砂粒多量，粘土粒子中量，焼土ブロック微量
9　にぶい黄褐色　焼土ブロック・砂粒少量
10　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
11　暗褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
12　赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
13　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
14　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
15　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
16　黒褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
17　黒褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
18　褐色　ローム粒子多量
19　黒褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量



第187図　第207号住居跡・出土遺物実測図

ピット　2か所。主柱穴はP1・2で，深さは41・28cmであり，北西・南西の両コーナー寄りに位置している。

覆土　14層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
4	極暗褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック微量
5	褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
6	暗褐色	ロームブロック・砂粒少量，焼土ブロック・粘土ブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
8	黒褐色	ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物微量
9	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
10	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
11	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
12	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
13	暗褐色	ロームブロック中量
14	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片114点（坏82・椀8・甕24），須恵器片17点（坏17・甕4），土製品3点（不明），礫7点が出土している。これらの遺物は竈前面と中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片43点，弥生土器片5点が出土している。出土状況から1414は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から7世紀前葉と考えられる。

第207号住居跡出土遺物観察表（第187図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1412	土師器	坏	[18.4]	(6.8)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	20%
1413	土師器	坏	[13.4]	(4.1)	−	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	25%
1414	土師器	椀	7.9	6.9	−	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	西部下層	70%

(2)　掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第188図）

位置　調査区中央部のF3d4～F3e6区で，平坦部に立地している。

重複関係　第61号住居跡を掘り込んでいる。重複する第6号土坑との新旧関係は不明である。

規模と構造　桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向はN－79°－Eの東西棟と考えられる。東妻側の柱穴2個が未検出であるが，規模は桁行5.7m，梁行3.6mで，面積は約20.70㎡である。柱間寸法は桁行がほぼ1.80mを計り，梁行は1.5・1.8mと寸法が異なる。

柱穴　掘り方の平面形は楕円形または円形で，深さ23～46cmである。柱痕は各柱穴ともに確認できず，ほとんどが抜き取られて，埋め戻された土はロームブロックを主とした焼土粒子や炭化粒子を含む暗褐色土や褐色土である。

P1土層解説
1　暗褐色　ロームロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量

P2土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

P3土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子微量
4　暗褐色　炭化粒子微量
5　褐色　ロームブロック少量

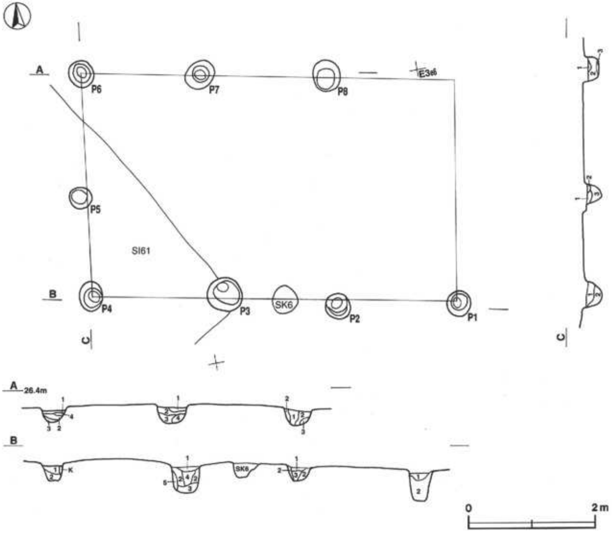
P4土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック微量

P5土層解説
1　暗褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子微量

P6土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐色　ロームブロック中量
3　褐色　ロームブロック少量
4　褐色　ロームブロック少量

P7土層解説
1　褐色　ローム粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック少量

P8土層解説
1　暗褐色　炭化粒子少量
2　褐色　ロームブロック少量
3　褐色　ローム粒子少量



第188図　第１号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　P２から縄文土器片１点，P７から縄文土器片１点，P８から土師器片１点（坏）が出土している。出土土器はすべてが細片であるため，図示できるようなものはなく，時期判定は困難である。

所見　本跡は７世紀後葉の第61号住居跡を掘り込んであり，時期は７世紀後葉以後と考えられる。柱穴の規模や形状から見て堅固な上屋構造は推測できず，軽量なものの保管倉庫の可能性がある。

第７号掘立柱建物跡（第189図）

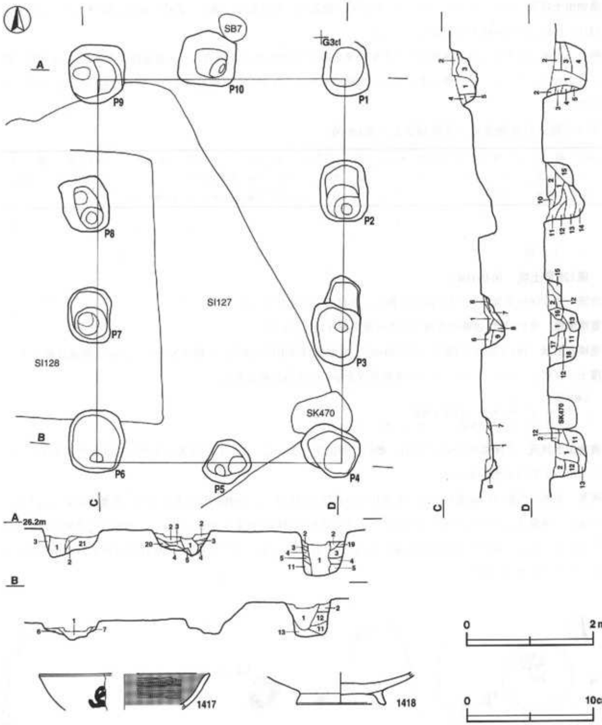
位置　調査区の中央部のＧ２b0～Ｇ２b1区で，平坦部に立地している。

重複関係　P４が第８号掘立柱建物跡のＰ10に掘り込まれている。

規模と構造　桁行２間，梁行２間の総柱建物跡で，桁行方向はＮ－88°－Ｅの東西棟と考えられる。規模は桁行3.60m，梁行3.14mで，面積は約11.30㎡である。柱間寸法は桁行1.40～1.88m，梁行1.28～1.86mである。

柱穴　掘り方の平面形は円形または楕円形で，深さ７～30cmである。柱抜き取り痕はすべての柱穴から確認され，埋め戻された土は，ローム粒子を含む黒褐色土や暗褐色土で，しまりは弱い。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　　色　ロームブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量



第190図　第8号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック微量
2	暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック微量
5	黒褐色	ロームブロック微量
6	黒褐色	ロームブロック微量
7	黒褐色	ロームブロック微量
8	黒褐色	ロームブロック微量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
10	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
12	暗褐色	ロームブロック少量
13	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
14	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
15	黒褐色	ロームブロック少量
16	黒褐色	ロームブロック少量
16	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
18	黒褐色	ローム粒子少量
19	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
20	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量
21	黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　P1～4・6・7・9・10から土師器片，須恵器片，縄文土器片，瓦片，礫が出土している。1416・1417はP9の埋土から出土している。

所見　本跡の時期は7世紀後葉から8世紀前葉の第127号住居跡を掘り込み，8世紀後葉の第128号住居跡に掘り込まれているので，その間と考えられ，規模や形状から堅固な上屋構造でなく，軽量なものの保管倉庫の可能性がある。

第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種 別	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
1416	土師器	坏	[13.4]	(2.8)	－	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面ナデ。	P1覆土中	5% 外面墨書「□」
1417	須恵器	高台付坏	－	(2.2)	7.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	P9下層	50%

(3) 土　坑

第128号土坑（第191図）

位置　調査区中央部のF2b5区に位置し，平坦部に立地している。

重複関係　第121号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいる。

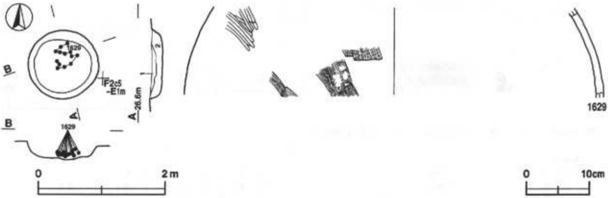
規模と形状　径1.09mの円形で，深さ24cmで，底面はほぼ平坦である。主軸はN－0°であり，壁面は直立する。

覆土　2層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片106点（坏41・甕65）が出土している。これらの土器は中央部の底面から出土している。出土土器は大甕である。

所見　本跡の性格は口縁部片1点，底部片2点のほかはほとんどが体部片であるので，大甕を固定するための土坑か，廃棄するための土坑と考えられ，出土土器が古墳時代前葉であることから，時期は古墳時代前期と考えられる。また，類似した体部片が第111・118・152・170・172・177・178号住居跡から出土しているが，混入したものと考えられる。



第191図　第128号土坑・出土遺物実測図

第128号土坑出土遺物観察表（第191図）

番号	種 別	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備 考
1629	土師器	甕	－	(14.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ナデ，外面ハケ目調整後，ヘラ磨き。	中央部下層	5%

第487号土坑（第192図）

位置　調査区中央部のＧ２g8 区に位置し，平坦部に立地している。

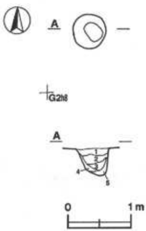
規模と形状　長径0.54m，短径0.50mの円形で，深さ43cmで，底面は皿状である。主軸はＮ－０°で，壁面は緩やかな傾斜で立ち上がる。

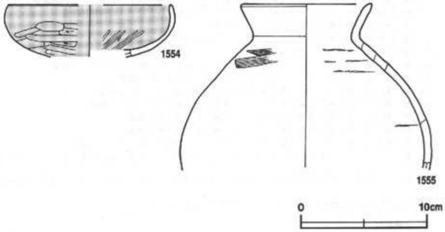
覆土　５層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢），土師器片14点（坏８・甕６）が出土している。これらはほとんどが覆土中から出土している。

所見　本跡の性格は不明で，時期は古墳時代後期の土師器坏・甕が出土しているが，混入した土器と考えられるので，判断は困難であるが，古墳時代後期以後と考えられる。





第192図　第487号土坑・出土遺物実測図

第487号土坑出土遺物観察表（第192図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備　考
1554	土師器	坏	[12.8]	(4.1)	－	長石·石英·雲母	明褐	普通	底部外面ヘラ削り。内·外面赤彩。	覆土中	20%
1555	土師器	甕	10.4	(13.0)	－	長石·石英·雲母	明褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。	覆土中	10%

4　奈良時代の遺構と遺物

今回の調査で，竪穴住居跡15軒，大型円形土坑３基が確認されている。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

⑴　竪穴住居跡

第８号住居跡（第193・194図）

位置　調査区北西部のＥ２a5 区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南西に第27号住居跡が位置している。

重複関係　西部が第10号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.30m，短軸5.16mの方形で，主軸はN－25°－Wである。壁高は38～52cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ８～12cmで全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ36cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅133cm，焚口部から煙道部までの長さ111cmである。火床面は床面から８cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。袖部は北東袖部がロームを掘り残し，南西袖がわずかに地山を掘り窪められ，両袖とも焼土が混じった粘土と礫を混ぜて，水平に積み上げて構築しており，内壁も火熱を受け赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・白色粒子中量，粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，粘土ブロック・白色粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・礫微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・粘土ブロック・白色粒子少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
6　赤黒色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化物・粘土ブロック少量，焼土ブロック・白色粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化物少量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量
10　暗赤褐色　焼土粒子・粘土ブロック中量，焼土ブロック・ローム粒子微量
11　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
12　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・粘土ブロック少量，炭化粒子・白色粒子微量
13　黒褐色　焼土粒子多量，粘土ブロック中量，ロームブロック少量
14　暗赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック少量
15　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・粘土粒子微量
16　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子・炭化物・粘土ブロック微量
17　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，砂質粘土粒子微量
18　暗褐色　粘土ブロック・礫中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量
19　暗褐色　粘土粒子多量，粘土ブロック中量，礫少量，焼土ブロック微量
20　黒褐色　粘土粒子中量，粘土ブロック・礫少量，焼土粒子微量
21　暗褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・礫少量，焼土粒子微量
22　黒褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
23　褐色　ローム粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土ブロック微量

ピット　５か所。主柱穴はP１～４で，深さは36～49cmである。P５は深さ26cmで，中央部から南東壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

P1土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
4　褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　ロームブロック中量，ローム粒子少量
6　褐色　ローム粒子多量，ロームブロック中量
7　褐色　ローム粒子多量，ロームブロック中量

P2土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，ローム粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック・ローム粒子中量
5　暗褐色　ロームブロック中量，ローム粒子少量

P3土層解説

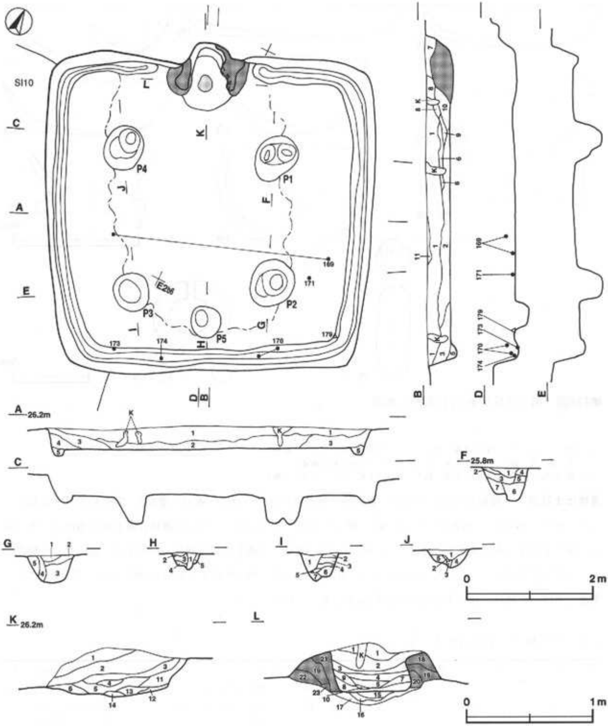
1　黒褐色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック中量
5　褐色　焼土粒子多量，焼土ブロック中量
6　褐色　ロームブロック中量
7　褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

P4土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
2　黒褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　褐色　ロームブロック中量，ローム粒子少量
5　褐色　ロームブロック中量

P5土層解説

1　黒褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　黒褐色　ロームブロック中量
5　黒褐色　ロームブロック中量

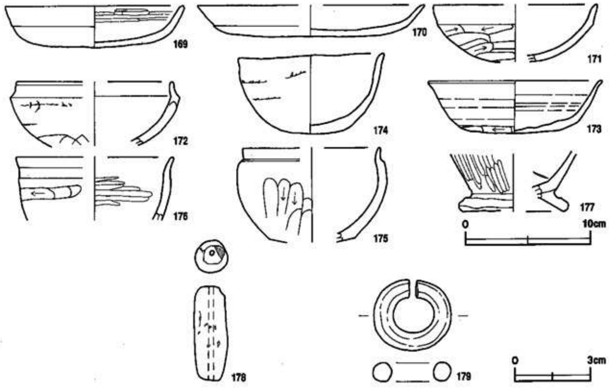


第193図　第８号住居跡実測図

覆土　11層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
3	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
6	黒　褐　色	粘土ブロック少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物微量
7	暗　褐　色	粘土粒子中量，粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック・礫微量
8	黒　褐　色	粘土ブロック少量，ロームブロック・焼土ブロック微量



第194図　第8号住居跡出土遺物実測図

9　褐　　　色　ローム粒子多量，ロームブロック中量，焼土ブロック微量
10　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片782点（坏424・甕358），須恵器片86点（坏43・蓋17・甕26），土製品4点（支脚1・管状土錘1・不明2），銅製品1点（耳環），礫7点が出土している。これらの遺物は竈前面と南西コーナー付近の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片98点，石器1点（敲石1）や撹乱によって混入が陶器片2点，瓦片1点がそれぞれ出土している。出土状況から176は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表（第194図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　　土	色　　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　　考
169	土師器	坏	14.2	3.3	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ。	中央部下層	50% PL108
170	土師器	坏	[18.0]	2.5	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面ヘラ削り。	南東部中層	50% PL103
171	土師器	坏	[13.0]	(4.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部下層	40%
172	土師器	坏	[12.4]	(5.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部覆土中	40% 口縁部下端に輪積痕。
174	土師器	椀	11.6	6.4	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り後，ナデ。	南部下層	99% PL103
175	土師器	鉢	[11.0]	7.4	[6.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部一方向のヘラ削り。	北部覆土中	25%
176	土師器	椀	[12.5]	(5.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	竈覆土中	10%
173	須恵器	坏	13.8	4.2	7.0	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り	南部下層	80% PL104
177	土師器	台付甕	－	(4.7)	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ。脚部両面ナデ。	覆土中	5%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	径(cm)	口径(cm)	重量(g)				
178	不明土製品	3.6	1.3	0.2	5.25	土製	ナデ。焼成前穿孔，未貫通。	覆土中	管状土錘か。PL115

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
179	耳環	3.0	0.7	0.7	20.2	銅	銀鍍金か。	南東部下層	

第9号住居跡（第195・196図）

位置　調査区北西部のＦ３e1区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北東に第50号住居跡が位置している。東部は調査区域外へ伸びる。

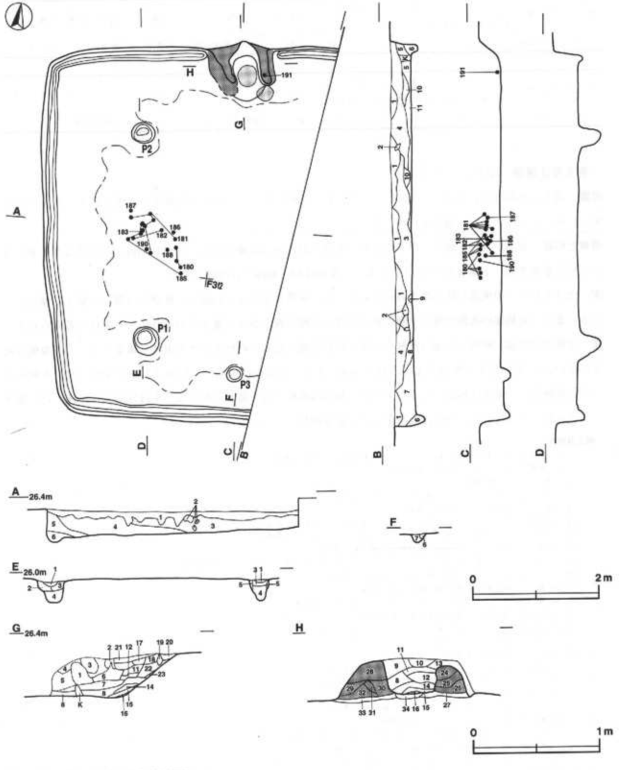
規模と形状　東部が調査区域外へ伸びるため，確認されたのは長軸5.82m，短軸4.50mで，形状は方形または長方形と推測され，主軸はＮ－６°－Ｗであり，壁高は44～48cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ８～10cmで，確認した部分の壁下で検出している。また，東袖部の南側の覆土下層に粘土を含んだ焼土塊があり，竈からの流れ出した竈材と考えられる。

竈　北壁の中央部を壁外へ12cmほど掘り込み，砂粒と焼土混じりの粘土などを混ぜて構築している。規模は両袖部幅106cm，焚口部から煙道部までの長さ98cmである。火床面は床面から12cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。袖部は砂粒と焼土混じり粘土などをほぼ水平に積み上げて構築し，作り替えが行なわれ，内壁は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　粘土ブロック中量，砂粒少量
3　暗褐色　炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
7　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗赤褐色　ローム粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
10　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量
11　灰黄褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒少量
12　暗赤褐色　ローム中ブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
13　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
14　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量
15　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量
16　赤褐色　焼土粒子多量
17　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
18　灰褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・白色ブロック微量
19　暗褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量
20　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
21　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
22　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
23　灰褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，粘土ブロック微量
24　灰褐色　ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
25　暗赤褐色　ロームブロック・焼土粒子中量，焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化物微量
26　灰褐色　ロームブロック・粘土ブロック中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
27　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
28　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック中量，ロームブロック少量
29　灰褐色　粘土ブロック中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
30　黒褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
31　暗赤褐色　焼土ブロック多量
32　灰褐色　粘土ブロック多量，焼土粒子中量，ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
33　黒褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
34　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量，炭化物微量

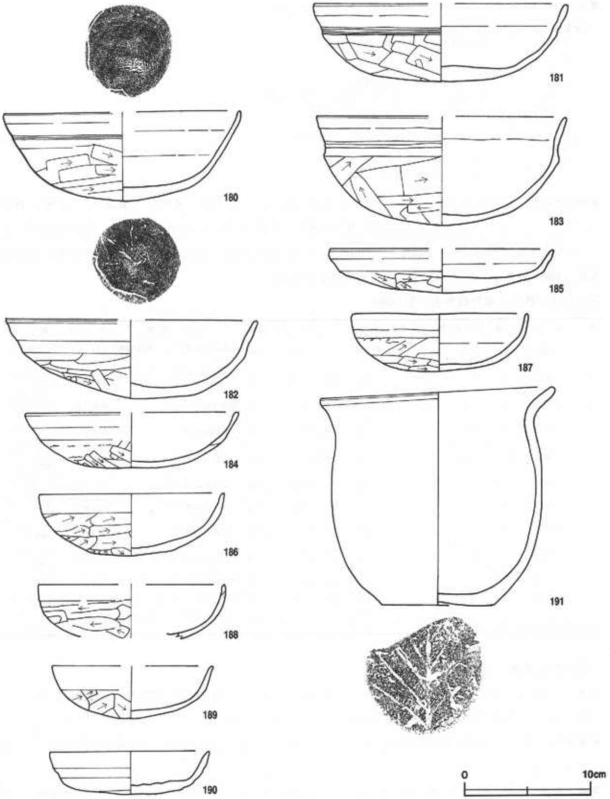


第195図　第９号住居跡実測図

ピット　３か所。主柱穴はＰ１・２で，深さは40・38cmであり，北西・南西の両コーナー寄りに位置している。Ｐ３は深さ20cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量，ロームブロック微量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量，ローム粒子微量



第196図　第9号住居跡出土遺物実測図

5　褐　　色　ロームブロック・ローム粒子少量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗 褐 色　ローム粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量

覆土 11層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐　　色 ロームブロック多量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
8 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
9 褐　　色 ロームブロック・ローム粒子少量
10 褐　　色 ロームブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
11 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片850点（坏671・甕179），須恵器片15点（坏4・蓋1・甕10），土製品2点（不明），礫11点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片233点，弥生土器片8点が出土している。出土状況から181・182は本跡に伴うと考えられる。

所見 本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第9号住居跡出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
180	土師器	坏	[18.6]	7.0	－	長石	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	西部上層	60%底部内面に布目痕。PL104
181	土師器	坏	[20.0]	6.1	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	西部中層	70%底部内面に指頭痕。PL103
182	土師器	坏	[20.0]	6.2	－	長石・石英	明赤褐	普通	底部外面ヘラ削り。	西部上層	40%底部内面に布目痕。PL103
183	土師器	坏	[19.6]	8.7	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	西部中層	50%底部内面に布目痕。PL104
184	土師器	坏	[16.8]	4.4	－	長石・小礫	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	50%体部中位に輪積痕。PL104
185	土師器	坏	[17.6]	3.4	－	長石	明赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	西部上層	50%底部内面炭化物付着 PL103
186	土師器	坏	[14.2]	5.0	－	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	口縁部両面横ナデ。	西部中層	60% PL104
187	土師器	坏	13.8	4.7	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	西部中層	60% 口縁部下端に輪積痕。PL104
188	土師器	坏	[14.5]	(4.4)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	西部中層	40% 口縁部下端に輪積痕。PL103
189	土師器	坏	[12.2]	4.2	－	長石・石英	明赤褐	普通	底部外面木葉痕を残すヘラ削り。	覆土中	30%
190	須恵器	坏	12.6	3.4	－	長石・石英	灰黄	普通	底部外面回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	西部上層	60% PL104
191	土師器	甕	18.6	17.3	8.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部両面ナデ。	北部下層	65% 体部外面下半部煤付着。PL104

第27号住居跡（第197図）

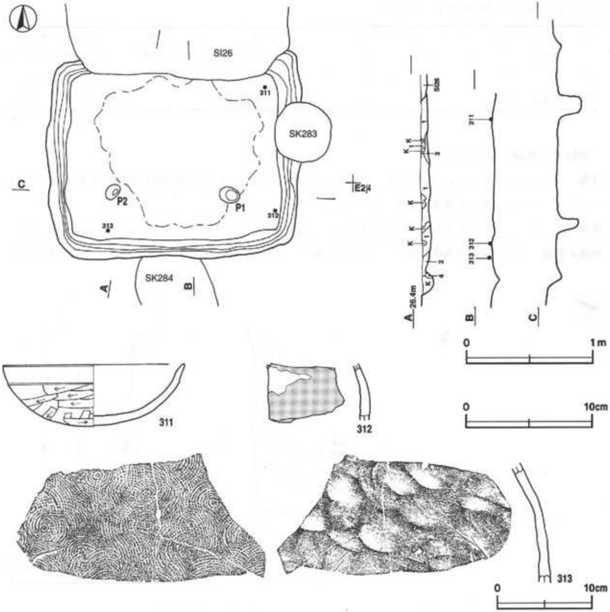
位置 調査区北部西寄りのE2i3区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第8号住居跡，南に第9号住居跡，東に第50号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係 南壁の中央部が第284号土坑を掘り込み，北壁を第26号住居跡，東壁の中央部が第283号土坑にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.93m，短軸3.14mの長方形で，主軸はN－89°－Eであり，壁高は6～20cmで外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ6～8cmで，東壁中央部の第283号土坑を除いて，壁下で検出されているが，本来は全周していたと考えられる。

竈 竈は確認されていないが，主柱穴の位置と壁溝の配置などから東壁の中央部に付設されていたが，第283号土坑に掘り込まれたと考えられる。



第197図　第27号住居跡・出土遺物実測図

ピット　2か所。主柱穴はP1・2で，深さ38・34cmであり，各コーナー寄りに位置している。

覆土　4層からなる。レンズ状の堆積状況を示すが，ロームブロックを含んだ人為堆積の状況を示している。

土層解説
1 黒褐色　ロームブロック少量
2 黒褐色　ロームブロック微量
3 暗褐色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量
4 褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片84点（坏23・甕61），須恵器片3点（甕）が出土している。これらの遺物は中央部の北寄りの覆土下層から出土している。このほかには，縄文土器片38点，弥生土器片5点や撹乱によって混入した灰釉陶器片1点などが出土している。出土状況から311は本跡に伴うと考えられる。312は床面から出土しているが時期が異なるため，混入したと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前半と考えられる。遺存していないが，本跡の竈は，主柱穴の位置と壁溝の巡り方と床面での硬化面の広がりから，東壁の中央部に付設されていた可能性がある。

第27号住居跡出土遺物観察表（第197図）

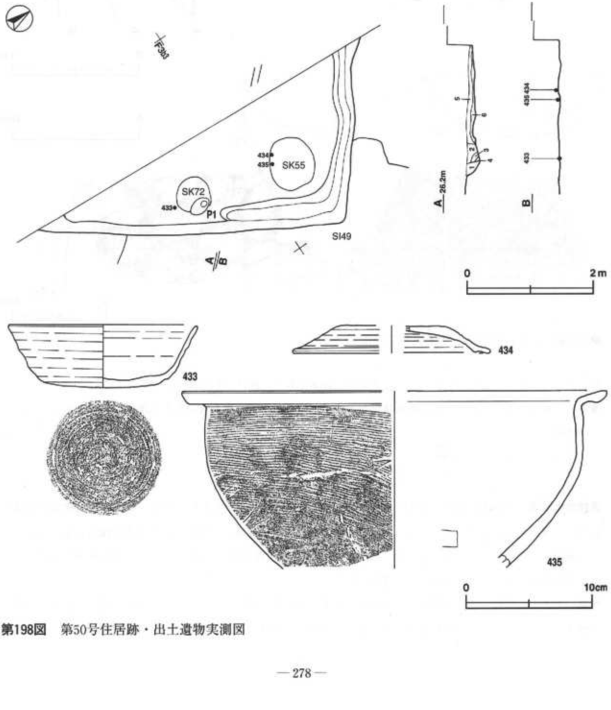
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
311	土師器	坏	14.5	4.8	－	長石	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	北東部下層	80% PL104
313	須恵器	甕	－	(11.5)	－	長石・雲母	灰黄	良好	体部外面に同心円状叩き痕。内面当て具痕。	南西部下層	10%，二次焼成。PL114
312	灰釉陶器	壺	－	(4.4)	－	長石	灰白	良好	内面ロクロナデ。	南東部下層	5%，体部片。

第50号住居跡（第198図）

位置　調査区中央部のＦ３a3区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南東に第56号住居跡が位置している。西部が調査区域外に延びている。

重複関係　東コーナー部が第49号住居跡を掘り込み，東コーナー付近を第55・72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西部が調査区域外に延びているため，東コーナー部だけが確認され，確認できたのは長軸4.55m，



第198図　第50号住居跡・出土遺物実測図

短軸2.68mで，形状は方形または長方形と推測され，主軸はN－48°－Wであり，壁高は42～44cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。壁溝は深さ３～８cmで，南東壁から東コーナー付近にかけての壁下で検出されている。南東壁の中央部の床下から第49号住居跡のＰ４を確認した。

ピット　Ｐ１は深さ36cmで，中央部から南東壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。第６層はロームブロックの混じったしまりの強い褐色土で，貼り床の埋土である。

土層解説
1　暗褐色　焼土ブロック・炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
3　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　褐　色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片44点（坏24・甕20），須恵器片７点（坏２・蓋３・鉢２）が出土している。これらの遺物は東コーナー部と南東壁際の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片21点が出土している。出土状況から433・434は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。

第50号住居跡出土遺物観察表（第198図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
433	須恵器	坏	15.0	5.0	9.1	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	南東部下層	100% PL104
434	須恵器	蓋	[15.6]	2.1	－	長石・石英・雲母	灰白	良好	天上部回転ヘラ削り。	北東部下層	40%
435	須恵器	鉢	[33.8]	(14.0)	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	良好	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北東部下層	50%

第56号住居跡（第199図）

位置　調査区北部西寄りのＦ３e8区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第９号住居跡，北西に第50号住居跡がそれぞれ位置している。

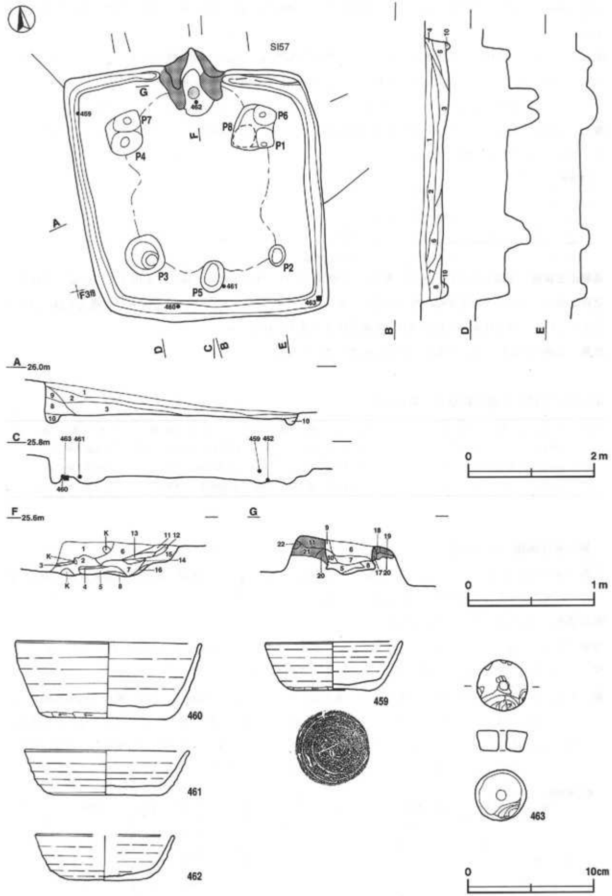
重複関係　北部が第57号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.00m，短軸3.71mの方形で，主軸はN－７°－Wであり，壁高は10～43cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ５～10cmで全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ31cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅98cm，焚口部から煙道部までの長さ108cmである。火床部は床面から４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は外傾して立ち上がる。袖部はロームを掘り残し，その上に粘土を貼り付けて構築し，東袖部は粘土が削り取られて基部のみが確認された。また，火床部中央部から土製支脚の基部が立位で出土している。

竈土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄橙色　灰中量，焼土ブロック少量
3　灰白色　灰多量，焼土粒子少量
4　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土粒子・灰少量
6　暗褐色　焼土ブロック・炭化物微量
7　暗赤褐色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
8　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　暗褐色　焼土粒子・粘土ブロック微量
10　暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量
11　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
12　明赤褐色　焼土ブロック中量
13　黒褐色　炭化粒子微量
14　明赤褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
15　黒褐色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量



第199図　第56号住居跡・出土遺物実測図

17　にぶい赤褐色　焼土ブロック微量
18　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，粘土ブロック微量
19　にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
20　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
21　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
22　暗褐色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量

ピット　8か所。主柱穴はP1～4・6・7で，深さは20～40cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ12cmであり，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1・4などには作り替えの柱痕跡が認められる。

覆土　10層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック微量
4　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　黒褐色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　ローム粒子少量
9　極暗褐色　ロームブロック微量
10　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片186点（坏102・甕84），須恵器片19点（坏18・椀1），土製品2点（不明），石製品4点（紡錘車）が出土している。これらの遺物は中央部南寄りと北西コーナー部から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片22点や撹乱によって混入した灰釉陶器片1点がそれぞれ出土している。出土状況から460～462は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第56号住居跡出土遺物観察表（第199図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
459	須恵器	坏	10.8	3.9	5.9	長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り。	北西部中層	95%底部ヘラ記号「十」。PL104
460	須恵器	坏	14.6	6.0	9.4	長石	灰褐	良好	底部多方向のヘラ削り。	南部下層	90%内面タール状炭化物付着。PL104
462	須恵器	坏	[10.8]	3.6	6.0	長石・雲母	灰黄褐色	良好	底部回転ヘラ削り。	竈下層	40%
461	須恵器	坏	12.8	3.5	8.5	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部一方向のヘラ削り。	南部下層	80%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
463	紡錘車	4.0	1.6	0.7	34.0	粘板岩	上，下部一部欠損。	南東部下層	PL117

第88号住居跡（第200・201図）

位置　調査区中央部南寄りのG3c6区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第67号住居跡が位置している。

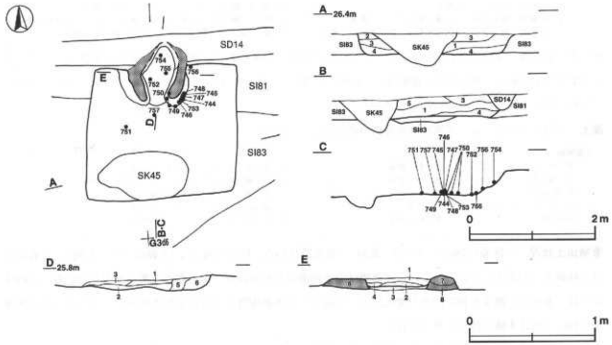
重複関係　北壁が第81号住居跡，南部が第83号住居跡をそれぞれ掘り込み，北壁を東西方向に第14号溝，南部を第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.43m，短軸2.10mの方形で，主軸はN－13°－Eであり，壁高は34cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈　北壁の中央部を壁外へ36cmほど掘り込み，粘土などで構築しれている。規模は両袖部幅108cm，焚口部から煙道部までの長さ104cmである。火床部は床面から4cmほど掘り窪められ，火熱を受け赤変硬化し，煙道は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量



第200図　第88号住居跡実測図

5	暗赤褐色	焼土粒子多量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量	
6	黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	
7	灰黄褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック微量	
8	黒　褐　色	粘土粒子中量，焼土ブロック少量	
9	黒　褐　色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量	

覆土　4層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

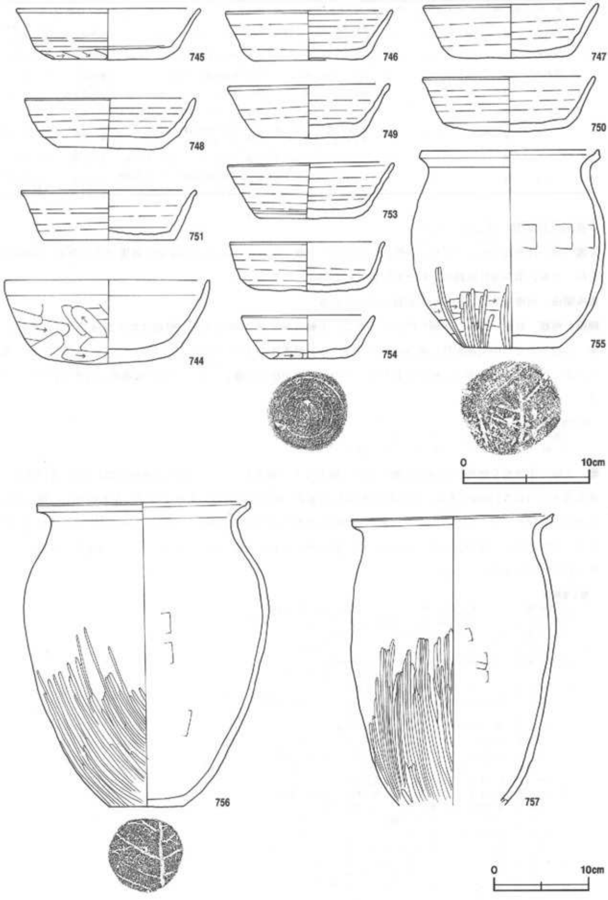
1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
3　黒　褐　色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片551点（坏63・甕487・鉢1），須恵器片26（坏21・甕5），礫1点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。中央部の床面から須恵器坏が重ねられた状態で出土し，土師器甕は東壁中央部の床面から，土圧で壊れた状態で出土している。このほかには，混入した縄文土器片2点や撹乱によって混入した灰釉陶器片1点（壺）が出土している。出土状況から744～749・752・753が本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。この部分は4軒重複しているが，第81・83号住居跡は古墳時代後期，第82号住居跡は9世紀代と大きく2期に分けられる。また，遺物出土状況は，完形品や一部欠損の須恵器坏が重なり合って出土し，覆土中には焼土や炭化材が含まれていることから居住中の火災によって緊急に避難したものと考えられる。

第88号住居跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
744	土師器	坏	16.2	6.5	9.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面丁寧なナデ。	北東部床面	95% PL110
745	須恵器	坏	14.6	4.0	8.5	長石・石英・雲母	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	北東部床面	100% PL110
746	須恵器	坏	13.2	3.9	8.4	[illegible]	にぶい黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	北東部床面	95% PL110
747	須恵器	坏	13.8	4.3	9.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	北東部床面	98%
748	須恵器	坏	13.4	4.1	8.0	[illegible]	灰	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	北東部床面	95% PL110
749	須恵器	坏	12.8	4.3	8.0	長石・雲母	灰	良好	底部一方向のヘラ削り。	北東部床面	85% PL110



第201図　第88号住居跡出土遺物実測図

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　　土	色　　調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備　　考
750	須恵器	坏	13.6	4.3	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部一方向のヘラ削り。	北東部下層	85% 外面黒変。 PL110
751	須恵器	坏	13.8	3.9	10.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	西部下層	75% 外面黒変。
752	須恵器	坏	13.2	4.4	7.9	長石・雲母	灰	良好	底部回転ヘラ切り。	竈床面	85% PL110
753	須恵器	坏	12.3	3.8	9.3	長石	褐灰	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	北東部床面	70% PL103
754	須恵器	坏	10.5	3.4	6.0	長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	竈下層	95% PL110
755	土師器	甕	14.2	15.5	7.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部外面木葉痕を残すヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	竈床面	90% PL110
756	土師器	甕	22.6	32.2	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部に木葉痕を残す。	北部下層	80% PL111
757	土師器	甕	21.4	(30.6)	－	長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	中央床面	70% 外面煤付着。PL111

第93号住居跡（第202～205図）

位置　調査区南部のＧ３f3区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は南に第98・100号住居跡，北東に第78号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　南壁を第83・90号土坑が掘り込んでいる。

規模と形状　長軸5.72m，短軸5.65mの方形で，主軸はＮ－１°－Ｗであり，壁高は22～25cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ10～18cmで，全周している。北西コーナー部の床面で白色粘土の広がりが検出されたが，その下に黒褐色土が確認されて，住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。

粘土塊土層解説
1　灰褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

竈　北壁の中央部を壁外へ24cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅155cm，焚口部から煙道部までの長さ116cmである。火床部は床面を４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は火床面から外傾して立ち上がる。また，袖部は内壁が火熱を受けて赤変硬化しており，袖部下の部分は焼土や粘土などで埋土をし，平坦部を作っており，作り替えが行なわれた竈と考えられる。また，火床部の北側から土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説
1　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
2　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
8　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
11　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
12　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
14　灰　褐　色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
15　暗　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
16　暗　赤　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
17　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子微量
18　暗　赤　褐　色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
19　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
20　暗　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
21　暗　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
22　暗　赤　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
23　極暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
24　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

25 極暗赤褐色 焼土ブロック少量，粘土粒子微量
26 暗赤褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
27 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
28 極暗赤褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
29 暗赤褐色 焼土ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
30 暗赤褐色 粘土粒子少量，焼土ブロック・焼土粒子・炭化物微量
31 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土ブロック微量
32 褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック微量
33 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
34 黒褐色 焼土粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
35 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
36 極暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
37 黒褐色 粘土粒子中量，焼土ブロック少量

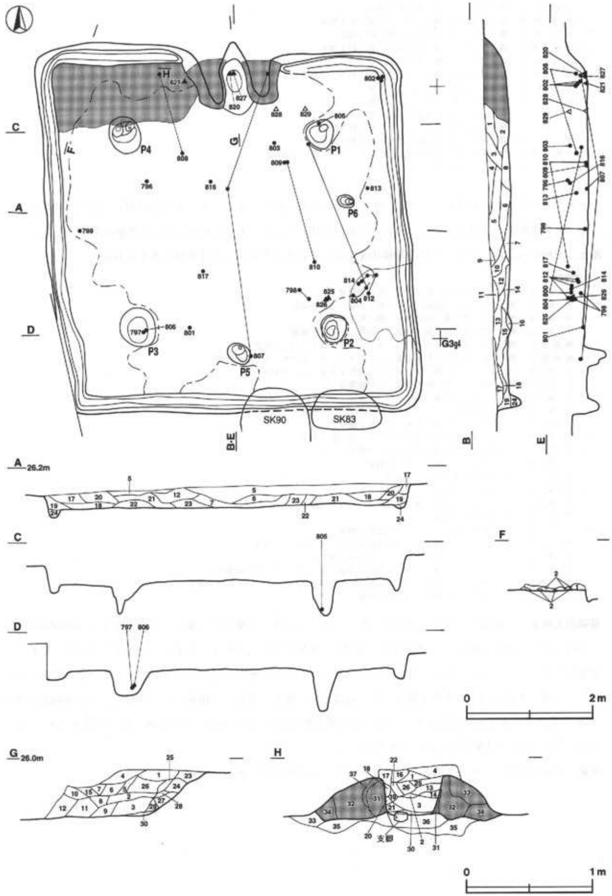
ピット 6か所。主柱穴はP1～4で，深さは42～96cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ34cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は性格不明である。

覆土 24層からなる。ブロック状の堆積状況を示していることから，人為堆積と考えられる。

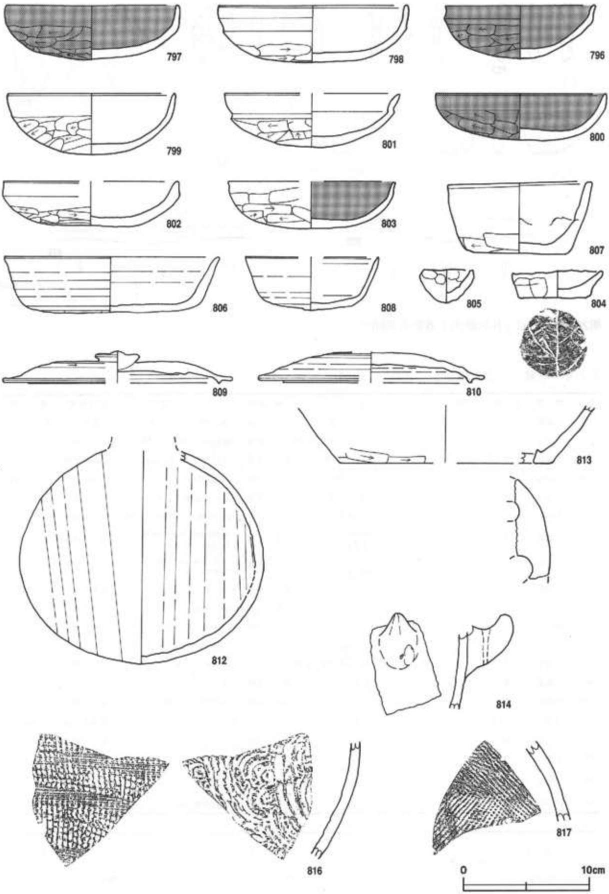
土層解説
1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，炭化物微量
3 黒褐色 焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
5 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
6 極暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・炭化物・粘土粒子微量
7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
8 黒褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
9 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量
10 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
11 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
13 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量
14 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
15 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック微量
16 黒褐色 ロームブロック少量
17 黒褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
18 黒褐色 ロームブロック少量
19 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
20 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
21 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
22 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
23 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
24 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片3042点（坏1853・蓋3・鉢3・高坏1・甕1173・甑5・手捏土器4），須恵器片120点（坏61・蓋25・甕28・甑6），土製品47点（不明），鉄製品4点（不明3，刀子1）が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に北東部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片64点，弥生土器片3点，石器2点（敲石・剥片）や撹乱によって混入した灰釉陶器片18点（壺），瓦片1点がそれぞれ出土している。出土状況から797・799・805・806は本跡に伴うと考えられ，818・819はほぼ完形品で投棄されたものと考えられる。

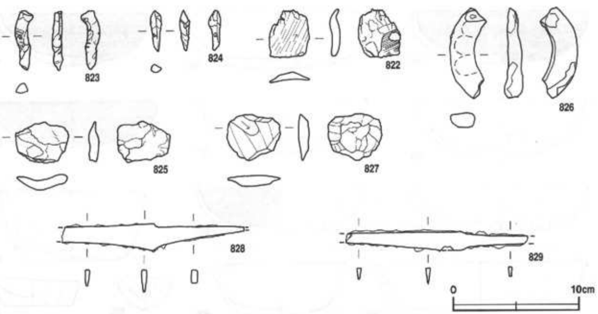
所見 本跡の時期は，出土土器から7世紀末葉から8世紀前葉と考えられる。



第202図　第93号住居跡実測図



第203図　第93号住居跡出土遺物実測図(1)



第204図　第93号住居跡出土遺物実測図(2)

第93号住居跡出土遺物観察表（第203・204図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
796	土師器	坏	12.0	4.1	−	長石·石英·赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北西部上層	98% PL104
797	土師器	坏	13.6	4.3	−	長石·石英·赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	P 3 下層	75% PL104
798	土師器	坏	15.0	4.5	−	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南東部上層	70% PL104
799	土師器	坏	13.2	4.9	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	西部床面	70% PL104
800	土師器	坏	13.4	3.7	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	東部中層	70% PL104
801	土師器	坏	[13.8]	4.3	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部床面	60%
802	土師器	坏	[13.8]	3.6	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北東部中層	65%
803	土師器	坏	[13.2]	3.7	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部，体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	北部上層	30%
804	土師器	ミニチュア土器	7.3	2.2	5.8	長石·石英·赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ナデ。	南東部上層	80% PL104
805	土師器	手捏土器	3.8	2.6	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい橙	普通	内面に指頭痕。	P 1 下層	100% PL104
806	須恵器	坏	17.0	4.5	13.7	長石·石英·雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	P 3 下層	95% PL105
807	須恵器	坏	11.4	5.8	7.4	長石·石英·雲母	灰	良好	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	中央部中層	80% PL105
808	須恵器	坏	[10.6]	4.2	−	長石·石英·雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ削り後，ナデ。	北部中層	70%
809	須恵器	蓋	[18.2]	2.6	−	長石・石英	灰黄褐	良好	天井部回転ヘラ削り。	中央部下層	30%
810	須恵器	蓋	[18.0]	(2.4)	−	長石·石英·赤色粒子	にぶい褐	良好	天井部回転ヘラ削り。	東部中層	30%
812	須恵器	フラスコ瓶	−	(17.0)	−	長石	灰	良好	体部内外面ロクロナデ。	南東部中層	30% 外面自然釉。
813	須恵器	甈	−	(4.6)	[16.8]	長石	灰	良好	体部内面ナデ。	東部中層	5 %
814	須恵器	甈	−	(7.9)	−	長石	灰	良好	把手部外面ナデ。	南東部中層	5 % 把手。
816	須恵器	甕	−	(10.7)	−	長石	褐灰	良好	内面同心円の当具痕。外面格子状のたたき目。	中央部中層	5 % 体部上部片。PL114
817	灰釉陶器	甕	−	(9.0)	−	長石	灰オリーブ，灰白	良好	内外面施釉。内面ハケ塗り。	中央部中層	5% 体部上部片。

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
822	不明土製品	3.8	3.2	0.8	6.1	土製	ヘラ削り痕跡、背面は木葉痕及びヘラ削り痕跡。	覆土中	PL115
823	不明土製品	4.2	1.5	0.9	3.2	土製	指頭痕。	覆土中	PL115
824	不明土製品	3.2	0.8	0.8	1.4	土製	ナデ。	覆土中	PL115

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
825	不明土製品	3.2	4.3	1.2	10.6	土製	布目痕。背面はナデ。	南東部中層	PL115
826	不明土製品	7.1	2.9	1.3	19.2	土製	外面指頭痕。	南東部中層	PL115
827	不明土製品	5.0	3.7	1.1	11.8	土製	ヘラ削り痕跡。	覆土中	PL115
828	刀子	(14.4)	2.2	0.4	25.2	鉄	両関。	北東部床面	PL118
829	刀子	(14.6)	1.5	0.3	20.7	鉄	片関。切先欠損。	北東部中層	PL118

第94号住居跡（第205図）

位置　調査区南部東寄りのＧ３g5区に位置し，台地縁辺部で北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第93号住居跡，南に第98号住居跡，北東に第78号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状　長軸4.55m，短軸3.80mの長方形で，主軸はＮ－１°－Ｗであり，壁高は14～30cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmでほぼ全周している。

竈　北壁の中央部を壁外へ10cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅114cm，焚口部から煙道部までの長さ84cmである。火床部は床面を４cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がり，袖部の内壁も火熱を受けて赤変硬化している。また，火床部の北寄りから土製支脚が立位で出土している。

竈土層解説

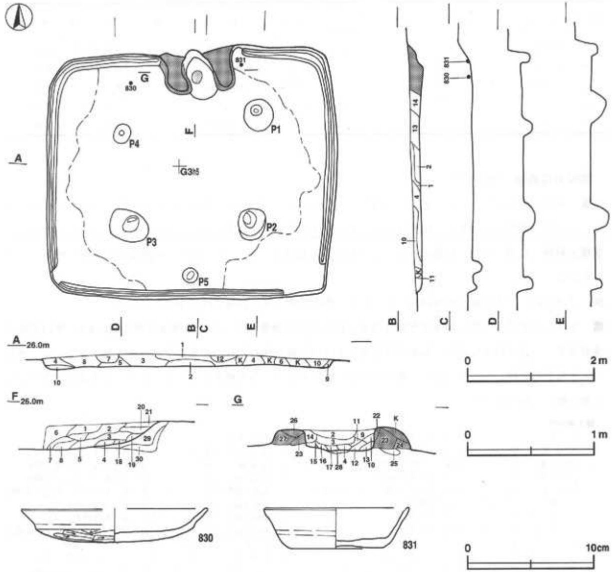
1　暗褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
3　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
6　暗褐色　焼土ブロック・炭化物微量
7　暗褐色　焼土ブロック・粘土粒子微量
8　暗褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
9　暗褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
10　暗褐色　焼土ブロック少量，粘土粒子微量
11　暗褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
12　暗褐色　焼土ブロック微量，粘土粒子微量
13　暗褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
14　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
15　暗褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
16　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
17　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
18　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
19　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
20　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
21　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量
22　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子微量
23　極暗赤褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子・礫微量
24　黒褐色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
25　極暗褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
26　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
27　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
28　極暗赤褐色　焼土ブロック多量，粘土粒子微量
29　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
30　黒褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは16～44cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ5は深さ18cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　14層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
4　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
6　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
12　灰褐色　砂粒中量，ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
13　灰褐色　ロームブロック・砂粒中量，焼土ブロック・礫少量，炭化粒子微量
14　褐色　ローム粒子・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第205図　第94号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片260点（坏89，甕171），須恵器片14点（坏11，蓋3），土製品3点（不明），礫2点が出土している。これらは全体的に出土しているが，特に竈周辺の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片62点が出土している。出土状況から830・831が本跡に伴うと考えられる。

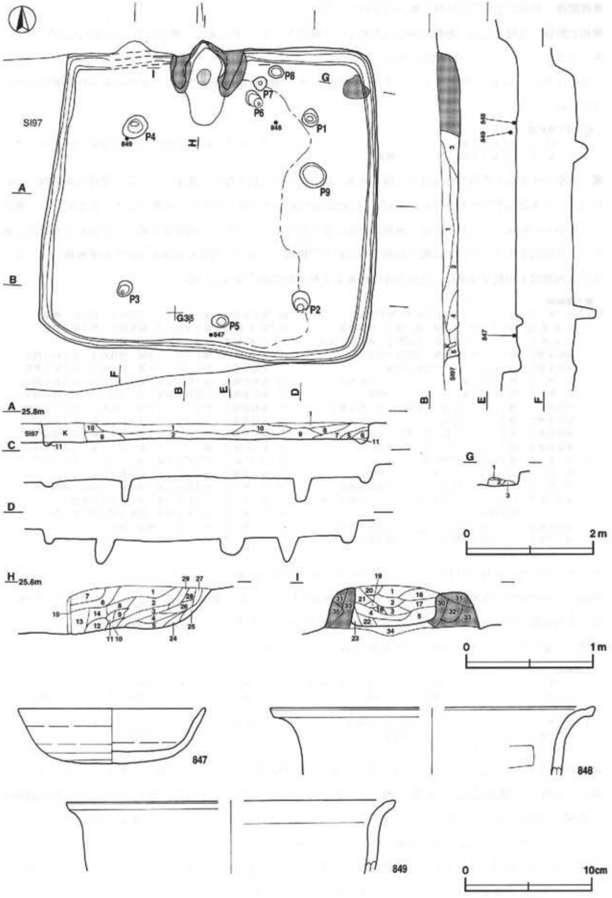
所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第94号住居跡出土遺物観察表（第205図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
830	土師器	坏	[17.8]	2.7	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部内面丁寧なナデ。	北部下層	40%
831	須恵器	坏	11.2	3.2	7.2	長石	灰	良好	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	北部下層	70% 体部から底部外面火襷。PL105

第98号住居跡（第206図）

位置　調査区南部東寄りのG3i5区に位置し，台地縁辺部で北西から南東への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第93号住居跡が位置している。



第206図　第98号住居跡・出土遺物実測図

重複関係　西部が第97号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.23m，短軸5.00mの方形で，主軸はN－4°－Wであり，壁高は30～40cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められているが，東壁に沿った部分は踏み固められていない部分がある。壁溝は深さ6～8cmで全周している。また，北東コーナー部から竈で使用された可能性のある粘土塊が床面で確認された。

粘土塊土層解説

1　黒褐色　粘土粒子多量
2　黒褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック微量
3　黒褐色　粘土粒子多量，炭化粒子少量，焼土ブロック微量

竈　北壁の中央部を壁外へ25cmほどの掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖幅116cm，焚口部から煙道部までの長さ134cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は壁面に貼り付けるように作り，西袖部は第97号住居跡の火床部に埋めて，平坦部を作り，その上に焼土の混じった粘土で構築しており，内壁も火熱を受けて赤変硬化している。また，西袖部下の貼り床部は，住居全体の床面よりわずかに高くなっている。

竈土層解説

1　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
2　暗赤褐色　ロームブロック少量，粘土粒子・砂粒微量
3　暗赤褐色　ロームブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　極暗赤褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
6　黒褐色　粘土粒子少量，ロームブロック・砂粒微量
7　暗褐色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
9　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック微量
10　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
11　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
12　黒褐色　焼土粒子・炭化物微量
13　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
14　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
15　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
16　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
17　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
18　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
19　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
20　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子微量
21　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
22　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
23　極暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
24　極暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
25　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
26　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
27　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
28　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
29　暗赤褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック・粘土粒子微量
30　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量
31　黒褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・砂粒・礫微量
32　黒褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・砂粒微量
33　黒褐色　粘土粒子微量，砂粒少量，焼土粒子微量
34　黒褐色　焼土ブロック微量（掘り方）
35　黒褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・砂粒微量

ピット　9か所。主柱穴はP1～4で，深さは37～47cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ14cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～8は深さ15～26cmで，竈の東袖部脇に位置し，竈に関連した棚状の施設に伴うピットと考えられる。P9は性格不明である。

覆土　11層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
4　黒褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
5　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ロームブロック微量
8　暗褐色　ロームブロック少量，焼土小ブロック微量
9　暗褐色　ロームブロック少量
10　極暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片528点（坏228・鉢1・甕229），須恵器片24点（坏16・蓋4・甕4），土製品4点（支脚3，不明1），鉄製品2点（不明），礫8点が出土している。これらは全体的に出土しているが，特に竈周辺と東壁際の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片126点が出土している。出土状況から847・849が本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。竈は作り替えがなされ，床面が全体的に固いのに対してP1･2の東側の床面が壁に沿って柔らかく，日常的に踏み固められない板床などの存在も考えられる。

第98号住居跡出土遺物観察表（第206図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
847	須恵器	坏	15.0	4.3	－	長石	浅黄橙	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	南部下層	85% PL105
848	土師器	甕	[25.6]	(5.3)	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	北東部下層	5％
849	土師器	甕	[26.0]	(5.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部下層	5％

第100号住居跡（第207図）

位置　調査区南部東寄りのＨ３a4区に位置し，台地縁辺部で北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第101号住居跡，北に第94・98号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状　長軸4.35m，短軸4.26mの方形で，主軸はＮ－５°－Ｗであり，壁高は10～24cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～８cmであり，南東コーナー部は撹乱を受けているが，本来は全周していたと考えられる。

竈　北壁の中央部を壁外へ31cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅151cm，焚口部から煙道部までの長さ109cmである。火床部は床面を６cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部はロームを掘り残し，その上に粘土を貼り付けて構築し，内壁も火熱を受けて赤変硬化している。

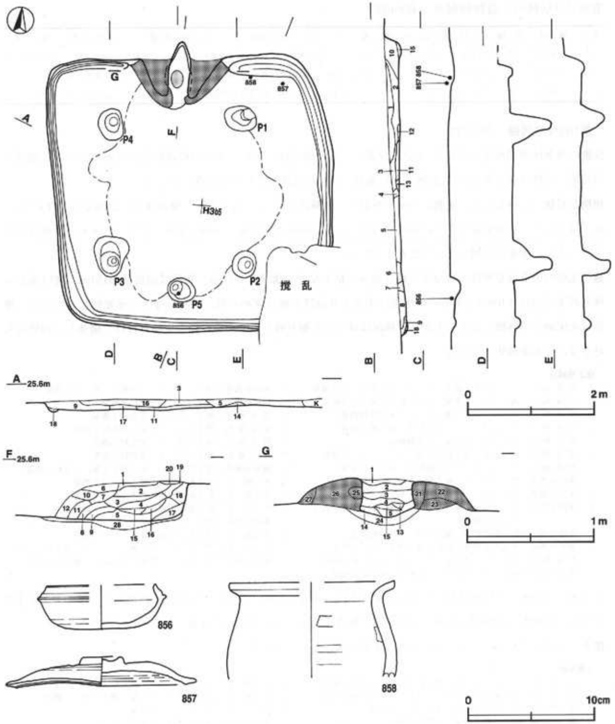
竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量
3　暗赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4　暗赤褐色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物微量
6　暗赤褐色　粘土粒子・焼土粒子少量，ロームブロック微量
7　暗赤褐色　ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
8　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
9　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
10　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
11　極暗赤褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・砂粒少量
12　極暗赤褐色　粘土粒子中量，砂粒少量，焼土ブロック微量
13　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
14　極暗褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
15　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
16　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物微量
17　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
18　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
19　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
20　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量
21　極暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
22　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
23　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
24　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
25　極暗赤褐色　焼土ブロック少量
26　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
27　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子少量
28　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは43～70cmであり，各コーナー寄りに位置している。Ｐ5は深さ17cmで，南壁際の中央部に位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　18層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
6　褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　褐色　ロームブロック中量
8　暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
10　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
12　褐色　ロームブロック多量
13　褐色　ロームブロック中量
14　灰褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量
15　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
16　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
17　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
18　暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片311点（坏188・皿１・甕122），須恵器片30点（坏16・蓋10・甕４），土製品１点（不明），鉄製品１点（不明），鉄滓１点，礫２点が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に北東コーナー部と中央部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片22点や撹乱によって混入した緑釉陶器片１点(皿)，瓦片１点がそれぞれ出土している。出土状況から858・857は本跡に伴うと考えられる。



第207図　第100号住居跡・出土遺物実測図

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。

第100号住居跡出土遺物観察表（第207図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　　土	色　　調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備　　考
856	須恵器	坏	［ 8.6］	3.5	－	長石	灰黄	良好	底部外面回転ヘラ削り。	南部下層	25% PL105
857	須恵器	蓋	15.0	2.3	－	長石・石英・雲母	灰	良好	天井部回転ヘラ削り。	北東部下層	70% PL105
858	土師器	甕	［13.0］	（ 7.5）	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。	北東部下層	5 %

第101号住居跡（第208図）

位置　調査区南部東寄りのＨ３a6区に位置し，台地縁辺部で北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北西に第94・98号住居跡，西に第100号住居跡がそれぞれ位置している。

規模と形状　長軸3.79m，短軸3.61mの方形で，主軸はＮ－１°－Ｗであり，壁高は14～20cmでほぼ直立する。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～８cmで，南東コーナー部を除いて壁下で検出されている。

竈　北壁の中央部を壁外へ24cmほど掘り込み，粘土などで構築している。規模は両袖部幅91cm，焚口部から煙道部までの長さ84cmである。火床部は床面とほぼ同じ高さで，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。東袖部は床面を掘り窪められた床面の上部に，砂と微礫の混ぜた粘土を貼り付けて構築しており，作り替えが行なわれたと考えられ，内壁は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

1	暗赤褐色	砂粒中量，粘土粒子少量，焼土ブロック微量
2	暗赤褐色	粘土粒子微量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	ロームブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	粘土粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
6	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
7	灰褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
8	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
10	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11	暗赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
12	極赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
13	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
14	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化材・粘土粒子微量
15	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
16	暗赤褐色	粘土粒子中量，砂粒少量，ローム粒子・礫微量
17	暗赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量
18	暗赤褐色	ロームブロック少量
19	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
20	暗赤褐色	ロームブロック少量
21	極暗赤褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
22	黒褐色	粘土ブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
23	極暗赤褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

ピット　９か所。主柱穴はＰ２～４・10で，深さは42～61cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ26・20cmで，中央部から南壁寄りに位置し，南北に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1・7～９は性格不明である。

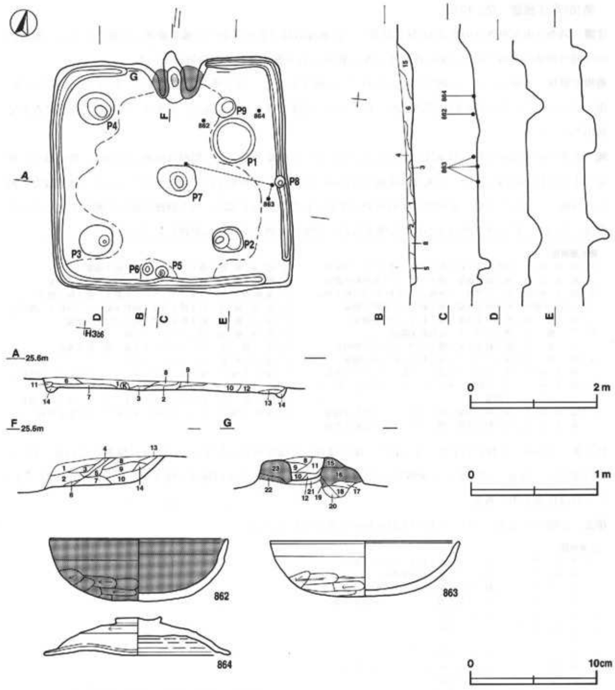
覆土　15層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ロームブロック微量
7	褐色	ロームブロック少量
8	褐色	ロームブロック微量
9	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック少量
11	褐色	ロームブロック多量
12	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
13	暗褐色	ローム粒子少量
14	暗褐色	ロームブロック少量
15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片278点（坏134・甕143・不明１），須恵器片７点（坏４・蓋１・甕２），土製品２点（不明）が出土している。これらの遺物は全体的に出土しているが，特に中央部とＰ３付近の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片47点，石器２点（磨石・剝片）が出土している。出土状況から862～864は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。東部の南端に位置し，この周辺は８世紀代の住居跡が比較的集まっている地域である。



第208図　第101号住居跡・出土遺物実測図

第101号住居跡出土遺物観察表（第208図）

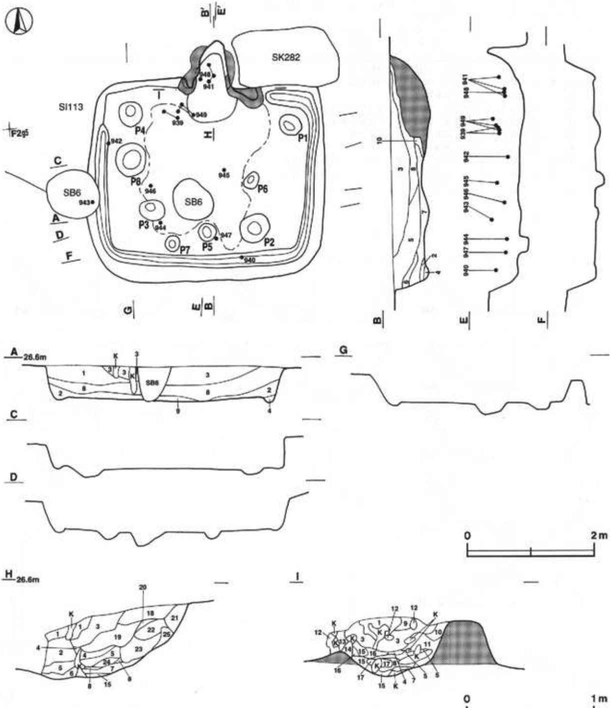
番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
862	土師器	坏	14.0	4.9	－	長石・石英	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	北部下層	95% PL105
863	土師器	坏	14.9	4.4	－	長石	橙	普通	体部上半部ナデ。底部外面ヘラ削り。	東部下層	90% PL105
864	須恵器	蓋	14.8	3.0	－	長石・石英・雲母	灰白	良好	天井部回転ヘラ削り。	東部下層	98% PL105

第118号住居跡（第209・210図）

位置　調査区中央部のＦ２g5区に位置し，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第120号住居跡，南東に第127号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　北西部が第113号住居跡を掘り込み，北東コーナー部を第282号土坑，西壁中央部と中央部を第６号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.80m，短軸3.05mの方形で，主軸はＮ－７°－Ｅであり，壁高は38～49cmで外傾して立ち上がる。



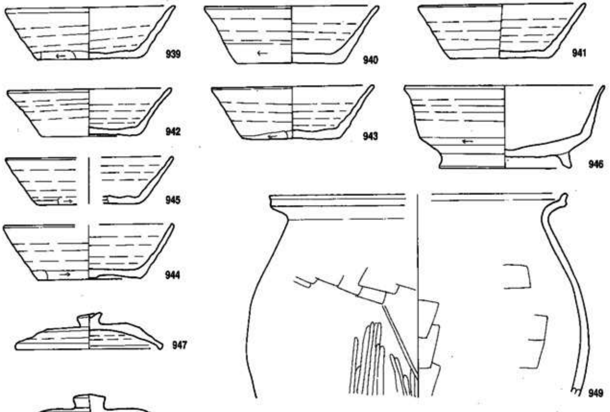
第209図　第118号住居跡実測図

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmで，北西コーナー部を除いた壁下で検出されている。焼土が南西コーナー部の床面に多量に堆積しており，焼失家屋と考えられる。

竈　北壁の中央部を壁外へ68cmほど掘り込み，ローム混じりの粘土で構築している。規模は両袖部幅127cm，焚口部から煙道部までの長さ129cmである。火床部は床面を５cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。覆土中から多数の土師器甕片が出土している。

竈土層解説

1　褐　　色　粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・砂粒微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・灰・砂粒少量
5　暗赤褐色　粘土ブロック・砂粒微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
7　褐　　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
8　赤　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
10　暗　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子・砂粒微量
11　褐　　色　粘土ブロック・砂粒少量
12　褐　　色　粘土ブロック中量，砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
13　褐　　色　粘土ブロック中量，砂粒少量，炭化粒子微量
14　褐　　色　粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
15　褐　　色　ロームブロック微量
16　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
17　暗　褐　色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
18　褐　　色　粘土ブロック・砂粒少量



第210図　第118号住居跡出土遺物実測図

19 褐　　　色　砂粒少量，粘土ブロック微量
20 にぶい黄橙色　粘土ブロック中量，砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子微量
21 暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
22 褐　　　色　焼土粒子・粘土ブロック中量，砂粒少量
23 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
24 赤　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量
25 暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量

ピット　8か所。主柱穴はP1・2・4で，深さは10～13cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5は深さ19cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3・6・7・8の性格は不明である。

覆土　10層からなる。レンズ状の自然堆積の状況を示している。

土層解説
1 暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
2 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 暗　褐　色　ロームブロック微量
5 暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
6 黒　褐　色　炭化粒子少量，粘土粒子微量
7 黒　褐　色　ロームブロック微量
8 黒　褐　色　炭化粒子・粘土粒子多量，焼土粒子微量
9 暗　褐　色　粘土ブロック少量，炭化粒子微量
10 黒　褐　色　粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片362点（坏120・高台付坏1・高坏1・甕240），須恵器片110点（坏47・蓋2・高坏1・甕54・甑6），土製品2点（支脚），鉄製品1点（不明），礫2点が出土している。これらの遺物は中央部及び南西コーナー部の覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片99点，弥生土器片10点が出土している。出土状況から941・948は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀中葉から後葉と考えられる。焼土が南西コーナー部の床面から出土しており焼失家屋と考えられる。

第118号住居跡出土遺物観察表（第210図）

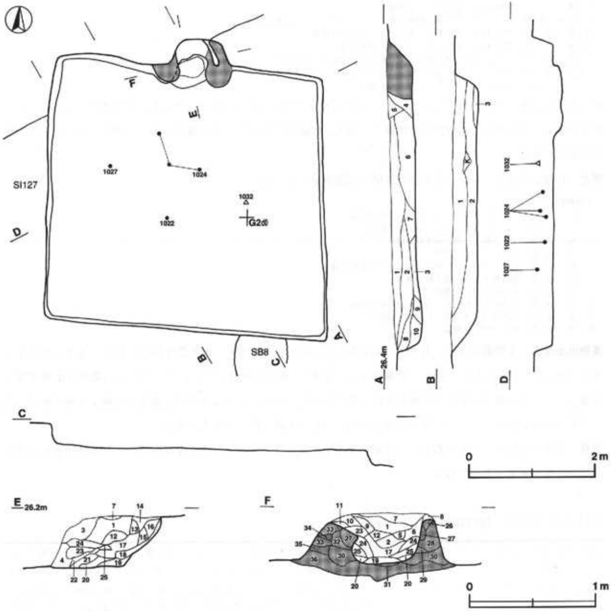
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
939	須恵器	坏	13.7	4.1	7.9	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	北部中層	95% PL105
940	須恵器	坏	13.8	4.5	8.4	長石・石英・雲母	灰褐	良好	底部回転ヘラ切り後，回転ヘラ削り。	南部中層	90% PL105
941	須恵器	坏	13.3	4.4	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	竈中層	70% 内面炭化物付着。PL105
942	須恵器	坏	13.0	3.7	7.5	長石・石英・雲母	灰白	良好	底部回転ヘラ切り後，一定方向のヘラ削り。	西部下層	70% PL105
943	須恵器	坏	[12.8]	4.3	8.0	長石・石英・雲母	黄灰	良好	底部回転ヘラ切り後，一定方向のヘラ削り。	西部上層	50%
944	須恵器	坏	[13.6]	4.3	8.2	長石・石英・雲母	灰黄	良好	底部回転ヘラ切り。	南部下層	60%
945	須恵器	坏	[13.4]	3.7	[8.0]	長石・石英	灰黄	良好	底部外面ヘラ削り。	中央部中層	35%
946	須恵器	高台付坏	15.8	6.6	10.2	長石・石英・雲母	にぶい黄	良好	底部回転ヘラ切り，高台貼り付け後，ナデ。	西部下層	70% PL105
947	須恵器	蓋	11.6	2.9	－	長石・石英・雲母	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り。	南部下層	90% PL105
948	須恵器	蓋	[14.4]	3.4	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	良好	天井部回転ヘラ削り。	竈下層	70%
949	土師器	甕	[23.4]	(16.0)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部内面・外面上半部ヘラナデ。	北部上層	30%

第128号住居跡（第210・211図）

位置　調査区中央部やや南寄りのG2c9区に位置し，北から南への緩斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は西に第93号住居跡，南に第146号住居跡がそれぞれ位置している。

重複関係　第127号住居跡・中央部が第8号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.47m，短軸4.29mの方形で，主軸はN－3°－Eであり，壁高は36～42cmでほぼ直立する。



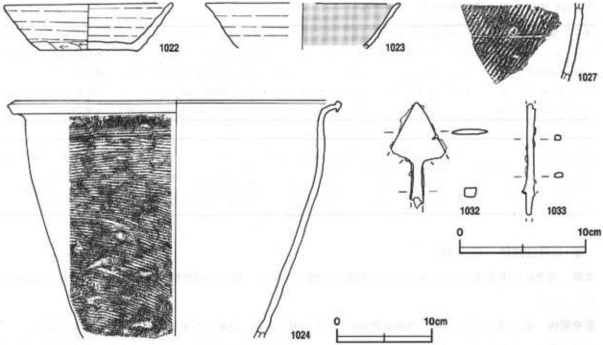
第211図 第128号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。

竈 北西壁の中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，焼土混じり粘土などで構築している。規模は両袖部幅115cm，焚口部から煙道部への長さは100cmである。火床部は床面から5cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。西袖部は破壊されている。袖部は焼土混じった粘土で構築しており，作り替えが行なわれたと考えられる。

竈土層解説

1	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
2	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5	黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
6	灰黄褐色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量
7	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
8	黒褐色	焼土粒子・粘土粒子微量
9	黒褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
10	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11	黒褐色	粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
13	黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
14	にぶい黄褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
15	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量



第212図　第128号住居跡出土遺物実測図

16　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック微量
17　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化物・粘土ブロック微量
18　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
19　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
20　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
21　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
22　にぶい赤褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
23　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土粒子微量
24　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
25　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量
26　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
27　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
28　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
29　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物微量
30　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
31　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
32　灰 黄 褐 色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
33　灰　褐　色　粘土粒子多量，焼土ブロック微量
34　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
35　灰 黄 褐 色　粘土粒子多量，焼土ブロック微量
36　黒　褐　色　ロームブロック微量

覆土　10層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　焼土ブロック・炭化物微量
7　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒 褐 色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
10　黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片21点（坏３・鉢１・甕17），須恵器片６点（坏２・鉢４），灰釉陶器片２点（坏・壺），鉄製品２点（鏃），礫10点が出土している。これらの遺物は中央部の覆土下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片339点，弥生土器片１点，石器２点（磨石・剥片）や撹乱によって混入した陶器片１点（碗）がそれぞれ出土している。出土状況から1022は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。

第128号住居跡出土遺物観察表（第212図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1022	須恵器	坏	13.3	3.9	[7.8]	長石・針状鉱物	灰	良好	底部外面一方向のヘラ削り。	中央部中層	40% PL105
1023	灰釉陶器	坏	[15.4]	(3.6)	－	長石	にぶい黄	良好	内面施釉。外面ロクロナデ。	覆土中	5％
1024	須恵器	鉢	34.3	(25.0)	－	長石・石英	灰	良好	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	45% PL106
1027	灰釉陶器	壺	－	(6.1)	－	長石	灰オリーブ,灰	良好	体部内面ナデ。外面平行叩き。	西部中層	5％

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1032	鏃	(8.4)	(4.4)	0.7	(23.4)	鉄	鏃身部三角形。	東部上層	PL118
1033	鏃	(8.8)	(1.1)	0.4	(7.2)	鉄	切先及び茎部欠損。長頸鏃。	覆土中	

第142号住居跡（第213図）

位置　調査区の中央部のＦ２e9区で，平坦部に立地している。周辺の同時期の遺構は東に第56号住居跡が位置している。

重複関係　竈が第107号住居跡，西壁が第406号土坑を掘り込み，北東部が第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.66m，短軸3.03mの東西に長い長方形で，主軸はＮ－15°－Ｗであり，壁高は32～56cmで外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は深さ４～６cmで全周している。

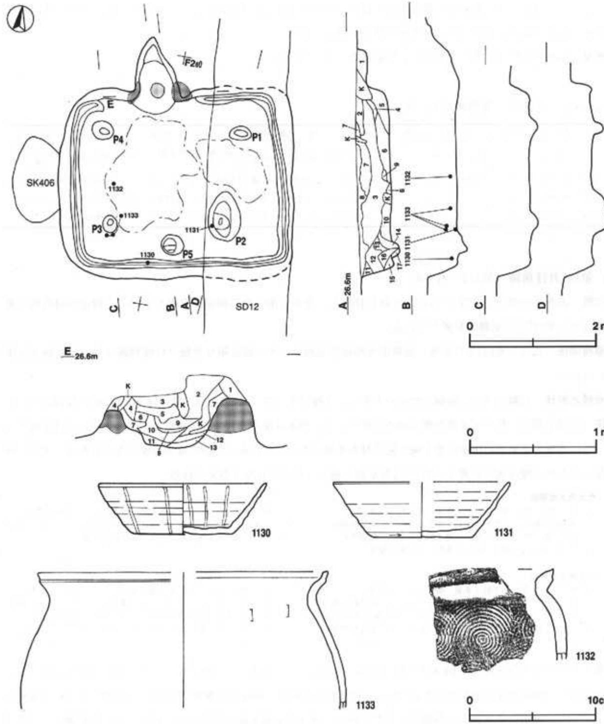
竈　北壁の中央部を壁外へ90cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅85cm，焚口部から煙道部までの長さ124cmである。火床部は床面から８cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化し，煙道は火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。袖部は破壊されているが，焚口部の状況から，あまり突出しない形状と考えられる。また，火床部の北側から土製支脚が出土している。

竈土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・粘土ブロック・砂粒微量
2　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量
3　暗褐色　炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
4　にぶい黄褐色　砂粒少量，ロームブロック・焼土粒子・粘土ブロック微量
5　にぶい黄褐色　粘土ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　粘土ブロック・砂粒少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　褐色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐色　粘土ブロック・砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
10　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
13　暗赤褐色　粘土ブロック・砂粒・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　５か所。主柱穴はＰ１～４で，深さは13～29cmで，各コーナー寄りに位置している。Ｐ５は深さ16cmで，中央部から南壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　17層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・砂粒少量，炭化粒子・粘土ブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗赤褐色　炭化粒子・砂粒少量，焼土ブロック微量
5　暗褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
6　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化物・粘土ブロック・砂粒微量



第213図　第142号住居跡・出土遺物実測図

7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
9　黒　褐　色　砂粒少量，ローム粒子・炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
11　褐　　色　ロームブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック微量
13　暗　褐　色　ローム粒子少量
14　暗　褐　色　ローム粒子・黒色粒子微量
15　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
16　黒　褐　色　炭化粒子少量
17　褐　　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片111点(坏30・高台付坏８・甕73)，須恵器片15点(坏13・甕２)，灰釉陶器片１点(壺)，土製品２点（支脚)，礫２点が出土している。これらの遺物は東部の覆土中層から下層にかけて多く出土して

いる。このほかには，混入した縄文土器片11点，弥生土器片１点や撹乱によって混入した瓦片１点が出土している。出土状況から1130・1131は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。

第142号住居跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1130	須恵器	坏	13.2	4.0	7.6	長石・針状鉱物	暗灰黄	良好	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	南部下層	80% 体部両面に火襷 PL105
1131	須恵器	坏	[13.9]	4.4	8.0	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り。	南東部床面	60% PL105
1132	須恵器	鉢	−	(7.4)	−	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ，胴部外面同心円叩き。	西部下層	5％ PL114
1133	土師器	甕	[23.0]	(10.8)	−	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ，体部内面ヘラナデ。	南西部下層	10%

第146号住居跡（第214〜216図）

位置　調査区南部の中央寄りのＧ２f9区に位置し，北から南への斜面部に立地している。周辺の同時期の遺構は北に第127号住居跡が位置している。

重複関係　北部を第132号住居跡，東壁中央部及び北西コーナー部を第９号掘立柱建物跡にそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.56m，短軸5.23mの方形で，主軸はＮ−77°−Ｗであり，壁高は40〜71cmでほぼ直立する

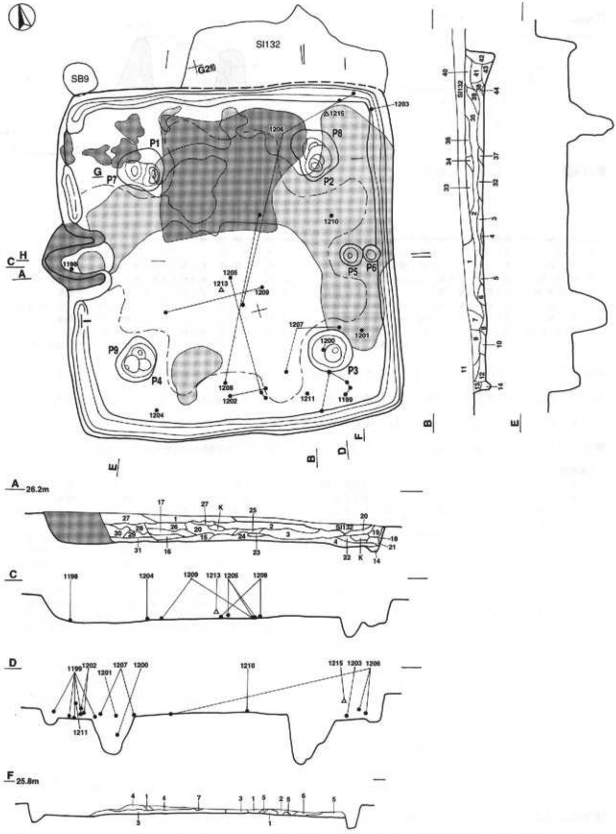
床　ほぼ平坦で，特に中央部が踏み固められている。壁溝は深さ６〜８cmで西壁の一部を除いてほぼ全周している。本跡の北東部の床面に焼土塊や炭化材が多量に出土していることから焼失家屋と考えられる。多量に廃棄された粘土塊は北に位置する第132号住居跡の構築に使用されたと考えられる。

焼土塊土層解説
1　赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量
2　極暗赤褐色　炭化粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量
4　明赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量

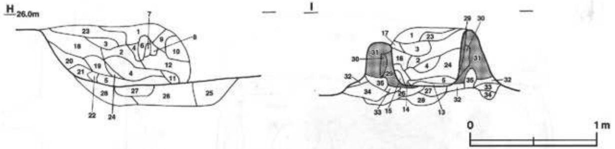
粘土塊土層解説
1　褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック微量
2　暗褐色　粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量，炭化粒子微量
4　暗赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　極暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒褐色　炭化粒子少量，焼土ブロック微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
8　黒褐色　粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗褐色　粘土粒子中量，焼土粒子・鹿沼パミス微量

竈　西壁の中央部を壁外へ40cmほど掘り込み，焼土混じりの粘土などで構築している。規模は両袖部幅121cm，焚口部から煙道部までの長さ112cmである。火床部は床面から10cmほど掘り窪められ，火熱を受けて赤変硬化している。煙道は火床面から外傾して立ち上がる。袖部は床面を掘り窪められ，粘土ブロックや焼土ブロックを含む黒褐色土及び暗褐色土を埋めて平坦部を作り，その上に焼土の混じりの粘土などで構築している。その状況から竈は作り替えが行なわれたと考えられる。また，火床部中央部西寄りから土製支脚が出土している。

竈土層解説
1　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
2　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
5　黒褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
6　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
7　灰褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
9　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
10　灰褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
11　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
12　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子・粘土粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
14　黒褐色　焼土ブロック・炭化物微量
15　黒褐色　焼土ブロック・炭化粒子微量



第214図　第146号住居跡実測図(1)



第215図　第146号住居跡実測図(2)

16	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
17	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
18	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子微量
19	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子微量
20	暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量
21	極暗赤褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
22	灰　褐　色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
23	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化物・粘土粒子・礫微量
24	極 暗 褐 色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
25	黒　褐　色	ロームブロック・ローム粒子微量
26	黒　褐　色	ロームブロック微量
27	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量
28	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
29	暗 赤 褐 色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量
30	灰　褐　色	粘土粒子多量，焼土ブロック・炭化粒子微量
31	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
32	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
33	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
34	灰　褐　色	粘土粒子中量，焼土ブロック微量
35	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

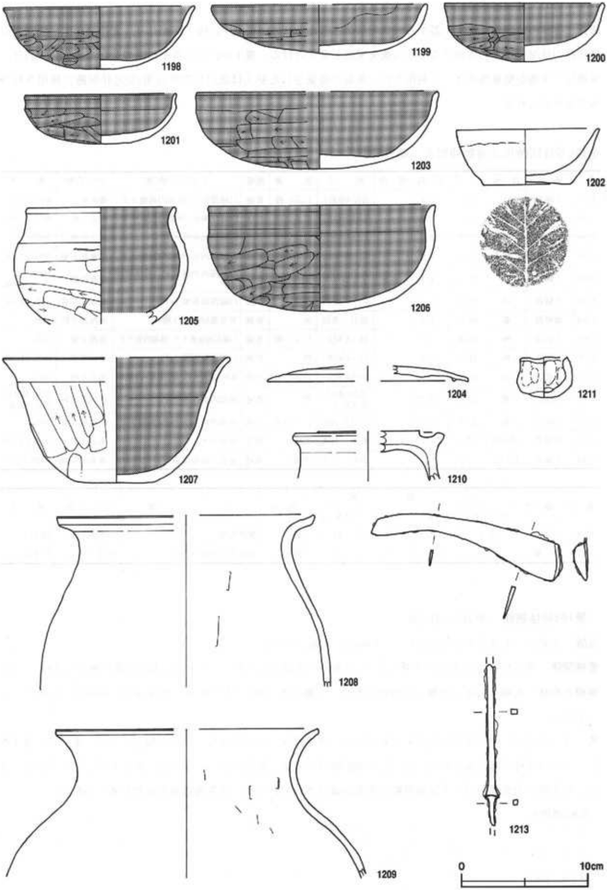
ピット　9か所。主柱穴はP1～4で，深さは65～86cmであり，各コーナー寄りに位置している。P5・6は深さ50・24cmで，中央部から東壁寄りに位置し，東西に並ぶ出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7～9は深さ30～49cmで，P1・2・4に伴う抜き取り穴と考えられる。

覆土　44層からなる。焼土や粘土ブロックを含んだブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1	極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	極 暗 褐 色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
3	暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量，炭化物・粘土粒子微量
4	極 暗 褐 色	ローム粒子・焼土ブロック微量
5	極 暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
6	極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
7	にぶい褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・砂粒微量
8	極 暗 褐 色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
9	極 暗 褐 色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
10	極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量
11	極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
12	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量
13	暗　褐　色	粘土粒子少量，炭化物微量
14	黒　褐　色	粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
15	にぶい褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック・砂粒微量
16	極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量
17	極暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物・砂粒微量
18	暗　褐　色	ロームブロック微量
19	極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
20	黒　褐　色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量
21	極 暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック微量
22	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
23	にぶい褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
24	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化物微量
25	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
26	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
27	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
28	褐　　　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
29	黄　褐　色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
30	黄　褐　色	粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
31	暗　褐　色	焼土ブロック少量，炭化物・粘土粒子微量
32	極 暗 褐 色	粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
33	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
34	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
35	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
36	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック微量
37	黒　褐　色	焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
38	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
39	にぶい黄褐色	粘土粒子多量，焼土ブロック・微礫微量
40	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
41	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
42	黒　　　色	ロームブロック・炭化物微量
43	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
44	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1410点（坏814・高坏1・椀13・鉢4・甕575・甑2・手捏土器1），須恵器片47点（坏17・蓋7・甕21・甑1・円面硯1），土製品52点（支脚5・不明47），鉄製品2点（鏃・鎌），鉄滓1点，礫3点が出土している。これらの遺物は中央部と各コーナー寄りの覆土中層から下層にかけて多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片123点，弥生土器片2点，剥片4点や撹乱によって混入した灰釉陶器片4点（壺）が出土している。また，炭化材が北西コーナー部の床面から多く出土している。出土状況から1198・



第216図　第146号住居跡出土遺物実測図

1200・1203・1204は本跡に伴うと考えられる。

所見　本跡の時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。覆土中に焼土が混じり，北西コーナー部床面の炭化材の状況や焼土の広がりなどから焼失家屋と考えられる。覆土中には８世紀以降の遺物も出土しており，廃絶後に窪地が廃棄場所として利用され，多量に廃棄された粘土は北に位置する第132号住居跡に使用された残りと考えられる。

第146号住居跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1198	土師器	坏	15.0	4.9	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	竈床面	90% PL105
1199	土師器	坏	[17.0]	4.0	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南部下層	60% PL106
1200	土師器	坏	12.5	4.6	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	P３中層	75%
1201	土師器	坏	12.0	3.9	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面，体部内面横ナデ。	南東部下層	70% PL106
1202	土師器	坏	11.2	4.4	6.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部両面横ナデ。体部外面ナデ。	南部中層	100% PL106
1203	土師器	坏	[19.1]	6.1	－	長石・石英・赤色粒子	浅黄	普通	口縁部両面横ナデ。	北東部下層	60% PL106
1204	須恵器	蓋	[16.0]	1.2	－	長石・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り。	南西部下層	25%
1205	土師器	椀	[11.8]	(9.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	南部下層	40%
1206	土師器	椀	18.0	8.4	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。	東部中層	90% PL106
1207	土師器	鉢	[18.0]	9.9	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部下層	30%
1208	土師器	甕	[20.4]	(13.7)	－	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。	中央部下層	20% 体部外面スス付着。
1209	土師器	甕	[20.8]	(11.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ。外面ナデ。	中央部下層	10%
1210	須恵器	円面硯	[12.0]	(3.7)	－	長石・石英	褐灰	良好	外面ナデ。	東部下層	30% PL106
1211	土師器	手捏土器	3.6	3.3	－	長石・石英	赤褐	普通	体部内面指頭痕。	南東部中層	100% PL106

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1213	鏃	(12.7)	1.2	0.4	(14.0)	鉄	鏃部欠損。	中央部中層	PL118
1215	鎌	15.2	2.6	0.3	39.0	鉄	柄付部全面折り曲げ。	北部上層	PL118

第194号住居跡（第217・218図）

位置　調査区の中央部のＦ２a9区で，平坦部に立地している。

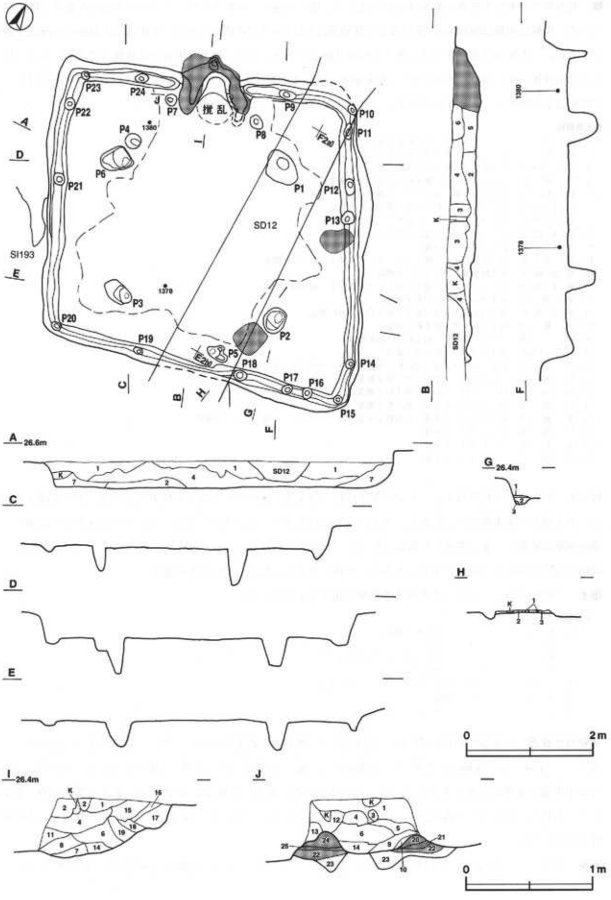
重複関係　西部が第193号住居跡を掘り込み，南東壁中央部から北東コーナー部を第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.12m，短軸4.54mの方形で，主軸はＮ－30°－Ｗであり，壁高は40～48cmで，外傾して立ち上がる。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ６～10cmで，ほぼ全周している。床全面に焼土が広がり，炭化材が竈前面，Ｐ３付近，南東壁際周辺の床面で検出されているので，焼失家屋と考えられる。また，粘土塊が中央部南寄りと北東壁際中央部が確認されているが，焼失後投棄されたと考えられる。

壁溝土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土ブック微量

粘土塊土層解説
1　灰白色　粘土ブロック多量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック少量



第217図　第194号住居跡実測図

竈 北西壁の中央部を壁外へ30cmほど掘り込んで，焼土の混じった粘土とロームブロックなどを混ぜて構築している。規模は両袖部幅110cm，焚口部から煙道部にかけての長さ110cmである。火床部は床面から10cmほど掘り窪められ，火床面は撹乱を受け，焼土の範囲は確認できなかったが，煙道は床面から外傾して立ち上がる。袖部では南西袖部は一部ローム掘り残し，北東袖部は袖部下が掘り窪められ，焼土粒子とロームブロックが混じった暗褐色土で埋め土し，焼土粒子が混じった粘土ブロックなどで袖部を構築している。

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	にぶい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
5	暗褐色	粘土粒子少量，焼土ブロック微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化物微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
8	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
9	褐色	ロームブロック少量
10	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11	暗赤褐色	炭化物少量，焼土ブロック微量
12	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
13	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
14	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
15	暗褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
16	褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量
17	にぶい赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
18	黒褐色	粘土ブロック多量，白色粒子中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
19	黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
20	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
21	暗褐色	ロームブロック多量，焼土粒子微量
22	黒褐色	粘土中ブロック多量、白色粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量
23	黒褐色	ロームブロック少量
24	暗褐色	ロームブロック多量
25	黒褐色	ロームブロック中量

ピット 24か所。主柱穴はP１～４で，深さは42～53cmで，各コーナー寄りに位置している。P５は深さ33cmで，中央部から南東壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。P７・８は深さ15・19cmで，竈の両脇に位置し，竈に関連した施設に伴うピットと考えられる。P９～24は深さ９～24cmで，壁際に位置し，対面する壁と対応する位置にあることから，壁柱穴と考えられる。P６は性格不明。

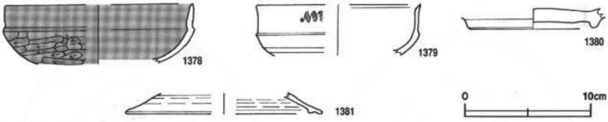
覆土 ７層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・砂粒微量
3	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・砂粒微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
5	褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック・砂粒微量
6	黒褐色	ロームブロック微量
7	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片301点（坏160，高台付坏１，甕140），須恵器片16点（坏７，盤１，蓋４，長頸壺１，甕３），土製品５点（支脚１，不明４），鉄製品１点（鏃），銅製品１点（不明），礫６点が出土している。これらは中央部の下層から多く出土している。このほかには，混入した縄文土器片180点，弥生土器片１点，石器４点（石核１，剥片３）や撹乱によって混入した陶器片１点，瓦片１点が出土している。出土状況から本跡に伴う遺物はない。

所見 本跡は，７世紀後葉の第193号住居跡を掘り込んでいることから，時期は７世紀後葉以降と考えられる。



第218図　第194号住居跡出土遺物実測図

第194号住居跡出土遺物観察表（第218図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
1378	土師器	坏	[14.8]	(4.8)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南部中層	20%
1379	須恵器	高坏	[13.1]	(4.1)	－	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り。口辺部波状文。	覆土中	5％
1380	須恵器	盤	－	(1.6)	10.2	長石・石英	灰	普通	底部内面ナデ。外面回転ヘラ削り。	北西部中層	20%
1381	須恵器	蓋	[15.6]	(1.6)	－	長石・石英	灰黄	良好	天井部回転ヘラ削り。	覆土中	5％

(2)　大型円形土坑

第１号大型円形土坑（SK５）（第219～222図）

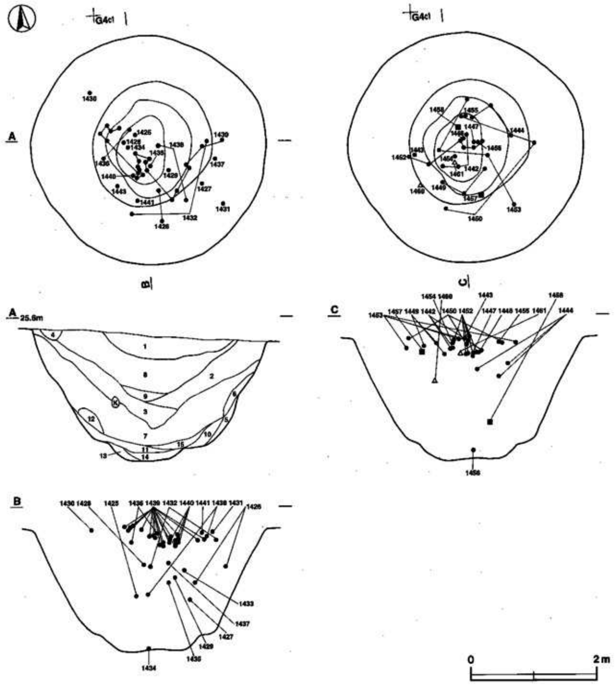
位置　調査区中央部寄りのＧ４ｃ１区で，台地縁辺部に立地している。

規模と形状　上面長径3.74m，上面短径3.67mの円形で，深さ169cmの播鉢状である。底面は長径108cm，短径76cmの楕円形でほぼ平坦を呈し，深さ24cmの掘り込みを有している。主軸はＮ－０°で，壁面は外傾して立ち上がり，壁面への掘り込みは確認できなかった。

覆土　15層からなる。覆土下層の第９～15層が壁際から流れ込んだレンズ状の自然堆積を示し，第７・８層はロームを主とした焼土ブロック・炭化材などを含む人為堆積を示している。覆土中層の第５・６層は，壁際から流れ込んだレンズ状の自然堆積を示し，覆土中層から上層の第１・２・３・４層はレンズ状でありながらしまりが弱く，ロームブロックを含む人為堆積の状況を示している。本跡の堆積状況を見ると，廃棄を前後して覆土下層では自然堆積により埋まり始め，その後，覆土下層から中層は，ある程度埋め戻された後に馬骨を埋めたものと考えられる。また，放置される間に流れ込みによる自然堆積が進み，その後，多くの遺物が投棄される廃棄土坑として性格を変え，最終的に埋め戻されたと考えられる。

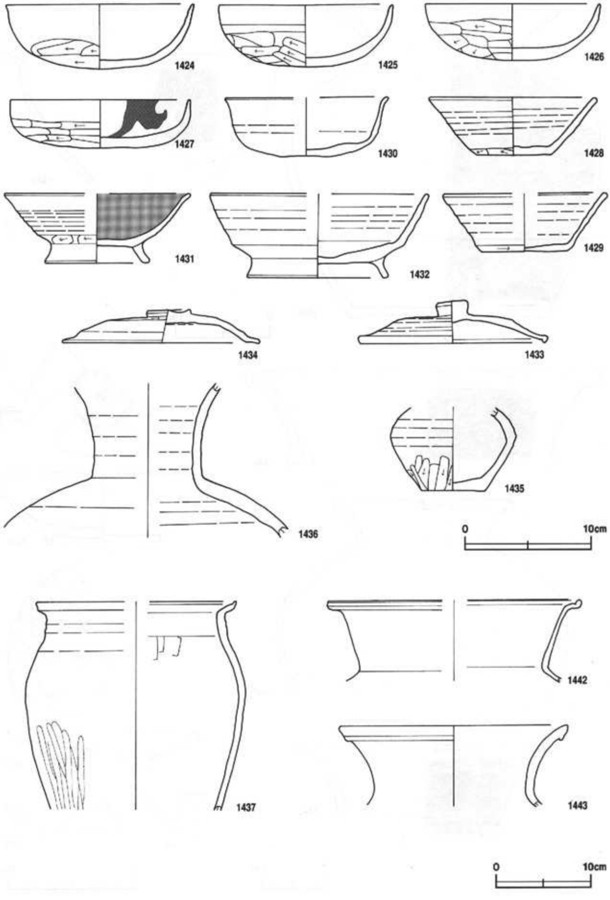
土層解説
1　暗褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ロームブロック微量
4　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5　暗褐色　ロームブロック少量
6　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
8　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
9　暗褐色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
10　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
11　暗褐色　ロームブロック・炭化物微量
12　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
13　褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
14　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
15　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片117点，弥生土器片６点，土師器片2840点（坏1606・高台付坏９・椀２・高坏２・甕1216・甑４・羽釜１），須恵器片682点（坏166・高台付坏９・高坏２・蓋14・短頸壺１・鉢１・甕487・甑２），灰釉陶器片52点（長頸壺７・瓶45），緑釉陶器片10点（輪花椀５・輪花皿５），土製品36点（支脚17・不明19），

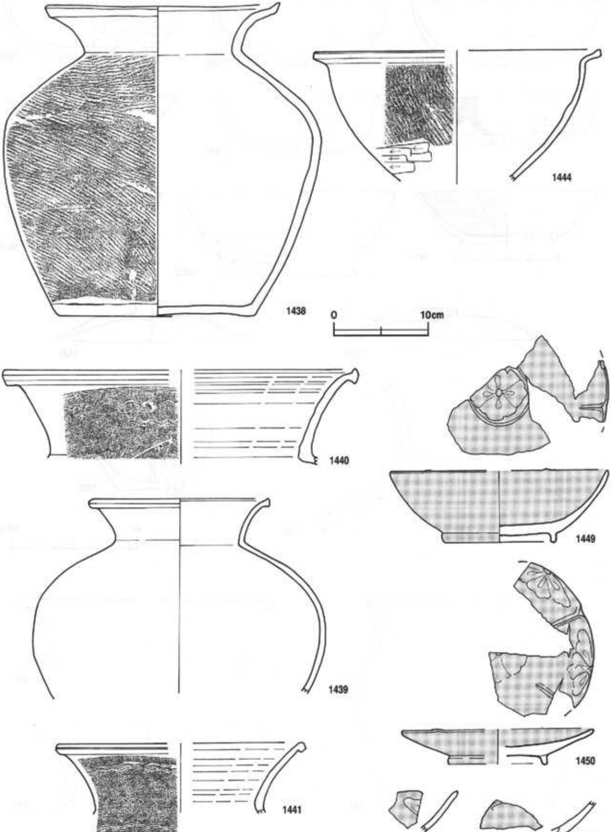


第219図　第１号大型円形土坑実測図

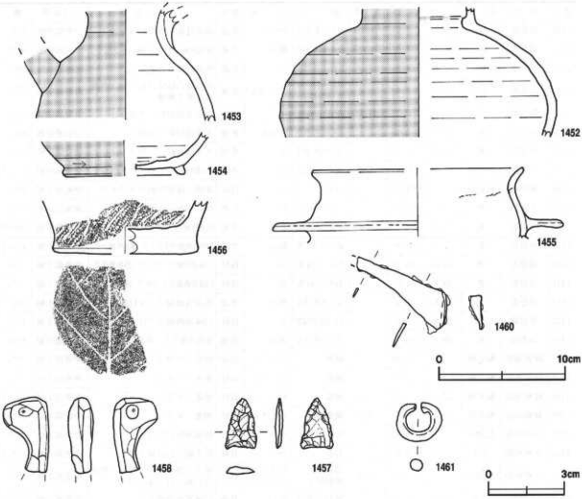
石器・石製品11点（鏃１・石皿１・勾玉１・剥片８），鉄製品３点（鏃２・鎌１），銅製品１点（耳環），礫17点，馬骨が出土している。これらの出土遺物は層位的には覆土中層から上層の人為的に埋め戻された上部からの出土遺物数が90%を占めている。出土位置的にはほぼ中央部に集中して，窪んでいた中央部に投棄された状況が窺える。馬骨は腐蝕が進んで形状や部位の判断が困難な状態であり，四肢骨と思われ骨が東西方向からやや北向きの状態で，中央部の覆土下層から出土しているので，投げ込まれたものか，埋めたものかは不明である。また，古墳時代後期の土師器片が多く出土しているが，周辺に古墳時代後期の住居跡があり，自然又は人為的に埋め戻された埋没過程の中で土中に遺物が含まれていたためと考えられる。



第220図　第１号大型円形土坑出土遺物実測図(1)



第221図　第１号大型円形土坑出土遺物実測図(2)



第222図　第１号大型円形土坑出土遺物実測図(3)

所見　本跡は台地縁辺部に立地し，底面に窪みを持つ擂鉢状の大型円形土坑であることから，氷室状遺構の可能性が高い。覆土中からは，各時代の土器類が多数出土しており，土坑の廃棄後に廃棄土坑として利用されたと考えられる。覆土下層からは馬骨が出土し，本跡の役割が終了と同時または間もなく馬を埋めたと考えられる。時期は細片も含めて覆土最上層が９世紀中葉，覆土上層から中層にかけて８世紀前葉から後葉が多く出土している。中央部の覆土中層から下層では古墳時代後期の遺物が出土しており，これらは馬骨の投棄の際に埋め戻された土の中に含まれたものと考えられる。また，最下層には弥生土器片１点と須恵器蓋１点が出土し，これらも流れ込んだものである。本跡の廃棄の時期は８世紀中葉と考えられ，その後，９世紀中葉で廃棄土坑としての役割を終えたものと考えられる。

第１号大型円形土坑出土遺物観察表（第220・221・222図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　　土	色　　調	焼成	手 法 の 特 徴	出土位置	備　　考
1424	土師器	坏	14.9	5.1	－	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	覆土中	85%
1425	土師器	坏	13.8	4.9	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	中央部中層	95%
1426	土師器	坏	13.8	4.5	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	南部中層	85%
1427	土師器	坏	14.3	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。	南東部中層	75%　口縁部内面タール付着。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1428	須恵器	坏	13.0	4.6	6.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部外面一方向のヘラ削り。	中央部中層	95%
1429	須恵器	坏	[12.8]	4.6	[6.7]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	底部回転ヘラ切り後，ヘラ削り。	中央部中層	60%
1430	須恵器	坏	[12.8]	4.7	8.5	長石・石英・雲母	灰	普通	底部外面ヘラ削り。	北西部中層	30%
1431	土師器	高台付坏	[14.6]	5.5	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	底部高台貼付け後ナデ。内面ヘラ磨き摩滅。	南東部中層	50%
1432	須恵器	高台付坏	[17.0]	6.7	11.2	長石・石英	灰	良好	底部外面回転ヘラ削り。	中央部中層	50%
1433	須恵器	蓋	15.0	3.4	–	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り。	中央部中層	80%
1434	須恵器	蓋	15.6	2.7	–	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部回転ヘラ削り。	中央部下層	90%
1435	須恵器	小形壺	–	(6.5)	5.0	長石・雲母	灰	普通	底部外面一方向のヘラ削り。	中央部中層	45% PL106
1436	須恵器	長頸壺	–	(12.3)	–	長石	灰	良好	頸部・体部両面ロクロナデ。	中央部上層	20%
1437	土師器	甕	[21.0]	(22.0)	–	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。	南東部中層	20%
1438	須恵器	甕	24.2	33.2	20.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	底部外面ナデ。体部外面平行叩き目。	中央部中層	90% PL106
1439	須恵器	甕	27.8	(30.9)	–	長石・石英・礫	暗灰	普通	口縁部両面ロクロナデ。体部外面ナデ。	中央部上層	40% PL106
1440	須恵器	甕	[55.6]	(15.2)	–	長石・石英	灰	良好	口縁部内面ロクロナデ。頸部波状文。	中央部上層	5%
1441	須恵器	甕	[38.8]	(11.0)	–	長石・石英	灰	良好	口縁部両面ロクロナデ。頸部波状文。	中央部上層	5%
1442	須恵器	甕	[26.6]	(8.4)	–	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き目。	中央部上層	20% 二次焼成。
1443	須恵器	甕	[24.0]	(8.5)	–	長石・石英・針状鉱物	灰	良好	口縁部両面ロクロナデ。	中央部上層	10%
1444	須恵器	鉢	[30.4]	(13.7)	–	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内面ナデ。外面平行叩き目。	中央部中層	10%
1447	緑釉陶器	輪花椀	–	(3.2)	–	緻密	灰オリーブ,灰白	良好	釉薬ハケ塗り。	中央部上層	5%
1448	緑釉陶器	輪花椀	–	(2.6)	–	緻密	灰オリーブ,灰白	良好	釉薬ハケ塗り。	中央部上層	5%
1449	緑釉陶器	輪花椀	[17.0]	5.6	[9.0]	緻密	灰オリーブ,灰白	良好	釉薬ハケ塗り。	中央部上層	40% PL107
1450	緑釉陶器	輪花皿	[15.0]	2.7	[7.5]	緻密	オリーブ黄,灰白	良好	釉薬ハケ塗り。	中央部上層	15% PL107
1452	灰釉陶器	長頸壺	–	(10.3)	–	長石・黒色粒子	灰	良好	体部両面ロクロナデ。	中央部上層	30%
1453	灰釉陶器	水注	–	(8.9)	–	長石	灰オリーブ,灰白	良好	把手貼り付け後ナデ。	中央部上層	15% PL106
1454	灰釉陶器	長頸壺	–	(3.3)	[9.4]	長石・黒色粒子	灰オリーブ，灰白	良好	体部下端回転ヘラ削り。底部高台貼り付け後，ナデ。	中央部上層	5%
1455	土師器	羽釜	[16.6]	(5.4)	–	長石・雲母	灰白	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部上層	10% 二次焼成。
1456	弥生土器	壺	–	(4.3)	[11.4]	長石・雲母	灰黄	普通	胴部外面附加条一種附加2条の縄文が施されている。	中央部下層	5%

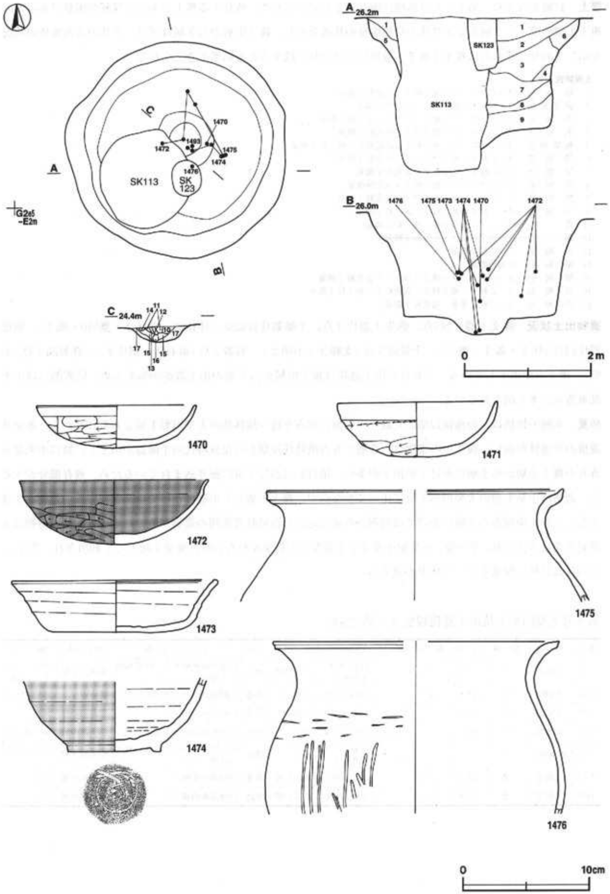
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1457	石鏃	2.0	1.2	0.3	0.6	チャート	主要剥離面を残す押圧剥離。	中央部上層	100%
1458	勾玉	(3.0)	1.8	1.0	(5.9)	滑石	未製品。表裏からの穿貫通穿孔。内彎部研磨。	中央部下層	
1460	鎌	(7.6)	2.1	0.3	(18.6)	鉄	着柄部一部欠損。	中央部中層	PL118
1461	耳環	1.5	1.7	0.5	2.96	銅	銅の地に鍍金	中央部上層	PL118

第2号大型円形土坑（SK118）（第223図）

位置　調査区中央部寄りのＧ２d6区で，台地縁辺部に立地している。

重複関係　北部が第138号住居跡を掘り込み，第113・123号土坑に中央部を掘り込まれている。東部で重複関係のある第124号土坑との新旧関係は，撹乱が大部分を占めているため不明である。

規模と形状　第113号土坑に掘り込まれているが，上面長径3.99m，上面短径3.92mの円形で，深さ164cmの擂鉢状である。底面は長径90cm，短径62cmの楕円形でほぼ平坦を呈し，中央部に深さ24cmの掘り込みを有している。主軸はN－50°－Eであり，壁面は外傾して立ち上がる。また，壁面の東部には方形状の掘り込みが２か所隣接して確認できた。



第223図　第２号大型円形土坑・出土遺物実測図

覆土　17層からなる。第1・2号墓壙に掘り込まれているため，残存する覆土が少なく判断が困難であるが，覆土上層の第1・2層がレンズ状の自然堆積の状況を示し，覆土中層から下層はブロック状の人為堆積の状況を示しており，それらは覆土中層まで数回に分けられて投棄された結果と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
6　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
9　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
12　褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
13　暗褐色　ローム粒子微量
14　暗褐色　炭化物微量
15　暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
16　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
17　黒褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片215点，弥生土器片4点，土師器片1762点（坏1032・高坏2・甕510・甑1），須恵器片14点（坏4・蓋5・甕5），土製品5点（支脚3・不明2），石器3点（敲石1・剥片2），鉄製品1点（不明），礫2点が出土している。これらの出土遺物は覆土中層から上層の出土数が90%を占め，位置的には中央部東寄りに多く出土している。

所見　本跡の性格は，台地縁辺部に立地して底面に窪みを持つ擂鉢状の大型円形土坑であることから，氷室状遺構の可能性が高い。覆土中の遺物は，各層とも古墳時代後期から奈良時代の土師器が出土し，特に中央部東寄りの覆土中層から上層にかけての出土が多い。第113・123号土坑に掘り込まれているため，残存部分が少なく，遺物出土量も他の大型円形土坑に比べて少ないが，覆土上層から中層にかけては8世紀中葉の遺物が主体をなし，覆土中層から下層にかけては周囲から流れ込んだ古墳時代後期の遺物が多い。本跡の廃絶の時期は8世紀中葉と考えられ，その後，8世紀中葉まで土器などの投棄が行なわれた廃棄土坑として利用され，さらに，その後は自然に埋まるという状況が窺える。

第2号大型円形土坑出土遺物観察表（第223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1470	土師器	坏	12.6	3.5	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	中央部下層	100%　両面タール付着。
1471	土師器	坏	12.6	4.3	－	長石・石英	赤褐	普通	口縁部両面横ナデ。底部外面ヘラ削り。	覆土中	75% PL107
1472	土師器	坏	14.9	5.1	－	長石・石英	灰褐	普通	口縁部両面横ナデ。	北西部中層	70%
1473	須恵器	坏	16.2	4.1	10.0	長石・石英	黄灰	良好	底部外面回転ヘラ削り。	中央部中層	90% PL106
1474	灰釉陶器	壺	－	(5.5)	7.4	長石・黒色粒子	灰白	良好	底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後，ナデ．	中央部下層	10% PL107
1475	土師器	甕	[23.4]	(8.7)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	5%
1476	土師器	甕	[22.6]	(13.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	20%

第3号大型円形土坑（SK250）（第224～226図）

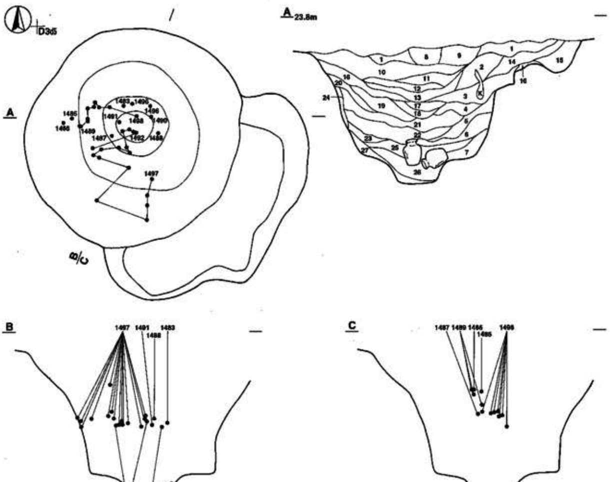
位置　調査区北部のＤ３d5区に位置し，台地縁辺部に立地している。

規模と形状　上面長径3.52m，上面短径3.32mの円形を呈し，深さ2.00mの擂鉢状である。底面は径1.12mの円形でほぼ平坦を呈し，深さ20cmの掘り込みを有している。主軸はＮ－37°－Ｅであり，壁面は外傾して立ち上がる。南東部の上面には長径3.92m，短径1.28mの楕円形で深さ約40cmのテラス状の掘り込みがあり，土層断面図を検討すると，本跡と関連のある施設である可能性がある。

覆土　27層からなる。ブロック状の人為堆積の状況を示している。

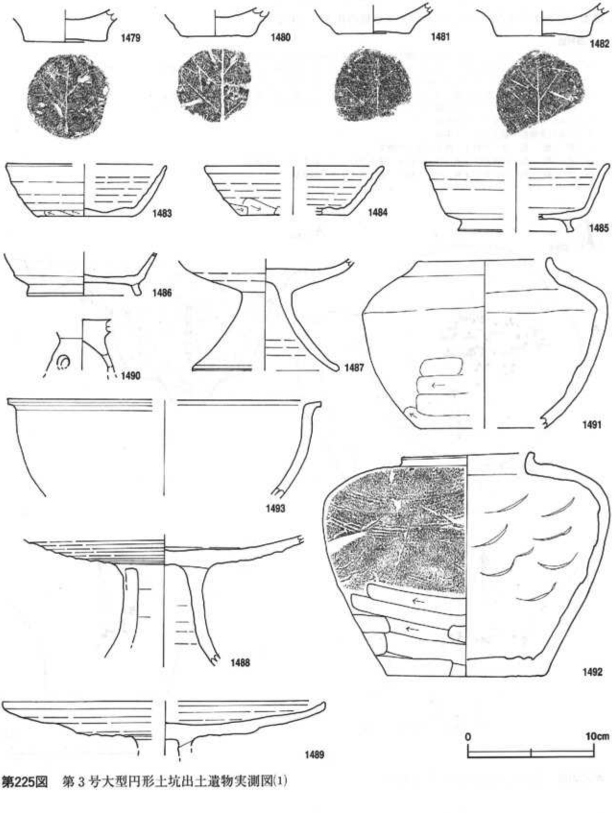
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック微量
2	黒褐色	白色粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土ブロック・礫微量
3	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・白色粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
4	暗褐色	白色粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・礫微量
5	暗褐色	粘土ブロック少量，ローム粒子微量
6	にぶい黄褐色	粘土ブロック少量
7	にぶい黄褐色	粘土ブロック中量
8	黒褐色	ローム粒子・焼土ブロック微量
9	暗褐色	白色粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック微量
10	黒褐色	白色粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック・礫微量



第224図　第3号大型円形土坑実測図

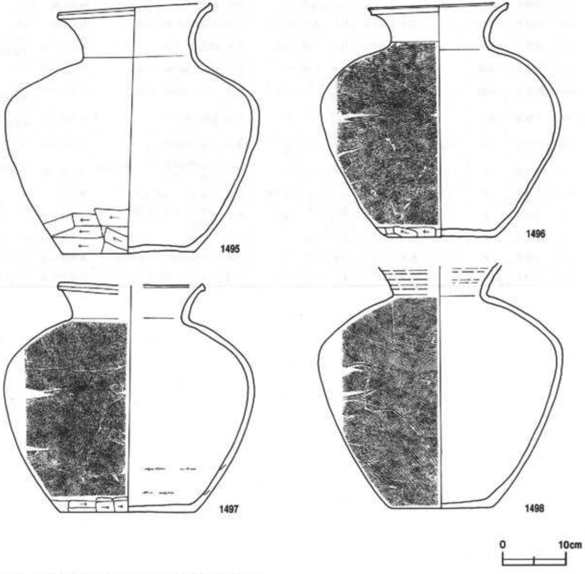
11 黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック微量
12 黒　褐　色　白色粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
13 黒　褐　色　ロームブロック・白色粒子少量，焼土粒子・炭化物・礫微量
14 暗　褐　色　ローム粒子・砂粒中量，白色粒子微量
15 黒　褐　色　白色粒子中量，ロームブロック・粘土ブロック・砂粒少量
16 にぶい褐色　砂粒多量，粘土ブロック中量，ローム粒子少量
17 灰　褐　色　白色粒子・砂粒中量，ローム粒子・炭化材・炭化物・灰少量，焼土粒子・礫微量
18 暗　褐　色　白色粒子中量，ローム粒子・粘土ブロック・礫少量，焼土ブロック・炭化材・炭化物微量



第225図　第３号大型円形土坑出土遺物実測図(1)

19　暗　褐　色　白色粒子中量，ローム粒子少量，炭化材・炭化物微量
20　暗　褐　色　白色粒子中量，ローム粒子・粘土ブロック微量
21　暗　褐　色　粘土ブロック・白色粒子中量，ローム粒子少量，炭化物微量
22　暗　褐　色　粘土ブロック中量，ロームブロック・白色粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
23　暗　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック少量
24　暗　褐　色　ローム粒子中量，粘土ブロック・白色粒子微量
25　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量
26　暗　褐　色　ロームブロック多量，粘土ブロック中量
27　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック中量，白色粒子少量，赤色粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片２点，土師器片252点（坏101・椀１・蓋３・壺８・高坏１・甕137・甑１），須恵器片840点（坏74・高台付坏８・皿７・盤６・高盤７・高坏５・蓋５・鉢16・壺18・長頸壺１・甕675・甑18），土製品６点（支脚４・不明２），石器３点（敲石１，凹石１，砥石１），鉄滓１点，礫45点，木片１点が出土している。これらの遺物は中央部西寄りを中心に多く出土し，覆土上層から中層では58%を占めている。器種的には第１号大型円形土坑が坏・高台付坏などの供膳用器が多いのに対し，本跡は壺・甕などの貯蔵用器が多く出土し，器種別に投棄した可能性がある。1492の須恵器短頸壺は，本跡から出土した大部分と，第１号大型円形土坑から出土した破片が接合されたものである。



第226図　第３号大型円形土坑出土遺物実測図(2)

所見　本跡の性格は台地縁辺部に立地し，底面に窪みを持つ擂鉢状の大型円形土坑であることから，氷室状遺構の可能性が高い。覆土各層からは古墳時代後期から奈良時代の土師器が出土しているが，特に中央部の覆土中層から上層にかけて多く出土している。覆土上層から中層では８世紀中葉の遺物がほとんどで，覆土中層から下層にかけて古墳時代後期の遺物も多く出土しているが，これは埋め戻された時に混入したものと考えられる。本跡に投棄された土器と第１号大型円形土坑に投棄された土器とが接合した例から，同時期に存在した可能性もあり，本跡の廃絶の時期は８世紀中葉と考えられる。

第３号大型円形土坑出土遺物観察表（第225・226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1479	土師器	甕	－	(2.5)	6.6	長石・石英	明赤褐	普通	体部内面ナデ。底部木葉痕。	覆土中	5％
1480	土師器	甕	－	(2.2)	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部木葉痕。	覆土中	5％
1481	土師器	甕	－	(2.3)	6.0	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ。底部木葉痕。	覆土中	5％
1482	土師器	甕	－	(2.0)	7.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナデ。底部木葉痕。	覆土中	5％
1483	須恵器	坏	[12.6]	4.1	7.8	長石・石英	灰	普通	底部外面一方向のヘラ削り。	中央部中層	80% PL107
1484	須恵器	坏	[14.2]	3.9	[8.4]	長石・石英	灰	良好	底部外面ヘラ削り。	覆土中	20%
1485	須恵器	高台付坏	[14.6]	5.4	[9.0]	長石・針状鉱物	灰	良好	底部外面ヘラ削り，高台貼り付け後，ナデ。	西部上層	20%
1486	須恵器	高台付坏	－	(3.4)	8.8	長石・雲母	暗灰黄	普通	底部外面回転ヘラ削り。	西部上層	40%
1487	須恵器	高坏	－	(8.3)	[11.4]	長石・雲母	黄灰	普通	脚部内・外面ロクロナデ。	中央部中層	60%　内・外面摩滅。
1488	須恵器	高盤	－	(9.4)	－	長石・石英	灰	良好	体部下端回転ヘラ削り。	中央部中層	50%
1489	須恵器	高盤	[25.2]	(3.6)	－	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り。	中央部中層	40% 両面摩滅。
1490	土師器	器台	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部内面ナデ。	中央部下層	10% 両面摩滅。
1491	須恵器	壺	10.0	13.3	[10.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部両面横ナデ。	中央部中層	80%　両面摩滅。二次焼成。PL107
1492	須恵器	壺	10.5	17.8	12.7	長石・石英	灰	良好	口縁部両面横ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	中央部中層	85% PL108
1493	土師器	鉢	[24.8]	(7.7)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。	覆土中	10%
1495	須恵器	甕	24.3	39.6	21.0	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部・頸部両面横ナデ。体部内面ナデ。	中央部下層	90% PL108
1496	須恵器	甕	22.0	37.3	17.0	長石・石英	灰	普通	口縁部両面ロクロナデ。体部内面ナデ。	中央部中層	90% PL107
1497	須恵器	甕	[22.4]	36.6	21.2	長石・石英	灰	普通	口縁部両面横ナデ。体部内面ナデ。	南東部中層	70% PL107
1498	須恵器	甕	－	(38.3)	17.0	長石・石英	灰黄	普通	口縁部・頸部両面ロクロナデ。	中央部中層	80% PL107

茨城県教育財団文化財調査報告第182集

上 野 陣 場 遺 跡
（上　巻）

平成14（2002）年３月20日　印刷
平成14（2002）年３月25日　発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
〒310-0911　水戸市見和１丁目356番の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

印刷　㈲川田プリント
〒310-0041　水戸市上水戸４丁目６番の53
TEL　029－253－5551